

博士前期課程

シラバス

(令和8年度)

2026

日本大学大学院総合社会情報研究科

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- ・ **日本の特質を理解し伝える力**
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- ・ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- ・ **社会に貢献する姿勢**
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- ・ **問題発見・解決力**
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- ・ **コミュニケーション力**
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- ・ **リーダーシップ・協働力**
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- ・ **省察力**
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： Basic		中上級領域： Intermediate and Advanced		
		1	2	3	4	
		自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。
A-2：世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。			世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力		仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。
	A-4：問題発見・解決力		事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。	創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力または他者と協働して問題を解決することができる。
	A-5：挑戦力		新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て、準備することができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
自ら道をひらく	A-6：コミュニケーション力		親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い、他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
	A-7：リーダーシップ・協働力		集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者として他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
	A-8：省察力		自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況を自己分析し、その成果を評価することができる。	学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。

—目 次—【文化情報専攻】

必修科目

文化情報論特講	島田めぐみ・秋草俊一郎	1
---------	-------------	---

文化研究コース

比較文学特講	秋草俊一郎	4
世界文学特講	秋草俊一郎	7
翻訳論特講	秋草俊一郎	10
メディア文化論特講	今井 亮一	13
日本文化論特講Ⅰ	野口 恵子	16
日本文化論特講Ⅱ	山崎真紀子	19
日本文化論特講Ⅲ	鍋本 由徳	22
アジア文化論特講	清水 享	25
英語圏文化論特講	猪野 恵也	28

言語教育研究コース

言語教育学特講	伊藤 秀明	31
言語教育学特講	小林和歌子	34
言語教育研究特講	島田めぐみ	37
言語学特講	保坂 道雄	40
異文化間コミュニケーション論特講	小川 直人	43
社会言語学特講	石部 尚登	46
第二言語習得論特講	田嶋 倫雄	49
言語教育工学特講	保坂 敏子	52
言語教育デザイン論特講	萩原 幸司	55
日本語学特講	吉田 敬	58
日本語教育方法論特講	島田めぐみ	61
日本語教育研究法特講	野田 尚史	64
英語学特講	川嶋 正士	67
英語教育方法論特講	ロックリー・トーマス	70

専攻共通科目

調査分析特講	田中堅一郎	73
統計基礎Ⅰ	佐藤 友彦	76
統計基礎Ⅱ	佐藤 友彦	79
行動経済学特論	米田 紘康	82

文化情報専攻

(シラバス)

シラバス

シラバスには、教材の概要・参考図書・履修上のポイント・レポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

レポートの提出期限は、9月・1月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	文化情報論特講	担当者	シマダ メグミ 島田 めぐみ アキクサ シュンイチロウ 秋草 俊一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	---------	-----	---	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	文化情報専攻での研究活動を行う際に必要なリテラシーの涵養を目的とする。具体的には、テキストを対象とする文化研究、言語と文化の教育・学習活動を対象とする言語教育研究の基盤となる文化観の様相の理解、ならびに、研究方法や研究倫理に関する基本的な知識や認識の獲得を目指す。本講義において2つのコースの領域横断的な資質・能力を学修し、各自の特別研究において領域固有の資質・能力を身に付ける。以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考能力をはじめ、倫理観、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身に付けることを目指す。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 文化情報分野において研究・論文作成をするのに必要な資質・能力を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ・文化研究、および、言語教育研究の基盤となる文化観・文化の捉え方の様相について説明できる。 ・ある文化の捉え方について、別の文化観と比較できる。 ・近年の翻訳研究の考え方を理解し、具体的な事例が説明できる。 ・修士論文の作成に必要な先行研究・情報の収集方法や研究倫理、それぞれの分野の研究の進め方について理解し、自律的に論文作成に適用できる。 ・学術的な用語を正確に使い、剽窃を避けて注や引用などを適切に用いることができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 <通信授業(在宅学習):基本教材1> 担当:秋草俊一郎 ・前期は基本教材1の(1)を熟読、後期は基本教材1の(2)を熟読して、参考図書等も参照しながら、レポート課題1と2を作成する。(自習・自主研究・レポート作成) ・レポート作成後は、manaba folioを使って、教師の個別添削指導を受けたあと、必要に応じてさらに改訂したものを最終稿とする。(レビュー、自己レビュー、レポート作成) <スクーリング:基本教材2> 担当:島田めぐみ ・2025年5月3日～5月5日に3日間実施されるスクーリング(集中対面授業)に参加する(単位取得要件)。(ディベート) ・スクーリング後、期限までにレポート課題をmanaba folioに提出する。(レポート作成) <学修時間> 在宅学修では、各レポート課題につき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする;1)教材の学修;20時間、2)レポート執筆;10時間、3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導を含む);15時間。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioを利用して、インタラクティブな個別指導や協働学習を行う。 ・スクーリングでは、グループワークやディスカッションを行う。</p>		
スケジュール	<p>本講義は大学院の初年度教育に相当するので、初年度に履修すること。 <通信授業(在宅学習)2単位分:基本教材1> 担当:秋草俊一郎 ・前期:レポート課題1 締切:6月15日(初稿)・学事暦で定められた前期締切日(最終稿) ・後期:レポート課題2 締切:10月15日(初稿)・学事暦で定められた後期締切日(最終稿) <スクーリング 2単位分> 2025年5月2日～5月4日(必要に応じて、オンラインを併用する) 1) 研究、及び論文作成に必要なリテラシー(三専攻合同講義, 担当:専攻主任) 2) 文化情報専攻分野における様々な課題(担当:各科目担当教員) ・スクーリング・レポート課題1 締切:8月第1週(初稿のみ) ・スクーリング・レポート課題2 締切:8月末(初稿のみ)</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	通信授業 (在宅学習)	レポートの内容その他(期日を守れているか、こちらの添削や要請に応じられているかなど)で評価する。なお、①最終期日までにレポートがまったく提出されない場合評価外(0点)とする。②草稿を一度も出すことなく、期日間際に提出した場合、そのレポートの評価はC以下とする。	50%
	スクーリング	レポート40%(課題1 10%, 課題2 30%(論旨, 構成, 独創性, 論文作成スキル)), 観察記録10%(参加状況, 期限遵守)	50%
履修者への要望	<p>・通信授業(在宅学習)のレポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、推敲、最終稿の完成と段階的に進める。 ・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数(参考文献、注を除いたもの)を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1(通信授業/在宅学習用)	
教材の概要	著者名：①マシュー・レイノルズ ②ローレンス・ヴェヌティ 教材名：①『翻訳 訳すことのストラテジー』秋草俊一郎訳、白水社 ②『翻訳のスキヤンダル 差異の倫理にむけて』秋草俊一郎・柳田麻里訳、フィルムアート社 教材①は、社会全般における「翻訳」について広くとらえたとうえで、その役割について紹介した入門的な内容。 教材②は、アメリカ人芸翻訳者・翻訳研究者である著者が、社会において翻訳（翻訳者）がおかれた厳しい状況について論じた内容。各章は人文系の本格的な論文になっており、相当に読みごたえがあるが、忍耐強くとりくんでほしい。
参考図書	基本図書①の171ー178頁に参考文献があげられているので、そちらを参照してほしい。
履修上のポイント	「翻訳」は捉え方次第で生活・社会のあらゆる分野に浸透しており、そこでさまざまな権力にさらされている。その役割に意識的になることで、隠された社会の断層に気付くことができるはずである。②に関して、388頁に誤植があり、「異化/同化 domestication/foreignization」となっているが、本当は「同化/異化 domestication/foreignization」なので注意されたし。
レポート課題1	課題①ー1：教材①の中から一つの章をまとめ、そこで述べられている「翻訳」の捉え方について、自分の言葉でわかりやすく説明する。（800字程度） 課題①ー2：そのうえで、自分の関心事からそのような「翻訳」の事例をとりあげて、教材の内容と関連づけながら論じなさい。（引用や書誌情報をのぞいた本文2500字程度） 留意点：要約・説明については教材の丸写し、単語の切りばりにならないように気を付けること。教材や先行研究を参照・引用する場合、出典をきちんと（場合によっては何頁から引用したのかまで）明記すること。
レポート課題2	課題②ー1：教材②の中から一つの章をまとめ、そこで述べられている「翻訳」の捉え方について、自分の言葉でわかりやすく説明する。（800字程度） 課題②ー2：そのうえで、自分の関心事からそのような「翻訳」の事例をとりあげて、教材の内容と関連づけながら論じなさい。（引用や書誌情報をのぞいた本文2500字程度） 留意点：要約・説明については教材の丸写し、単語の切りばりにならないように気を付けること。教材や先行研究を参照・引用する場合、出典をきちんと（場合によっては何頁から引用したのかまで）明記すること。

基本教材 2(スクーリング)	
教材の概要	著者名：戸田山和久 教材名：『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHK出版、2012） ISBN: 978-4-14-091194-5 1,200円+税 論文を書くための基本的事項が丁寧にわかりやすくまとめられている。大学生向けの書籍であるが、修士論文執筆に必要な内容が網羅されている。
参考図書	佐藤望編著 『アカデミック・スキルズ (第2版) —大学生のための知的技法 入門』（慶應義塾大学出版会、2012） ISBN-13: 978-4766419603 1,080円（税込）
履修上のポイント	スクーリング前半においては、①研究及び論文の最低条件を理解し、②研究を進めるための基本的なスキルを身につけるとともに、③研究及び論文作成のモチベーションを高めることを目指す。後半においては、各分野に共通する基礎的な課題を学際的に考察して、研究基盤となる知識・教養の習得に努める。いずれにおいても、事前の準備と講義中の発言及び質問など積極的な姿勢が求められる。
レポート課題1	スクーリングの合同講義と専攻別講義の概要をまとめ、自分の意見を論じる。（1500字程度） 留意点：それぞれの講義についても簡潔にまとめること。
レポート課題2	各分野の研究手法の講義や参考図書、スクーリングでの発表と討論を踏まえて、研究計画書をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出する。（3000字～4000字） 留意点：必ず指導教員のレビューを受けてから、manaba folioに提出すること。

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材①のi～iii
第2回	教材の学修：基本教材①のiv～v
第3回	教材の学修：基本教材①のvi～vii
第4回	レポート課題①：初稿の作成
第5回	レポート課題①：添削指導に対する修正①
第6回	レポート課題①：添削指導に対する修正②
第7回	レポート課題①：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材②の1～2章
第9回	教材の学修：基本教材②の3～4章
第10回	教材の学修：基本教材②の5～6章
第11回	教材の学修：基本教材②の7～8章
第12回	レポート課題②：初稿の作成
第13回	レポート課題②：添削指導に対する修正①
第14回	レポート課題②：添削指導に対する修正②
第15回	レポート課題②：最終稿の作成

基本教材2

第1回	三専攻合同講義 専攻主任が 分担して担当	「研究及び論文に求められるもの」(加藤孝治, 釋文雄)
第2回		「論文作成の基礎と先行研究のレビュー」(島田めぐみ)
第3回		「主な研究スタイルと論文の構成－研究目的の決め方と論証・検証の方法－」(神井弘之)
第4回		「研究・論文についての意見交換①」(神井弘之, 島田めぐみ, 釋文雄)
第5回		「研究・論文についての意見交換②」(神井弘之, 島田めぐみ, 釋文雄)
第6回		研究倫理1(釋文雄, 北村世都)
第7回		研究倫理2(島田めぐみ)
第8回	文化情報専攻 講義の順番は 変更される 可能性がある	「世界文学論」(秋草俊一郎)
第9回		「社会言語学」(石部尚登)
第10回		「英語圏文化論」(猪野恵也)
第11回		「アジア文化論」(清水 享)
第12回		「第二言語習得論」(田嶋倫雄)
第13回		「日本文化論」(野口恵子)
第14回		「言語教育研究」(島田めぐみ)
第15回		「日本語教育方法論」(島田めぐみ)

※各講義については、1回あたり90分で実施する。

科目名	比較文学特講	担当者	アキクサ シュンイチロウ 秋草 俊一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	--------	-----	------------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	21世紀の現在、国外で活躍する作家や、旧植民地にルーツがある作家が増えてきている。そのような作家の書く文学を指して、国文学を内包するものとして「日本語文学」と呼ぶこともある。そのような作家の言語に対する態度を記したエッセイや、その作品を実際に読むことで、母語を相対化する視点が文学作品にどのような影響をあたえるのか考えてみたい。そのような文学作品を熟読することは、当然ながら、わが国の「国語文化」を再考する機会にもなるだろう。同時に、現代における「国語」あるいは「国文学」ということば・概念の持つ意味を再考したい。文学以外が専門の受講生も歓迎する。以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身につけることを目指す。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 現在、文学を学ぶ上で重要な概念であるバイリンガリズムやポストコロニアリズムについて理解し、それが国語を構成する文学表現としてどう使われるのか知ること。またレポートの文章表現も、内容にふさわしい高いレベルを達成すること。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 論文を書く上で必要な学術的な用語を正確に使えるようになること。文芸作品を精読し、自分のことばで分析できるようになること。注や、学術的な転居の示し方を正確に行えるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間 レポート執筆：15時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システムであるLMSを用いる。</p>		
スケジュール	<p>6月10日までに教材1のレポート課題(1)初稿を提出。 7月10日までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 8月10日までに教材1のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材1のレポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10月10日までに教材2のレポート課題(1)初稿を提出。 11月10日までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 12月10日までに教材2のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材2のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。	80%
	観察記録	メール、LMS等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。	20%
履修者への要望	レポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し、可能な範囲で関係資料を参考にして課題にとりくむこと。引用については盗用にならないよう十分注意してほしい。LMSのコミュニティや掲示板でのディスカッションなど、積極的な参加を求める。ピアレビューは参加者の人数を見て実施する。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：多和田葉子 教材名：『エクソフォニー——母語の外へ出る旅』（岩波現代文庫，2012） ISBN 978-4006022112 860円＋税 『かかとを失くして 三人関係 文字移植』（講談社文芸文庫，2014） ISBN 978-4062902274 1500円＋税</p> <p>多和田葉子は、ドイツで活躍する日本語・ドイツ語のバイリンガル作家であって、国際的な文学賞を数々受賞し、ノーベル賞に近いとも言われている。その代表的な評論と作品である。</p>
参考図書	多和田葉子『言葉と歩く日記』（岩波新書，2013），ISBN 978-4004314653 760円＋税
履修上のポイント	「エクソフォニー」という多和田葉子による造語が意味する概念をつかんだうえで、その作品を読んでみてほしい。
レポート課題1	『エクソフォニー』を読んで、そこに書かれている著者の母語と外国語に対する考え方をまとめたうえで、それに対する自分の意見を述べなさい。（2000字以上） 留意点：単純にあらすじを述べるだけにならないよう留意しなさい。
レポート課題2	『かかとを失くして 三人関係 文字移植』に収められた短編のうち、どれか一作品を選び、作品について自由に論じなさい（引用・注・参考文献をのぞいて3500字以上，上限なし）。 留意点：①教材以外の参考文献・先行研究・他作品を最低二つ以上あげ、自説を説得的なものにすること，②選んだ作品からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：温又柔 教材名：『台湾生まれ 日本語育ち』（白水社，2015），ISBN 978-4560084793 1,900円＋税 『来福の家』（白水社，2016），ISBN 978-4560072080 1,400円＋税</p> <p>温又柔は1980年生まれの比較的若い台湾出身の作家（母語は日本語）の作家である。</p>
参考図書	リービ英雄『日本語を書く部屋』（岩波書店，2011），ISBN 978-4006021917 860円＋税
履修上のポイント	「台湾生まれ 日本語育ち」という著者のアイデンティティはどこにあるのか，場合によってはアメリカ出身の日本語作家リービ英雄とも比較しながら考えてみてほしい。
レポート課題1	『台湾生まれ 日本語育ち』を読んで、著者の母語と外国語に対する考え方をまとめたうえで、それに対する自分の意見を述べなさい。（2500字以上） 留意点：単純にあらすじを述べるだけにならないよう留意しなさい。また前期の多和田の態度とくらべるなど工夫してほしい。
レポート課題2	『来福の家』を読み、作品について論じなさい。その際、自分で現代の「移民文学」を一作品選び（ただし温・多和田の作品以外），その作品の内容を紹介し、温の作品と比較しながら論じること。（引用・参考文献・注をのぞいて5000字以上） 留意点：①教材以外の参考文献・先行研究・他作品を最低三つ以上あげ、自説を説得的なものにすること，②『来福の家』からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の学修
第2回	教材の学修：基本教材1の学修
第3回	教材の学修：基本教材1の学修
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1の学修
第9回	教材の学修：基本教材1の学修
第10回	教材の学修：基本教材1の学修
第11回	教材の学修：基本教材1の学修
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の学修
第2回	教材の学修：基本教材2の学修
第3回	教材の学修：基本教材2の学修
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材2の学修
第9回	教材の学修：基本教材2の学修
第10回	教材の学修：基本教材2の学修
第11回	教材の学修：基本教材2の学修
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	世界文学特講	担当者	アキクサ シュンイチロウ 秋草 俊一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	--------	-----	------------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	欧米における文学・文化の潮流を理解するために「世界文学」の考え方を学ぶ。また、人文学全般の思考の枠組みを理解するために、現在の欧米圏の学術書の文献の水準を理解できるようになることを目標とする。以上を達成することにより、狭義の文学・文化のみならず、その流通や出版、さらには論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、省察力を身に付けることを目指す。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 現在、重要な潮流である世界文学について理解し、それがどのようなディシプリンとして構成されているのか知ること。またレポートの文章表現も、内容にふさわしい高いレベルを達成すること。 【行動目標(SBOs)】 論文を書く上で必要な学術的な用語を正確に使えるようになること。理論書・文芸作品を精読し、自分のことばで分析できるようになること。		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間 レポート執筆：15時間 レポート推敲(教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システムであるLMSを用いる。		
スケジュール	前期：6月10日までに教材1のレポート課題(1)初稿を提出。 7月10日までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 8月10日までに教材1のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材1のレポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10月10日までに教材2のレポート課題(1)初稿を提出。 11月10日までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 12月10日までに教材2のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材2のレポート課題(2)最終稿を提出。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。	80%
	観察記録	メール、LMS等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。	20%
履修者への要望	・基本教材1のレポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバック・相互学習による推敲、最終稿の完成と段階的に進めること。上述したレポートの切日より提出が遅れた場合は、成績が低くなることに留意すること。引用については盗用にならないように重々注意すること(悪質な場合は単位が取得できなくなる)。教材は一時的に品切れになってしまっていることもあるが、図書館や古書店の利用なども考慮してほしい。		

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	著者名：デイヴィッド・ダムロッシュ 教材名：『世界文学とは何か?』(国書刊行会, 2011) ISBN:978-4-33-605362-6 5,600円+税 「世界文学」という概念を、現代のアメリカの文脈で論じたもので、時代・地域・言語もさまざまな表現活動を「生産・流通・翻訳」という三つの観点から分析している。
参考図書	秋草俊一郎『「世界文学」はつくられる——1827-2020』東京大学出版会、2020年。
履修上のポイント	21世紀において、文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が「世界文学」と言うとき、前提とされている歴史的な問題はなんなのか、考えてみてほしい。
レポート課題1	『世界文学とは何か?』における文化・文学の「流通」、「翻訳」の考え方について説明したうえで、一つ以上の章をとりあげて要約しなさい。説明と要約は自分のことばで行い、教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ800字以内程度におさめること。 留意点：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。
レポート課題2	課題図書のアプローチを参考にして、具体的な一つ以上の作品について論じなさい。扱う作品は『世界文学とは何か?』で扱われていない文学作品(小説あるいは詩)とする。扱う作品からの引用を二カ所以上、適切な方法で行うこと。 参考文献・注・引用をのぞいた本文4,000字以上とする。出典の記載方法は問わないが、出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること。 留意点：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：フランコ・モレッティ 教材名：『遠読——<世界文学システム>への挑戦 新装版』 (みすず書房, 2024) ISBN-13: 978-4622097273 4,600円+税 現代において文学を論じるうえで、ひとつの作品を丁寧に時間をかけて読む「精読」ではなく、統計や二次資料などを活用した「遠読」という新しい手法を提唱している。
参考図書	パスカル・カザノヴァ『世界文学空間』（藤原書店, 2002） ISBN: 978-4894343139 8,800円+税
履修上のポイント	21世紀において、文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が精読にたいして「遠読」と言うとき、前提とされている歴史的な問題はなんなのか、考えてみてほしい。
レポート課題1	『遠読』における「遠読」の考え方について説明したうえで、一つ以上の章をとりあげて要約しなさい。説明と要約は自分のことばで行い、教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ800字以内程度におさめること。 留意点：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。
レポート課題2	課題図書のアプローチを参考にして、具体的な作品（複数、あるいはその一部）について論じなさい。扱う作品は『遠読』で扱われていない文学作品（小説あるいは詩）とする。扱う作品からの引用を二カ所以上、適切な方法で行うこと。参考文献・注・引用をのぞいた本文4,000字以上とする。出典の記載方法は問わないが、出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること。 留意点：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の序章～1章
第2回	教材の学修：基本教材1の2章～3章
第3回	教材の学修：基本教材1の4章～5章
第4回	教材の学修：基本教材1の6章～7章
第5回	教材の学修：基本教材1の8章～終章
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポートで扱う作品の選定と読解
第11回	レポートで扱う作品の読解と先行研究の調査
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の1章～2章
第2回	教材の学修：基本教材2の3章～4章
第3回	教材の学修：基本教材2の5章～6章
第4回	教材の学修：基本教材2の7章～8章
第5回	教材の学修：基本教材2の9章～10章
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポートで扱う作品の選定と読解
第11回	レポートで扱う作品の読解と先行研究の調査
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	翻訳論特講	担当者	アキクサ シュンイチロウ 秋草 俊一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	-------	-----	------------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	文芸翻訳実践演習。現代アメリカの作家のごく短い短編を、前期と後期で一編ずつ訳していく。邦訳のない作品を選ぶので、ある程度の覚悟をもって臨んでほしい。文学研究プロパー以外の受講を歓迎するが、扱う作家のほかの邦訳済みの作品を自分で読んでみるなど、文体について研究してみること。あたりまえだが、たんなる英文和訳ではなく、「小説」として読むにたえるレベルのものを目指してほしい。以上を達成することにより、外国語の運用能力、辞書や事典などを活用した調査力、論理的・批判的思考能力をはじめ、高度な文章力、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 英文和訳と文芸翻訳の違いを理解する。現代アメリカの小説に親しむ。 【行動目標(SBOs)】 作家特有の文体を認識し、日本語に置きかえることができるようになること。適切な辞書・事典など資料を活用できるようになること。		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間 リポート執筆：15時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システムであるLMSを用いる。学習者の数によってはピアレビューを用いる。		
スケジュール	前期：6月10日までに教材1のレポート課題(1)初稿を提出。 7月10日までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 8月10日までに教材1のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材1のレポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10月10日までに教材2のレポート課題(1)初稿を提出。 11月10日までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 12月10日までに教材2のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材2のレポート課題(2)最終稿を提出。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、文芸翻訳として通用するか評価する。	80%
	観察記録	メール、LMS、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。	20%
履修者への要望	レポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し、可能な範囲で関係資料を参考に課題にとりくむこと。LMSのコミュニティやピアレビューなど、積極的な参加を求める。例年、課題2に対していい加減な態度で接する学生が多い。辞書を引いていない、推敲不足と判断した場合、学生の怠慢と見なし、履修中止を求めることもある。受講者の要望によっては追加の課題を課すこともある。その場合、教材については相談のいるが、外国語書籍の入手方など、今のうちに習熟してほしい。「文芸」翻訳の授業であるので、課題の作品に興味がなく、英語学習だけを目的とした学生にはすすめられない（単位取得できない可能性が高い）。		

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	著者名：Charles Bukowski 教材名：Betting on the Muse: Poems & Stories ISBN: 978-1574230024 著者チャールズ・ブコウスキー（1920—1994）はカリフォルニアを中心に活動した詩人・作家。酒と女を好み、学校システムからドロップアウトしてその日暮らしの生活をおくった自分の実人生を題材にした作品をおおく書いた。
参考図書	チャールズ・ブコウスキー『くそつたれ! 少年時代』（河出文庫） チャールズ・ブコウスキー『町でいちばんの美女』（新潮社）
履修上のポイント	教材はamazon.co.jpなどで購入できる（kindle版でももちろん可）。ブコウスキーの一見荒っぽいけど、繊細な言葉遣いを、それなりの雰囲気ですすために、上記にあげた既訳を大いに参考にしてほしい。初稿をLMSに提出し、受講生同士でピアレビューののち、最終稿を提出すること（ただし、受講者の人数によっては教員がドラフトも添削する）。
レポート課題1	短編“My Madness”の前半（p. 334からp. 335の上から四行目）までを訳しなさい。また、基本教材1から別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800字以上）。 留意点：翻訳は小説として読めるように訳しなさい。
レポート課題2	短編“My Madness”の後半（p. 335の上から五行目からp. 336）までを訳しなさい。また、基本教材1からさらに別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800字以上）。 留意点：翻訳は小説として読めるように訳しなさい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：Aleksandar Hemon 教材名：“Door to Door”（教材を配布します）
	著者アレクサンダル・ヘモン（1964—）はサラエヴォ出身の作家。1992年のシカゴ滞在中にボスニア紛争が勃発し、アメリカに移住し、英語作家として作品を発表するようになる。
参考図書	アレクサンダル・ヘモン『ブルーノの問題』（書肆侃々房） アレクサンダル・ヘモン『私の人生の本』（松籟社）
履修上のポイント	ヘモンは英語の母語話者ではなく、ブコウスキーにくらべて癖はないが、正確に訳するためにはボスニア紛争についての背景知識も必要。最終稿の前にドラフトをLMSに提出し、受講生同士でピアレビューののち、最終稿を提出すること（ただし、受講者の人数によっては教員がドラフトも添削する）。
レポート課題1	基本教材2を訳しなさい。またそれ以外の課題を課す可能性もある。 留意点：翻訳は小説として読めるように訳しなさい。
レポート課題2	基本教材2を訳しなさい。またそれ以外の翻訳課題を、学生の関心をみて課す可能性もある。 留意点：翻訳は小説として読めるように訳しなさい。

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の読解
第2回	教材の学修：基本教材1の読解
第3回	教材の学修：基本教材1の読解
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1の読解
第9回	教材の学修：基本教材1の読解
第10回	教材の学修：基本教材1の読解
第11回	教材の学修：基本教材1の読解
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の読解
第2回	教材の学修：基本教材2の読解
第3回	教材の学修：基本教材2の読解
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材2の読解
第9回	教材の学修：基本教材2の読解
第10回	教材の学修：基本教材2の読解
第11回	教材の学修：基本教材2の読解
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	メディア文化論特講	担当者	イマイ リョウイチ 今井 亮一	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	-----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【例】令和4年度以前の入学者は履修不可

【科目概要】

目的	<p>アメリカのメディアにおける二大キャラクター産業ともいべき、『ピーナッツ』（スヌーピー）とディズニーについて考える講座です。漫画やアニメを題材に、歴史・政治・社会的背景を踏まえながら批評的に読み解く力を身につけましょう。</p> <p>前期は、『ピーナッツ』の漫画・アニメの政治的背景を読みといた研究書『スヌーピーがいたアメリカ』（教材1）を読解します。政治史を狭義の専門とする著者が記した本書を通じ、カルチュラルスタディーズの考え方や手法を実践的に学びましょう。</p> <p>後期は、幅広く現代思想を参照した『ディズニーと動物』（教材2）を精読します。内容を理解することはもちろん、方法論の面で教材1との共通点や相違点を意識しながら、映像作品を分析する手法を発展させましょう。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漫画やアニメといった視覚メディアを分析する手法を身につけ、実践できるようになる。 ・形式と内容の両面で、学術論文にふさわしい文章を書けるようになる。 <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術書の内容を理解する。 ・学術書の形式（引用や註の手法、学術的な語彙・文体）を自家菜籠中の物とする。 ・学術書の分析手法を実践的に体得する。 ・体得した手法を、みずから関心を寄せる視覚メディア作品に応用し、分析できるようになる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>各レポートの完成までに、以下のとおり最低45時間の学修を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学修：15時間 ・レポート執筆：15時間 ・レポート推敲（教員からの添削指導やピア・レスポンスを含む）：15時間 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>LMSを用いて双方向的なやりとりを行なう。</p>		
スケジュール	<p>前期：</p> <p>教材1のレポート課題（1）の初校……6月10日 教材1のレポート課題（1）の最終稿……7月10日 教材1のレポート課題（2）の初校……8月10日 教材1のレポート課題（2）の最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：</p> <p>教材2のレポート課題（1）の初校……10月10日 教材2のレポート課題（1）の最終稿……11月10日 教材2のレポート課題（2）の初校……12月10日 教材2のレポート課題（2）の最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を精読して理解した上で、課題に応える内容になっているか。 ・形式・内容の両面で、学術論文の体裁が整っているか（形式：引用や註の適切さなど、内容：論旨の妥当性や明快さ、独創性など）。 	80%
	観察記録	メールやLMSを活用し、積極的に課題に取り組んだか。	20%
履修者への要望	<p>出典の明記など、学術論文の基本的なルールを守ってください。特に、不適切な引用（生成AIの不適切な使用を含む）は不正行為なので、単位が取得できなくなる可能性が高いです。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：ブレイク・スコット・ポール 教材名：『スヌーピーがいたアメリカ——『ピーナッツ』で読みとく現代史』（慶應義塾大学出版会） ISBN-13:978-4766428995 3600円＋税
	『ピーナッツ』の漫画やアニメについて、キリスト教、黒人差別、ベトナム戦争、環境問題、フェミニズムといった観点から読み解いた研究書。
参考図書	チャールズ・M・シュルツ、谷川俊太郎、今井亮一、井出幸亮『スヌーピーのひみつ A to Z』（新潮社） ISBN-13:978-4106022678 1600円＋税
履修上のポイント	教材1には、『ピーナッツ』に関する図版が掲載されていないので、コミックについてはなるべくインターネットなどで実際の作品を読みながら精読してください。アニメについても、可能な範囲で鑑賞をおすすめします。 本書でアメリカ合衆国の戦後史を大まかに確認しつつ、一定のテーマ（人種、ジェンダーなど）に注目して作品を分析するという姿勢を学んでください。 なお、『ピーナッツ』の主要キャラクターについて何も知らない（顔と名前も一致しない）という場合、参考図書を適宜参照してください。参考図書にはその他の有益な情報も掲載されていますが、基本的に教材1を精読すれば問題ありません。
レポート課題1	教材1を精読した上で、以下の2点についてまとめてください。①と②は峻別してもよいですし、組み合わせた形でまとめても構いません。字数の目安は2500字。 ①教材1では『ピーナッツ』をどんな手法で分析しているか。その手法において、あなたの研究に活かせる部分はどんな面があるか。仮に活かせる部分がないとすれば、それはなぜか。 ②教材1で最も興味を持った部分を取り上げ、その部分に関する感想と、疑問点や批判点（さらに検証すべき事項）などを整理する。 留意点：（特になし）
レポート課題2	教材1の精読を踏まえ、教材1に含まれていない『ピーナッツ』作品（漫画の場合、教材1で取り上げられていない年月日の作品。アニメの場合、作品単位では教材1で言及されているものでもよいが、教材1で取り上げられていない場面を扱うこと）について、分析・考察を行なってください。字数の目安は3000字。 留意点：（特になし）

基本教材 2	
教材の概要	著者名：清水知子 教材名：『ディズニーと動物——王国の魔法をとく』（筑摩書房） ISBN-13:978-4480017222 1700円＋税
	ウォルト・ディズニーの時代（キャラクターで言えば、ミッキーマウス、白雪姫、バンビ、ダンボなど）を中心に、「ポストディズニー」も射程に入れながら、人文知を駆使してさまざまなディズニー作品を分析した書。
参考図書	本橋哲也『ディズニー・プリンセスのゆくえ——白雪姫からマレフィセントまで』（ナカニシヤ出版） ISBN-13:978-4779510588 2000円＋税
履修上のポイント	論じられている作品数が多いうえ、種々の批評理論や現代思想が使用されているため、刺激的ではありますが、正直、読みやすい本ではありません。最初から内容をすべて把握しようとするのではなく、まずは大まかに議論の道筋を追い、著者が作品を論じる際の「手つき」のようなものを学ぶことから始めるとよいかと思います。 その上で、興味をもった章については、扱われている作品をなるべく鑑賞し、援用されている理論や思想についても可能な限り自分でリサーチを行なって、深く内容を理解できるよう精読を重ねてください。 特に、ジェンダーやセクシュアリティとディズニーの関係について興味をもった場合、レポート課題2に取り組む際には参考図書もおすすめします（ただし新刊では手に入れにくいかもしれません）。
レポート課題1	教材2を精読した上で、以下の2点についてまとめてください。①と②は峻別してもよいですし、組み合わせた形でまとめても構いません。字数の目安はすべてあわせて2500字。 ①教材2ではディズニー作品をどんな手法で分析しているか。その手法において、あなたの研究に活かせる部分はどんな面があるか。仮に活かせる部分がないとすれば、それはなぜか。 ②教材2で最も興味を持った章を取り上げ、該当の章に関する感想と、疑問点や批判点（さらに検証すべき事項）などを整理する。 留意点：①については、教材1との相違点・共通点を意識すると取り組みやすいかと思います。ただし、教材1との比較を義務とはしません。
レポート課題2	教材2の精読を踏まえ、自分で選んだディズニー作品について、分析・考察を行なってください。教材2で扱われている作品を選んだ場合、教材2での議論を踏まえたうえで、独自の主張を加えること。教材2で扱われていない作品を選んだ場合、教材2の手法を応用する形で論じること。字数の目安は3000字。 留意点：（特になし）

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の序章～第2章までの精読
第2回	教材の学修：基本教材1の第3章～第5章までの精読
第3回	教材の学修：基本教材1の第6章～エピローグまでの精読
第4回	図書館やインターネットを利用した関連資料の学修
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	レポート2で扱う作品の選定と分析
第10回	基本教材1について、レポート2で扱う作品との関連で再読・再考
第11回	レポート2で扱う作品の分析と先行研究の調査
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材1の序章～第3章までの精読
第2回	教材の学修：基本教材1の第4章～第6章までの精読
第3回	教材の学修：基本教材1の第7章～終章までの精読
第4回	図書館やインターネットを利用した関連資料の学修
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	レポート2で扱う作品の選定と分析
第10回	基本教材2について、レポート2で扱う作品との関連で再読・再考
第11回	レポート2で扱う作品の分析と先行研究の調査
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	日本文化論特講 I	担当者	ノグチ ケイコ 野口 恵子	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	-----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	古代の日本文学作品を取り上げる。日本の古代には人々が共有していたルールが存在していた。もちろん現在でもそうした共有ルールは存在しているが、21世紀の我々からすれば、つい我々のルールを当てはめて古代の人々を理解しようとしてしまう。それでは古代の人々の思考をきちんと理解することはできない。作品を読む際も同様で、古代の人々の共同性を想定する必要がある。こうした点を踏まえたうえで、文学の生成と展開の様相は、どのようなものなのかを自ら考え、その時代の文化的な特徴を捉えることを目的としたい。また、資料の扱い方、分析の方法といった研究手法も身につけることも目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 研究活動をしながら、モノの見方やモノに対する判断力を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①古代の人々は自らを取り巻く状況をどのように捉えていたのか理解する。 ②新たなモノの捉え方を身につける営みの連続により、現代社会における異文化に対する理解を深め、適用する。 ③研究史を整理・把握することで、これまでの研究状況とこれからの課題を指摘する。 ④修士論文の執筆時に必要とする研究手法を、基本教材から体得し応用する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>①まずは基本教材を精読し、各章ごと内容をまとめる。そして課題に取り組む。課題に対する理解が深まらない場合は、同テーマの参考図書を精読すること。比較することで、他者との考えの違いに気づき、理解を深められる。(自習) 【SBO①】 【20時間/レポート1本作成準備】</p> <p>②課題に沿って、用例や情報の収集を行い、整理と分析を行う。(自由研究) 【SBO②】 【10時間/レポート1本作成準備】</p> <p>③レポートをの草案を作成する。その際、序論+本論+結論の構成に基づくこと。(レポート作成) 【SBO③】 【15時間/レポート1本作成】</p> <p>④manaba folioの掲示板機能を利用して受講者同士のディスカッション、あるいは複数回の教員による個別添削指導を受け、改訂した最終稿を提出する。(ディベート) 【SBO④】 【5時間/ディスカッション・レポート1本作成】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを利用して、個別指導を行う。受講者が複数の場合は、受講者同士の協働学修も行う。自由な質疑応答やディスカッションを歓迎する。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1) 締め切り→6月末(初稿) 教材1のレポート課題(2) 締め切り→8月末(初稿) 後期：教材2のレポート課題(1) 締め切り→10月末(初稿) 教材2のレポート課題(2) 締め切り→12月末(初稿) なお、いずれの最終稿提出期限は、学事暦で定められた日までとする。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題にきちんと答えられていることは当然だが、レポートの形式(構成・論証・引用方法など)が守られているか、指導を受けた内容を踏まえられているか。	80%
	観察記録	提出物の有無や、メールもしくはmanaba folioでの活動度、レポート個別添削指導に対する反応の有無。	20%
履修者への要望	<p>基本教材に書かれている専門用語等、身近ではない、理解できないなどの内容がある場合は、遠慮なく教員に質問してほしい。もちろん、自分なりにまず調べてからである。 また、対面授業ではないため履修者の理解度を先行して指導することが難しいので、なるべくメール(noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp)かmanaba folioで交流したいと考えている。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：古橋信孝 教材名：『文学はなぜ必要か 日本文学&ミステリー案内』（笠間書院・2015年） ISBN:978-4-305-70784-0 2,400円+税</p> <p>なぜ文学が人間に必要なのかを考えている一書。同時に、言葉とはどのようなものかという問いに向き合いながら、文学の面白さと作品が成立した時代にはどのような問題を孕んでいたのかなどにも触れている。こうした考証を通して、日本語の文学の流れにまで言及している。</p>
参考図書	古橋信孝『神話・物語の文芸史』（ペリカン社・1992年）、同編『日本文芸史』[全8巻]（河出書房新社・1986～2005年）など。
履修上のポイント	各時代を代表する文学作品を取り挙げている。それぞれの時代がどのような時代だったのか、また時代によって文学の性質が異なることも留意してほしい。加えて、なぜその文学がその時代に要求されたのかについても考えてほしい。なお、この教材は、著者がすでに論文などで書いた内容を踏まえ書いている箇所が多々あるので、必要に応じて著者の論文なども読む方が理解が深まるだろう。
レポート課題1	<p>第1章から第6章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを理由を添えて述べなさい。（3,000字）</p> <p>留意点：各章のタイトルはほぼ疑問形式で付されている。その問いに対して、著者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えを持ったのかを述べること。</p>
レポート課題2	<p>第7章から第12章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを理由を添えて述べなさい。（3,000字）</p> <p>留意点：各章のタイトルはほぼ疑問形式で付されている。その問いに対して、著者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えを持ったのかを述べること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：梶川信行 教材名：『額田王―熟田津に船乗りせむと一』（ミネルヴァ書房・2009年） ISBN:978-4-623-05598-2 3,000円+税</p> <p>『万葉集』の女性歌人として名高い額田王は、生身の実態を持った存在とは考えられていない。本書では七世紀に実在した皇裔の一人で、文学作品である『万葉集』に「額田王」として名を遺した女性として捉えようとしている。かつ、こうして捉えた彼女の動きの中で、どのように作品が誕生したのかを考えている一書である。</p>
参考図書	梶川信行『創られた万葉の歌人 額田王』（はなわ書房・2000年）、多田一臣『額田王論―万葉論集一』（若草書房・2001年）など。
履修上のポイント	『万葉集』に「額田王」として名を残した女性と、『日本書紀』に「額田姫王」として名を残した女性とは同一人物である。しかし、文学作品と歴史書という編纂目的が異なる書物では、同一人物であっても扱い方が異なる。その違いに留意すること。また、本書から資料の扱い方や資料の分析方法などの研究手法を学修してほしい。
レポート課題1	<p>「宮廷歌人」として、額田王はどのような役割を担っていたのかを、具体例を挙げながら説明しなさい。（3,000字）</p> <p>留意点：「宮廷歌人」は古代の完了制度の中に存在しない名称である。いわゆる専門用語であるが、そうした名称で額田王を捉えることによって、どのような問題を孕んでいるのかについて留意してほしい。</p>
レポート課題2	<p>天智挽歌群と持統朝の作品における額田王の作歌状況は、それまでの作品とは異なる。両者を比べた際、どのような変化が生じているのかをそれぞれ述べなさい。（3,000字）</p> <p>留意点：天智天皇の死後、作歌状況において明らかな違いが見られる。例えば、天武天皇の時代の作品が一首も残されていないなどである。こうした違いを見逃さないでほしい。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の第1章から第2章
第2回	教材の学修：基本教材1の第3章から第4章
第3回	教材の学修：基本教材1の第5章から第6章
第4回	レポート課題1：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：指導によるレポート内容の再検討
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	レポート課題1：指導によるレポート内容について、レポート課題2に向けて学修の振り返り
第9回	教材学修：基本教材1の第7章から第8章
第10回	教材学修：基本教材1の第9章から第10章
第11回	教材学修：基本教材1の第11章から第12章
第12回	レポート課題2：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：指導によるレポート内容の再検討
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2のプロローグ章
第2回	教材の学修：基本教材2の第1章
第3回	教材の学修：基本教材2の第2章
第4回	レポート課題1：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：指導によるレポート内容の再検討
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	レポート課題1：指導によるレポート内容について、レポート課題2に向けて学修の振り返り
第9回	教材の学修：基本教材2の第3章
第10回	教材の学修：基本教材2の第4章
第11回	教材の学修：基本教材2のエピローグ章
第12回	レポート課題2：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：指導によるレポート内容の再検討
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ヤマサキ マキコ 山崎 眞紀子	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、明治期から現代までの近現代文学を学ぶことで、豊かな知識を養い、論理的かつ批判的思考力を身につけることを目的とする。学ぶ内容は具体的には以下のとおりである。</p> <p>I. 小説の書かれた時代を理解し、当時の政治・経済・文化の交錯の上に成り立っていることを自ら調べて学ぶことができる。</p> <p>II. 小説を読むうえで、断片的な出来事がどのような時間配列のもとで物語が構成されているかを自ら考えることができる。</p> <p>III. 日本近現代文学作品をレトリックや表現の緻密さに留意し、分析的に読む力を自ら切り開くことができる。</p> <p>IV. 以上の目的を踏まえて、自らが立論し論文としてまとめることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 日本近現代文学作品に書かれている内容を正確に理解し、書かれた時代背景、文化を把握し、なぜその場所、時代、言葉が選ばれているのか一つ一つ丹念に掘り下げて考察する力を身につける。それを論文形式でまとめる力を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 多種多様な文学作品に触れることで、語彙力を増やし、人に正確に、かつ分かりやすく伝えるための言語の力を応用する力を修得する。(知識) 言葉の配置や文体、比喩を駆使して、論理的かつ人を引き付ける文章を書く力を身につける。(技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 教材を熟読し、先行研究論文を読み、そのうえで自分の読みをオリジナリティをもった解釈の上で構築し、論理的に説明するレポートを3000字程度で書いて提出する。添削を受けて完成させる。 在宅学習では各レポート課題につき完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要する。 ・教材の学修：教科書にある小説を三度繰り返し読む。先行研究論文を探し、読む。20時間 ・レポート執筆時間：15時間 ・レポート推敲学修（教員の添削指導および最終稿の完成を含む）：10時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・図書館、インターネットで自立的に論文を検索して、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期：6月5日までに教材1のレポート課題1の初稿を提出。 7月10日までに教材1のレポート課題1の最終稿を提出。 8月5日までに教材1のレポート課題2の初稿を提出。 前期提出期限までに教材1のレポート課題2の最終稿を提出。 後期：10月10日までに教材2のレポート課題1の初稿を提出。 11月10日までに教材2のレポート課題1の最終稿を提出。 12月5日までに教材2のレポート課題2の初稿を提出。 後期提出期限までに教材2のレポート課題2の最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポート 80% 内訳：教材の精読と理解 30% 自らの論説の妥当性と説得力 30% 学術論文としての体裁、適切な引用がなされているか 20%	80%
	観察記録	観察記録 20% メール、manaba等を活用して、主体的に自らの疑問を解決することができたかどうかを評価する。	20%
履修者への要望	<p>基本教材に掲載されている作品は、なるべく多く繰り返し読むこと。レポート作成にあたっては、大学図書館や国文学研究資料館のHPやCiNiなどのデータベースを用いて参考文献や先行研究論文を検索して読解すること。国立国会図書館をはじめとする公共図書館、場合によっては駒場にある日本近代文学館などの専門図書館を活用し資料の入手につとめるなどして、多くの研究論文に目を通すことが望ましい。そのうえで自分が気付いた「発見」を土台にして、着想を発展させて立論し、客観的に論証できるように努める。添削を受け、再度再考し、完成度の高いものを仕上げしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：東郷克美・高橋広満編 教材名：『〈異界〉文学を読む』（鼎書房、2017年2月）ISBN 978-4-907282-29-5 2000円+税</p> <p>〈異界〉をキーワードにして編まれた、15人の作家の短編小説が省略なく全編掲載で載っている。明治20年代から始まる明治期の文学作品、大正期、戦前・戦後の昭和の15編の短編小説を理解しやすいように解説も施され、先行研究リストも記載されている。</p>
参考図書	『日本国語大辞典』（全13巻、小学館、2006年4月）などで、適宜、言葉の意味と用法を調べ、作家案内や関連事項については日本近代文学館編『日本近代文学事典』全六巻（講談社、1978年3月、WEB版もあり）などの文学事典などを参照にすること。
履修上のポイント	日本近代文学を精緻に読みこなすために作品に多く触れてほしい。教材は優れた短編作品が厳選されている。少し難解に思ったとしても何度でも繰り返し読むことで、作品の意味はおのずから通じてくる。解説や参考文献リストも参照して理解を深める一助とすること。作品を精読し分析して問題を発見し、それをレポートで注を付けきちんとした文章でまとめる。助言と添削を受け、バージョンアップを図っていくことが履修上ポイントである。
レポート課題1	<p>教材に掲載されている泉鏡花、永井荷風、佐藤春夫、芥川龍之介、谷崎潤一郎、梶井基次郎の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について2000字～3000字程度で論じなさい。（多少の字数不足およびオーバーは構わない）</p> <p>留意点： 作品は〈異界〉を通じて何が表現されているか、また、語り方にも留意すること。</p>
レポート課題2	<p>教材に掲載されている夢野久作、江戸川乱歩、太宰治、萩原朔太郎、岡本かの子、井伏鱒二、中島敦、川端康成、井上靖の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について3000字～4000字で論じなさい。（多少の字数不足およびオーバーは構わない）</p> <p>留意点： 作品は〈異界〉を通じて何が表現されているか、また、語り方にも留意すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：須賀敦子編 教材名：『須賀敦子編が選んだ日本の名作』（河出文庫、2020年） ISBN 4-309-41786-8 1400円+税</p> <p>本書は須賀敦子（1919年～1998年）が日本近代文学の短編小説の中から選りすぐり、イタリア語に翻訳して1965年にイタリア・ミラノで出版されたNaratori giapponesi moderni（『日本現代文学選』26作品が収録）の中からの13作品を収録して日本で刊行されたアンソロジーである。森鷗外、樋口一葉、谷崎潤一郎、川端康成、太宰治、林芙美子、三島由紀夫、庄野潤三、中島敦などすぐれた短編小説が収められ、作家であり翻訳者としても活躍した須賀敦子の簡単な作家案内も付されている。</p>
参考図書	基本教材1に上げた参考図書を参照。および、CiNiiやJstage、国文学文学研究資料館など学術論文検索（データベース）を行って得られる先行研究論文など。
履修上のポイント	日本現代文学を精緻に読みこなすために、作品に多く触れてほしい。小説は現在も生み出され続け、書店の店頭に並んでいる。しかし、年月とともに淘汰され、すぐれた作品のみが文学史に残り、時を経て読み継がれていく。本書に収められた小説が、なぜ、現在まで残っているのか、その意味を考察してほしい。小説の構造や語り、語彙群がしっかりしているからかもしれないし、内容が心を打つものであるのかもしれない。先行研修を踏まえて、小説の新たな魅力を掘り起こしてほしい。
レポート課題1	<p>教材で取りあげられている小説前半部、森鷗外～太宰治まで7人の作家の作品を任意に一作品を選び、作品の読みどころを序、本論（3章仕立て）、結論の構成で、3000字程度で論じなさい。（多少の字数不足およびオーバーは構わない）</p> <p>留意点：留意点：作品発表時の時代背景、作家の特徴などを踏まえて、作品の持つ深層を掘り下げて捉えること。そして必ず論点（問題提起）を明確にして、その問いに呼応する結論を出すこと。論点（問題提起）は大枠ではなく、細部にこだわっての視点であることが望ましい。</p>
レポート課題2	<p>教材で取りあげられている小説後半部、林芙美子～中島敦6人の作家の作品を任意に一作品を選び、作品の読みどころを序、本論（3章仕立て）、結論の構成で、3000字程度で論じなさい。（多少の字数不足およびオーバーは構わない）</p> <p>留意点：留意点：作品が発表されたときの時代背景、作家の特徴などを踏まえて、作品の持つ深層を掘り下げて捉えること。そして必ず論点（問題提起）を明確にして、その問いに呼応する結論を出すこと。論点（問題提起）は大枠ではなく、細部にこだわっての視点であることが望ましい。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の前半作品，101頁までの作品を読む1
第2回	教材の学修：基本教材1の前半作品，101頁までの作品を読む2
第3回	教材の学修：基本教材1の前半作品，101頁までの作品を読む3
第4回	教材の学修：基本教材1の前半作品の中からレポートを書く作品を1つ選び，参考文献を読む
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第7回	レポート課題1：添削を受けて完成稿作成
第8回	教材の学修：基本教材1の後半作品，232頁までの作品を読む1
第9回	教材の学修：基本教材1の後半作品，232頁までの作品を読む2
第10回	教材の学修：基本教材1の後半作品，232頁までの作品を読む3
第11回	教材の学修：基本教材1の後半作品の中から，レポートを書く作品を1つ選び，参考文献を読む。
第12回	レポート構成を決め，参考文献からの引用部分などを決める。
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第15回	レポート課題2：添削を受けて完成稿作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の前半作品，P198までの作品を読む1
第2回	教材の学修：基本教材2の前半作品，P198までの作品を読む2
第3回	教材の学修：基本教材2の前半作品，P198までの作品を読む3
第4回	教材の学修：基本教材2の中からレポートを書く作品を1つ選び，参考文献を読む
第5回	レポート課題1：レポート作品を選び初稿の作成
第6回	レポート課題1：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第7回	レポート課題1：添削を受けて完成稿作成
第8回	教材の学修：基本教材2の後半作品，P199～P453を読む1
第9回	教材の学修：基本教材2の後半作品，P199～P453を読む2
第10回	教材の学修：基本教材2の後半作品，P199～P453を読む3
第11回	教材の学修：基本教材2の後半作品の中から，レポートを書く作品を1つ選び，参考文献を読む。
第12回	レポート構成を決め，初稿を作成
第13回	レポート課題2：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第14回	レポート課題2：修正稿の添削を受けてもう一度修正稿を作成
第15回	レポート課題2：完成稿作成

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ナベモト ヨシノリ 鍋本 由徳	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本科目では日本近世史の政治と外交をとりあげる。いわゆる「鎖国」と呼ばれる状況については、「鎖国」の有無をはじめ、学説史上でも大きな課題をかかえている。対外関係を扱うにあたって、単に貿易・交易などの商業を考えるだけではなく、当時の政治体制がどうであったのか、意思決定機関がどうであったのか、ひいては幕府組織はどうであったのか、にまで目を向ける必要がある。文化のあり方もまた同様であり、幕府をはじめとした権力による政策基調を背景にして変容し、時には消滅する。日本近世政治史・外交史を扱う上で、どのような点に注目し、どのような分析視角を持って歴史を考察するのかの方法を把握することを目的としたい。さらに、教材で使われている史実に対する歴史資料の把握、利用の仕方、分析方法を身につけることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 日本近世政治史や外交史のポイントを把握し、研究活動を通して、歴史の考え方や資料に対する扱いなどを身につけ、特定のテーマに対する文章作成能力を高める。 【行動目標(SBOs)】 1. 江戸幕府の意思決定組織の生成プロセスを説明できる。 2. 江戸時代の外交、いわゆる「鎖国」をめぐる課題を挙げられる。 3. 研究の着眼点を整理し、何をテーマに研究が進められるのかを考えられる。 4. 特定のテーマに関する歴史資料の探索・収集、読解できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 教材の精読・熟読することからはじめ、それぞれの章ごとに要旨を作成する。正しい歴史理解、方法によって課題に取り組み、その成果を文章としてまとめて提出する(レポート作成)。推敲・添削を受けた上で文章を完成させる。学修時間の目安として、1本のレポート作成につき、教材学修に15時間以上、レポート草稿執筆に15時間以上、推敲・添削後の修正時間に15時間以上、合計45時間以上を設定する。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングについては、自宅学修として、J-stageやCiniiなどを使って先行研究の一覧を作成し、可能な限り入手しておく。国立国会図書館や資料保存機関などのデジタル・アーカイブズなどを使って歴史資料の検索・収集をおこなう。時間を作れる場合は、学術図書や雑誌を架蔵する図書館で調査を進める。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1の学修。レポート課題2本を所定学事暦の提出期限までに提出する。 ※1本目の草稿提出は6月中旬におこない、完成原稿の提出までに完成原稿を提出 ※2本目の草稿提出は8月初旬におこない、完成原稿の提出までに完成原稿を提出 後期：基本教材2に対する学修。レポート課題2本を所定学事暦の提出期限までに提出する。 ※1本目の草稿提出は10月中旬におこない、完成原稿の提出までに完成原稿を提出 ※2本目の草稿提出は12月初旬におこない、完成原稿の提出までに完成原稿を提出 前期・後期、ともにテーマ設定は早めに決め、関係する参考文献や歴史資料にかかわる相談をスタートさせることが望ましい。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポート内容80% (教材理解度40%・文章の論理性20%・文章表現20%)	80%
	観察記録	テーマに対する取り組み方(LMSやメール指導などの学修に対する主体性や課題に対する自己解決プロセス) 20%	20%
履修者への要望	<p>基本教材は非常に平易であるが、学術論文と異なり、歴史資料の典拠などが明記されるとは限らない。資料の根拠を自身の手で探すといった、研究活動と同様の作業やそれに取り組む強い意思が求められる。すべての歴史資料を入手することは困難で、テーマ設定する場合も、自分自身で歴史資料を見付けられることが前提となる。現在、デジタルアーカイブの公開が進み、基本歴史資料が数多くWebで確認できる。研究論文については近年のものはWeb非公開のものが少なくない。出来る範囲で入手したい。テーマとして適正ではないと判断したら課題を調整する臨機応変さも求められる。大きな研究テーマの幹を早めに見つけ、最初からやり直すことにならないよう工夫してほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：藤井譲治 教材名：『江戸時代の官僚制』（法蔵館文庫・2023年 初出1999年青木書店） ISBN: 978-4-8318-2652-7 1,100円＋税</p> <p>江戸時代260年間を動かした江戸幕府の統治機構がどのように作られていったのか、そして運用されていたのかを江戸時代前期を中心に述べたもの。一次史料に基づいた手堅い分析と考察を通じて、江戸幕府の意思決定や施策運用が「人」から「組織」へ転換し、「幕藩官僚」＝「職」が創出するプロセスと実態・特質を論じる。</p>
参考図書	<p>本事項は『日本近世の歴史1 天下人の時代』（吉川弘文館 2011）が便利。 関連論文はCiniiなどで機関リポジトリをはじめとしたデジタル化されたものをさがす。 基本用語は『国史大辞典』全15巻17冊（吉川弘文館） ※非常に古いが、これを超える日本史辞典はない。</p>
履修上のポイント	<p>本教材を一読すると、一見「当たり前」のような事実が書かれている。しかしその「当たり前」と思った事象の実証は思った以上に難しい。本文に記されている歴史事実を証明する一次史料がどこにあるのか、どこで読めるのか、活字史料集はあるのかを参考文献一覧やインターネットサイトの情報を駆使して探してほしい。歴史事実に関する基本史料集は国会図書館サイトにあるナビでも知ることができる。「自ら調べること」は論文作成上で必要なスキルであると考えて、学修に取り組んでもらいたい。</p>
レポート課題1	<p>教材に書かれている江戸時代前期の「職」について、各自で論題を策定し、2000～3000字で論じなさい。</p> <p>留意点：この課題は教材の内容のみで書くことが可能である。ただし、特定の章だけで書くことは不可能で、また「序論」「本論」「結論」でまとめることのできるテーマを設定しなければならない。そのためには全体の精読が必要となる。</p>
レポート課題2	<p>江戸時代における「出頭人政治」から「職による政治」への転換に関して、その事実を歴史資料で補いながら2000～3000字で論じなさい。なお、歴史資料には必ず注を付し、出所情報を文末注に入れること（字数に数えない）。</p> <p>留意点：論文を意識した書き方にする。特定の歴史事実では歴史資料での裏付けが求められる場合がある。参考にする論文などから、歴史学（日本近世史）の注釈の付け方について、パターンを把握しておきたい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：荒野泰典 教材名：『「鎖国」を見直す』（岩波現代文庫学術412・2019） ISBN: 978-4-0060-0412-5 980円＋税</p> <p>本書では、江戸時代を「国を閉ざした時代」とみなす鎖国像を批判し、近世日本の対外政策を実態に即して再評価する。「鎖国」が近代以降に形成された後世的な解釈枠組みであり、幕府は対外関係を全面的に遮断したのではない。いわゆる「四ツ口外交」として統制された国際関係を維持していた。近代国家モデルに依拠した歴史理解を相対化し、近世国家の論理から江戸幕府の外交と統治を捉え直す視点を提示している。</p>
参考図書	<p>永積洋子編『シリーズ国際交流「鎖国」を見直す』（国際文化交流推進協会 1999年）、松方冬子『オランダ風説書』（中公新書2047 2010）</p>
履修上のポイント	<p>本教材は「鎖国」をめぐる問題を高校教科書レベルでの記述からはじまり、なぜ「鎖国」では不都合が生じるのかを論じている。歴史用語として存在する鎖国を概念としての「鎖国」として相対化するとどのような意味かを述べているため、単に歴史事実を追いかけるだけでは理解が困難になる。史実がどう歴史概念化されるのかを意識したい。史実を「自ら調べること」ことは自明の作業である。歴史概念操作は論文作成上で重要な要素であると考えて、学修に取り組んでもらいたい。</p>
レポート課題1	<p>教材に書かれている「鎖国」概念は、江戸時代の外交理解にどのような変化をもたらしたのか。各自で論題を策定し、2000～3000字で論じなさい。</p> <p>留意点：この課題はまず「鎖国」用語がどう扱われていたのかを正しく整理しなければならない。学説の整理に相当するが、「序論」「本論」「結論」でまとめることのできるテーマを設定しなければならない。</p>
レポート課題2	<p>江戸時代における外交政策を「統制」とみた場合、17世紀における幕府政治はどのように再評価されることになるか。著者の見解への反論も意識して、具体的な事実を歴史資料で補いながら2000～3000字で論じなさい。なお、歴史資料には必ず注を付し、出所情報を文末注に入れること（字数に数えない）。</p> <p>留意点：論文を意識した書き方にする。単なる「商業史や交易史」として終わらせないために、外交政策を政治史のなかで位置づけることを意識しなければならない。教材著者への反論では、概念操作も必要となる。参考にする論文などから、反論になりうる考え方などを確認しておくとういだろう。</p>

基本教材1

第1回	ガイダンス（本科目の課題の理解と教材学修準備）
第2回	教材1の学修（第一章 大久保長安と大岡忠相）
第3回	教材1の学修（第三章「職」の形成とその特質 1・2）
第4回	教材1の学修（第三章「職」の形成とその特質 3・4）
第5回	レポート課題1の草稿作成
第6回	レポート課題1の初稿完成
第7回	レポート課題1の修正稿の作成（添削を踏まえて修正する）
第8回	レポート課題1の完成稿の完成
第9回	教材1の学修（第二章「人」から「職」へ）
第10回	教材1の学修（第四章十七世紀中葉の幕府官僚たち 1・2）
第11回	教材1の学修（第四章十七世紀中葉の幕府官僚たち 3・4）
第12回	レポート課題2の草稿作成
第13回	レポート課題2の初稿完成
第14回	レポート課題2の修正稿の作成（添削を踏まえて修正する）
第15回	レポート課題2の完成稿の完成

基本教材2

第1回	ガイダンス（本科目の課題の理解と教材学修準備）
第2回	教材2の学修（1. 見直される「鎖国」）
第3回	教材2の学修（2. 「鎖国」という言葉の経歴 一～二）
第4回	教材2の学修（2. 「鎖国」という言葉の経歴 二～三）
第5回	レポート課題1の草稿作成
第6回	レポート課題1の初稿完成
第7回	レポート課題1の修正稿の作成（添削を踏まえて修正する）
第8回	レポート課題1の完成稿の完成
第9回	教材2の学修（3. 近世日本の国際関係の実態 一～三）
第10回	教材2の学修（3. 近世日本の国際関係の実態 四・五）
第11回	教材2の学修（4. 東アジアのなかで息づく近世日本／5. 鎖国を見直す意味）
第12回	レポート課題2の草稿作成
第13回	レポート課題2の初稿完成
第14回	レポート課題2の修正稿の作成（添削を踏まえて修正する）
第15回	レポート課題2の完成稿の完成

科目名	アジア文化論特講	担当者	シミズ トオル 清水 享	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	----------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	多民族国家である中国には漢民族と多様な「少数民族」が居住している。文化人類学はフィールドを発点として、この中国のさまざまな民族の文化や社会を、多角的な視点から分析研究を進めてきた。本特講ではまず、こうした文化人類学による中国の諸民族の研究がいかになされてきたのかを考察する。そして、多くの民族が交錯する雲南省を取り上げ、そのさまざまな民族の歴史の変遷と多様な文化や社会の特徴について考察を進め、理解を深めたい。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 文化人類学がどのように中国の諸民族を研究考察して来たのか。その全体像と中国における文化人類学研究の特徴について把握する。また中国のなかでも、漢民族と「少数民族」が居住する複雑な地域である雲南の歴史、文化、社会の状況について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 本科目を学修することを通じて、自ら学び、世界の現状を理解し、それを述べる力を身につけるとともに、自ら考えて、問題を発見し、その問題を解決し、省察力をもって、説明できるようにする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 テーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿など、段階的に担当者とやり取りを進めながらレポートを作成する。レポート1本につき教材学修に15時間、レポート執筆に15時間、教員の添削指導を含めたレポート添削に15時間をかけることを目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング＝図書館等を利用し、参考文献を調査してレポートを作成する調査学習。調査学習。基本教材の精読の上、自分の関心のあるテーマを選び、学習を深める。さらに関連文献を参照しながら、この関心のあるテーマに沿ってレポートを作成する。</p>		
スケジュール	前期は基本教材1のレポート課題2編を学事暦の提出期限までに提出のこと。 後期は基本教材2のレポート課題2編を学事暦の提出期限までに提出のこと。 前後期ともに早めにテーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿についてできるだけ早めに担当者とやり取りをはじめ、初稿は前後期ともに提出期限の2週間前までに提出のこと。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材の理解、レポート課題選定および内容の妥当性を評価。	80%
	観察記録	レポート作成に向けての課題の取り組み方やその課題解決への積極性などを評価。	20%
履修者への要望	履修者は積極的に課題に取り組んでほしい。基本教材を精読することはもちろんのこと、基本教材以外の関連文献も、より多く参照し、精読した上でレポートを作成してほしい。このレポートをステップとして修士論文作成に取り組めるようにしてほしい。		

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	<p>著者名：西澤治彦・河合洋尚編 教材名：『フィールドワーク 中国という現場、人類学という実践』（風響社、2017年）ISBN:978-4-89489-242-2 3,600円＋税</p> <p>本教材は中国における文化人類学研究の研究史と現況をまとめ、今後の展望を示したものである。末成道男をはじめとした中国の文化人類学研究の先達から現在第一線で研究を進めている研究者が執筆しており、現在の中国を研究対象とした文化人類学の最前線の状況を概観できる。</p>
参考図書	<p>末成道男編『中国文化人類学解題』（東京大学出版会、1995年）ISBN:978-4-13-056046-7 末成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピーブルズの現在 01東アジア』（明石書店、2005年）ISBN:4-7503-2031-5 瀬川昌久、西沢晴彦編訳『中国文化人類学リーディングス』（風響社、2006年）ISBN:4-89489-041-0</p>
履修上のポイント	「はじめに」、「問題提議」、「あとがき」もしっかりと精読し、さらに「第1部」「第2部」「総合討論会」を通読すること。その上でそれぞれの論考のうち1編あるいは複数編を精読し、中国における文化人類学の研究の動向や問題点を把握し、考察すること。また各論考末に挙げられている参考文献も適宜参照して考察を進めてほしい。
レポート課題1	<p>中国における文化人類学研究の動向と課題について(その1)</p> <p>留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。</p>
レポート課題2	<p>中国における文化人類学研究の動向と課題について(その2)</p> <p>留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。レポート課題1とは別にテーマを設定すること。</p>

基本教材 2

教材の概要	<p>著者名：川野明正著 教材名：『雲南の歴史—アジア十字路に交錯する多民族世界』（白水社、2013年） ISBN:978-4-86398-118-8 1800円+税</p> <p>本教材は漢族と「少数民族」が混在雑居する中国雲南に関する歴史を簡潔にまとめたものである。教材の中では歴史のみならず、「少数民族」の文化や社会についても言及している。</p>
参考図書	石島紀之著『雲南と近代中国—周辺の見点から』（青木書店、2004年） ISBN:4-250-20405-7
履修上のポイント	本教材を精読した上で、巻末にあげられている参考文献を参照し、雲南省に居住する「少数民族」の歴史や雲南省の歴史について理解を深めて、考察を進めてほしい。雲南省のさまざまな民族の文化、社会、歴史の多様性、複雑性や外部世界とのつながりを考えた上で、レポートを作成してほしい。
レポート課題1	<p>雲南省の「少数民族」の歴史について</p> <p>留意点： 雲南省の「少数民族」の一つを取り上げ、その歴史をレポートすること。もちろん教材以外の多くの参考文献を参照しつつレポートを作成すること。</p>
レポート課題2	<p>雲南省のさまざまな時代の状況について</p> <p>留意点： 雲南省の古代から現代までの状況について、一時代をピックアップしてレポートすること。例えば古代の「滇国」、「爨氏の時代」「南詔」、「大理」、元代、明代、清代、近代などをテーマとして取り上げてレポートを作成すること。</p>

基本教材1

第1回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第2回	教材の学修（「はじめに」、「問題提議」を読み込む）
第3回	教材の学修（「第1部」、「第2部」を読み込む）
第4回	教材の学修（「総合討論会」を読み込む）
第5回	レポート課題1の作成（草稿）
第6回	レポート課題1の作成（初稿の完成）
第7回	レポート課題1の添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1の最終稿の作成
第9回	教材の学修（「はじめに」、「問題提議」を再び読み込む）
第10回	第10回 教材の学修（「第1部」、「第2部」を再び読み込む）
第11回	教材の学修「総合討論会」を再び読み込む）
第12回	レポート課題2の作成（草稿）
第13回	レポート課題2の作成（初稿の完成）
第14回	レポート課題2の添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2の最終稿の作成

基本教材2

第1回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第2回	教材の学修(「はじめに」を読み込む)
第3回	教材の学修(「概説 雲南の地理と民族」を読み込む)
第4回	教材の学修(「本編 雲南の歴史」を読み込む)
第5回	レポート課題1の作成(草稿)
第6回	レポート課題1の作成(初稿の完成)
第7回	レポート課題1の添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1の最終稿の作成
第9回	教材の学修(「はじめに」を再び読み込む)
第10回	教材の学修(「概説 雲南の地理と民族」を再び読み込む)
第11回	教材の学修(「本編 雲南の歴史」を再び読み込む)
第12回	レポート課題2の作成(草稿)
第13回	レポート課題2の作成(初稿の完成)
第14回	レポート課題2の添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2の最終稿の作成

科目名	英語圏文化論特講	担当者	イノ ケイヤ 猪野 恵也	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	----------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	アイルランド文学は大雑把にあって、アイルランド語で書かれた文学と英語で書かれた文学(アングロ・アイリッシュ文学)に分かれる。この講座ではアングロ・アイリッシュ文学を扱う。近年、英語文学においてアイルランド文学は周辺的な存在ではなくなってきた。よく探求してみると、英語文学において豊かな水脈が流れており、様々な見方が可能である。アイルランド文学史を概観し、加えて、二つの作品を精読し、「英米文学」という括りを再考したい。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 アイルランド文学の基本的な概要に焦点を当て、アイルランド文学について知見を深める。 【行動目標(SBOs)】 ・英文精読を通じて英語に対する「気づき」を深める。 ・アイルランド文学について知ることができる。		
学修方略(方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 ・manaba folioを通じてインターアクティブな個別指導を行う。 ・Zoomを使用してオンラインで毎週一回読書会を行うので履修学生は連絡をお願いします。レポート1通の完成まで45時間の学修時間を要する。 (自習・自主研究・レポート作成) 学修時間：・教材と参考図書の学修:20時間 ・レポート執筆:10時間 ・教員の添削指導及び最終稿の完成:15時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 (自主)教材と参考図書の精読。 (自主研究)『アイルランド文学:その伝統と遺産』では各章の理解、原書購読では英語をしっかりと精読する。 (レポート作成)レポートの執筆		
スケジュール	前期 ・レポート課題1 締切:6月末(初稿) 最終提出:学事暦で定められた日までに提出する ・レポート課題2 締切:8月末(初稿) 最終提出:学事暦で定められた日までに提出する 後期 ・レポート課題1 締切:10月末(初稿) 最終提出:学事暦で定められた日までに提出する ・レポート課題2 締切:12月末(初稿) 最終提出:学事暦で定められた日までに提出する		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	完成したレポート、すなわち結果がすべてです。教材の理解度、課題に対して答えているかどうかで評価します。	80%
	観察記録	レポート添削に対する応答。レポートの提出がない場合は評価しません。	20%
履修者への要望	・通信授業(在宅学修)のレポートは初稿から最終稿まで教員のフィードバックによって修正、そして最終稿と段階的に進めていきます。 ・原書精読を進める際、英文読解に困難が生じた場合、教員に連絡してください。 ・研究室訪問を歓迎します。ただし、事前に連絡をお願いします。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：(1)木村正俊 編 (2) John McGahern 教材名：(1)『アイルランド文学:その伝統と遺産』(開文社出版、2014) ISBN: 978-4-87571-079-0 5,000円(税込) (2) Memoir (Faber & Faber、2006) ISBN: 978-0571228119 1,999円(税込) 『アイルランド文学:その伝統と遺産』はすぐれた論文集です。論文集とはいえ、解説や紹介がメインとっているので、通読すればアイルランド文学の流れが大体理解できます。Memoir は、そのタイトル通り、マクガハンが人生を静かに振り返る作品です、まずは原文にぶつかってじっくり読みましょう。
参考図書	尾島庄太郎・鈴木弘『アイルランド文学史』(北星堂、1977) ISBN: 4-590-0049-2 1,700円(税込)
履修上のポイント	まずはイギリス文学史の復習をお願いします。次にアイルランドの歴史と地名を予め学修してください。英文を読む際、英和辞書をしっかりと引き、精読をしてください。英文でわからない所があれば遠慮なく、質問してください。
レポート課題1	『アイルランド文学:その伝統と遺産』の第1章から第14章を読み、第5章、第6章、第11章、第13章、それぞれの章を要約せよ。本文のみ3500字から4000字。 留意点:アングロ・アイリッシュ文学の起源、アイルランド文芸復興運動、それぞれの特徴に留意する。
レポート課題2	Memoir を読み、内容の要約をし、この作品に対してどのような問い(作品に対する切り口や着眼点)を呈することができるのか述べて。本文のみ3500字から4000字。 留意点:問いは複数挙げてよい。例えば、文体の特徴、先行の文学作品との影響関係や比較など。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：(1)木村正俊 編 (2) John McGahern 教材名：(1)『アイルランド文学：その伝統と遺産』（開文社出版、2014） ISBN：978-4-87571-079-0 5,000円(税込) (2) Amongst Women(Penguin Publishing Group、1990) ISBN：978-0571315543 2,382円</p> <p>『アイルランド文学：その伝統と遺産』はすぐれた論文集です。論文集とはいえ、解説や紹介がメインとっているので、通読すればアイルランド文学の流れが大体理解できます。Amongst Women(1990)は、厳格な父モランを中心とした家族の物語です。まずは原文にぶつかってじっくり読みましょう。</p>
参考図書	尾島庄太郎・鈴木弘『アイルランド文学史』（北星堂、1977） ISBN：4-590-0049-2 1,700円(税込)
履修上のポイント	引き続き、イギリス文学史の復習をお願いします。次にアイルランドの歴史と地名を予め学修してください。英文を読む際、英和辞書をしっかり引き、精読をしてください。英文でわからない所があれば遠慮なく、質問してください。
レポート課題1	『アイルランド文学：その伝統と遺産』の第15章から第29章を読み、第15章、第19章、第11章、第24章、それぞれの章を要約せよ。本文のみ3500字から4000字。 留意点：JoyceとBeckettのエグザイルたちの文学、Heaneyの詩の特徴を把握してください。
レポート課題2	Amongst Women(1990)を読み、内容を要約し、この作品についてどのような問い(作品に対する切り口)を呈することができるのか述べよ。本文のみ3500字から4000字。 留意点：アイルランドの歴史、カトリックへの信仰、家父長制、文体の特徴など。

基本教材1

第1回	教材の学修(『アイルランド文学：その伝統と遺産』)第1章から第7章)
第2回	教材の学修(『アイルランド文学：その伝統と遺産』)第8章から第14章)
第3回	レポート課題1：初稿作成
第4回	レポート課題1：添削指導及び修正稿の作成
第5回	レポート課題1：最終稿の作成
第6回	教材の学修：Memoir(2006)の精読(英和辞書をよく引いて精読すること)
第7回	教材の学修：Memoir(2006)の精読の際、原文の構文などわからないところをまとめる
第8回	教材の学修：Memoir(2006)の歴史的背景などわからないところをまとめる
第9回	教材の学修：Memoir(2006)が総合的に読めているかどうか確認する
第10回	教材の学修：Memoir(2006)についてわからないことを質問し、教員が回答する
第11回	レポート課題2の作成にあたり、構想を考える
第12回	レポート課題2：初稿作成
第13回	レポート課題2：添削指導及び修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1と2について学修の振り返り

基本教材2

第1回	教材の学修(『アイルランド文学: その伝統と遺産』)第15章から第22章)
第2回	教材の学修(『アイルランド文学: その伝統と遺産』)第23章から第29章)
第3回	レポート課題1: 初稿作成
第4回	レポート課題1: 添削指導及び修正稿の作成
第5回	レポート課題1: 最終稿の作成
第6回	教材の学修: Amongst Women (1990) の精読(英和辞書をよく引いて精読すること)
第7回	教材の学修: Amongst Women (1990) の精読の際、原文の構文などわからないところをまとめる
第8回	教材の学修: Amongst Women (1990) の精読の際、歴史的背景、家族関係などわからないことをまとめる
第9回	教材の学修: Amongst Women (1990) が総合的に読めているかどうか確認する
第10回	教材の学修: Amongst Women (1990) についてわからないことなどを質問し、教員が答える
第11回	レポート課題2の作成にあたり、構想を考える
第12回	レポート課題2: 初稿作成
第13回	レポート課題2: 添削指導及び修正稿の作成
第14回	レポート課題2: 最終稿の作成
第15回	レポート課題1と2について学修の振り返り

科目名	言語教育学特講	担当者	イトウ ヒデアキ 伊藤 秀明	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>2001年に公開されたCEFR (Common European of Reference for Languages、ヨーロッパ言語共通参照枠)は、世界中の言語教育に大きな影響を与えている。日本ではCEFRに基づき、英語教育のCEFR-Jや日本語教育のJFスタンダード (国際交流基金) が開発され、さらに文化庁が「日本語教育の参照枠」を策定するなど、日本の言語教育の中軸になりつつある。しかし、日本での受容はCEFRの理念を抜きにしたものであり、ほぼ無批判なものだとの問題提起がなされている。</p> <p>これらの議論を踏まえ、本講義ではCEFRをより適切に活用できるようになることを目指して、CEFRの理念とより良い活用の仕方、ならびに教育現場への導入の事例について理解を深める。そのうえで、日本国内外のそれぞれの教育現場へのCEFRの応用について考察する。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育学やその研究に必要な専門性 (知識・技能・態度) を修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 CEFRの理念を説明することができる。 CEFRの適用例を収集し、評価し、論述することができる。 自分の関わる社会や教育現場へのCEFRの適用について提案することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 (自習) 教材の熟読、OERによる自律的学習：15時間 (自主研究) 参考文献の検索と熟読：10時間 (レポート作成) リポートの作成・リポート推敲：15時間 (ディベート) 掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動) 5時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 締切：6月15日 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切：8月15日 (初稿) 前期締切日 (最終稿)</p> <p><後期> ・レポート課題1 締切：10月15日 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切：12月15日 (初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 ★前期レポート課題1、2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。	80%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	<p>・レポートは教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。</p> <p>・初稿の提出は締め切りを遵守すること。</p> <p>・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。</p> <p>・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。</p> <p>・無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は評価の対象外となる。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：西山敬之・大木充（編） 教材名：『CEFRの理念と現実：理論編 言語政策からの考察』（くろしお出版、2021） ISBN-13：978-4874248669 3,000円+税</p> <p>『CEFRの理念と現実』シリーズは、長年CEFRを研究している編者たちが開催した国際研究集会「CEFRの理念と現実」を基に作成されたものである。上巻である本書は、CEFRの理念に関わる発表を中心にまとめられている。日本においてCEFRが無批判に受容されている現状を問題視し、それについて見直し、CEFRの訴える外国語教育の理念の正しい理解と使い方について検討している。</p>
参考図書	<p>奥村三菜子・櫻井直子・鈴木裕子『日本語教師のためのCEFR』（くろしお出版、2016） ISBN：978-4874247013 各2,000円+税</p> <p>キース・モロウ『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』（研究社、2013） ISBN-13：978-4327410834 3,200円+税</p> <p>Council Europe. Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment Companion Volume (2020) 原典：https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4 邦訳：https://www.goethe.de/resources/files/pdf/328/cefr-cv-jap-mit-cover-finale-neu-v3.pdf</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRは、日本では共通参照レベルやCan-doリストなどツールの側面に焦点があたりがちであるが、本講義ではヨーロッパ統合の歴史から生まれた複言語・複文化主義などの理念や複言語・複文化能力などの言語能力観などについて理解を深めてほしい。 ・参考図書の『日本語教師のためのCEFR』はCEFRの入門書と言えるものなので、CEFRについてあまり知識のない受講生はまず最初に読むことを勧める。 ・ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。
レポート課題1	<p>基本教材1や参考図書を参考に、CEFRの成立背景や目的、理念、特徴を整理したうえで、言語教育として革新的な点について考察する。（3,000字～4,000字） 留意点：要点をわかりやすくまとめること。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1から2つの論考を取り上げて要約したうえで、それらの論考に関連づけながら日本社会、あるいは自分自身が関与する言語教育におけるCEFRの活用法について論じる。（3,000字～4,000字） 留意点：海外在住などで他の国に精通している場合は、そこを取り上げることも可能である。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：西山敬之・大木充（編） 教材名：『CEFRの理念と現実：現実編 教育現場へのインパクト』（くろしお出版、2021） ISBN-13：978-4874248676 3,000円+税</p> <p>『CEFRの理念と現実』シリーズの下巻である。本書では、教育現場という現実においてCEFRがどのような効力を発揮したか、どのような限界を示しているのかについて論じられている。取り上げられた事例は日本語教育やフランス語教育など単一言語の現場だけではなく、多言語環境における言語学習の現場も含まれる。</p>
参考図書	<p>細川英雄・西山教行（編） 『複言語・複文化主義とは何かーヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へー』（くろしお出版、2010年） ISBN-13：978-4874245057 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRの理念は活かされているかという観点から各事例について検討してほしい。 ・CEFRの複言語・複文化主義という理念に特化した場合、参考図書に約10年前の事例が掲載されているので、そちらも参考にしてほしい。 ・ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、第二言語習得に関する理解を深めること。
レポート課題1	<p>基本教材2や参考図書から2つ以上の論考を取り上げ、教育現場へのCEFR導入の効果と限界についてまとめたいうえで、それに基づき、自分の教育現場への適応について論じる。（3,000字～4,000字） 留意点：自分の教育現場がない場合は、日本の英語教育などに置き換えることも可能である。</p>
レポート課題2	<p>日本語教育におけるCEFRの活用例や適用例に関する記事・論文を1～2編取り上げ、CEFRの理念に沿うものになっているかについて分析して考察する。（3,000字～5,000字） 留意点：CEFRの日本語教育における活用例の記事論文が見つからない場合は他の言語に置き換えることも可能である。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の第1章～第3章
第2回	教材の学修：基本教材1の第4章～第6章
第3回	教材の学修：基本教材1の第7章～第8章
第4回	教材の学修：参考図書
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：基本教材1の第1章～第3章
第10回	教材の学修：基本教材1の第4章～第6章
第11回	教材の学修：基本教材1の第7章～第8章
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の第1章～第3章
第2回	教材の学修：基本教材2の第4章～第6章
第3回	教材の学修：基本教材2の第7章, 第9章
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	CEFR関連記事・論文の検索・検討
第9回	CEFR関連記事・論文の検索・検討
第10回	CEFR適用例の検討
第11回	CEFR適用例の検討
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	言語教育学特講	担当者	コバヤシ ワカコ 小林 和歌子	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	---------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	第二言語習得理論及び英語教授法の分野に於いて、CLIL (Content Language Integrated Learning=内容言語統合型学習) は世界中の言語教育に大きな影響力を与えており多くの教室で実践されている。しかし、CLILはそのCEFRを背景としたヨーロッパを地盤とする言語・知識・試行・教学を統合する最新のメソッド・理念背景から生まれたにも関わらず、その実践が難しいとされている。それらの議論を踏まえて本講義ではCLILをいかに教育現場へと導入できるか、理念の理解と並行して事例を通して理解を深める。それらを踏まえて、日本国内外におけるCLILの教育現場への展開を考察することを目的とする。以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力・問題解決能力・挑戦力・指導力・自己分析能力の向上を目指す。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育学の方法論の基礎となる理論、理念に関わる知識を理解し応用する力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CEFRを背景としたCLILの基本原則を説明することができる。 ・ CLILのシラバスと教材等に関し理解を深め説明することができる。 ・ 第二言語習得理論研究から見たCLILの指導原理と実践に関し説明することができる。 ・ CLILのテストと評価に関し適切に論じ説明することができる。 ・ CLILの実践例を批判的思考力を持って考察し説明することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材と関連文献を熟読する。 : 15時間 (自主研究) 参考文献の検索と熟読。 : 10時間 (レポート作成) レポートを作成執筆する。 : 15時間 (ディベート) 掲示板上のディスカッション、ピア・フィードバック (受講生同士でお互いのレポートにコメントをし合い推敲活動を実施する) : 5時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館、インターネット上で自律的・自主的・主体的に論文を検索してレポートを作成する。 ・ manaba folioのコレクションを利用して教員からインタラクティブな個別指導を受ける。 ・ manaba folioを利用してポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 ・ manaba folioを利用して大学院生同志でピアレスポンス等の受講者同士の協働学習を行う。 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題1 締切: 6月15日 (初稿) (最終稿提出期限: 学事歴で定められた日) ・ レポート課題2 締切: 8月15日 (初稿) (最終稿提出期限: 学事歴で定められた日) <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題1 締切: 10月15日 (初稿) (最終稿提出期限: 学事歴で定められた日) ・ レポート課題2 締切: 12月15日 (初稿) (最終稿提出期限: 学事歴で定められた日) 		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	論理的明確性、緻密性、構成、文章表現の適正及び妥当性、引用における適切性等 ★前期レポート課題1, 課題2, 後期レポート課題1は最終稿で評価をする。 ★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。	80%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参画度、レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート作成においては教員によるフィードバックを受けた後修正、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の提出と段階を踏んで進める。 ・ 初稿の締め切り等に注意しそれを遵守すること ・ ピア・レスポンスはそれぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始めること。 ・ レポート作成に際しては「剽窃」に関し十分に注意し、引用のルールを厳守すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：笹島茂 教材名：『教育としてのCLIL』（三修社、2020年） ISBN:978-4-384-05929-8 3520円</p> <p>本書は、ヨーロッパで始まったCLILの背景、歴史、実践、国ごとの導入の状況、今後の見通しなどを概観した上でヨーロッパとは異なる部分を整理し日本に置けるCLIL教育の6つの基本理念を提案している。それらの理念に基づき理論、実践、将来に向けての方向性を考察する。著者によれば、CLILは学びを楽しみ、知識を深める自律学習の支援をし、教師と学習者の学ぶところに変化を起こす教育である。CLILの主な特徴は学習内容の理解に重きを置き、学習者の思考や学習スキルに焦点を当て、学習者のコミュニケーション能力の育成や学習者の文化あるいは相互文化の意識を高める点にある。</p>
参考図書	<p>Do Coyle・Phillip Hood・David Marsh 『CLIL Content and Language Integrated Learning』 Cambridge University Press ISBN 978-0-521-13021-9 5280円</p>
履修上のポイント	<p>・CLIL教育で名高い笹島茂氏がCLILの基本理念や実践に関し書き下した著書が基本教材1である。「CLIL」の基本理念である4つのC（Content, Communication, Cognition, Community or Culture）を柱として語学教育を分かり易く展開しているため、それらについて理解を深めて頂きたい。また、日本への文脈化として自律学習と異文化理解も含まれている。参考図書も適宜英語で読み進めながら高い語彙力・読解力がありながら実践力になかなか結び付かない日本人の為に教科内容と学術分野の知識と言語能力を同時に向上させる最新のメソッドを批判的思考力を持って読み進めて頂きたい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1と参考図書を参考に、CLILの基本理念や目的、特徴等を整理理解した上で、言語教育として優れている点について考察する。（3000語～4000語） 留意点：要点を分かり易くまとめて論じること。</p>
レポート課題2	<p>基本教材から1つか2つの論点を各自が取り上げて要約した上でそれらの論点に関連付けながら自分自身が関与する言語教育におけるCLILの実践方法について論じる。（3000～4000語） 留意点：英語科教育法等で既に学習した今までの英語教育におけるメソッドと比較対照しながら論じることも可能である。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：和泉伸一・池田真・渡部良典 教材名：CLIL 内容言語統合型言語学習 上智大学外国語教育の新たな挑戦第2巻 実践と応用（上智大学出版、2012年） ISBN 978-4-324-09209-5 2750円</p> <p>上智大学における外国語教育に携わる研究者がCLILについてその理論と実践に関し纏めた第2巻である。本書第2巻は「実践と応用」と題している。本シリーズでは新たなバリエーションを示唆することで日本のみならずアジア・世界の語学教育においても有用な内容であるとされている。</p>
参考図書	<p>Phil Ball・Keith Kelly・John Clegg 『Putting Clil into Practice』 Oxford University Press ISBN 978-0-19-442105-8 5395円 笹島茂他『CLIL 英語で学ぶ国際問題』三修社 ISBN 978-4-384-33513-2 2100円</p>
履修上のポイント	<p>CLILを日本に於いてまたは世界に於いて実践するには問題点は何なのかについて留意しながら基本教材2と参考図書を読み進めて頂きたい。CLILを背景理念とし作成されたテキスト等も手に取りながら教育現場に於いてCLILがどのような効果を発揮したのかまたどのような限界に直面しているのか、という観点から考察して頂きたい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材2と参考図書から2つ以上の論点を各自が見つけて教育現場へのCLILの導入の実績と実施状況について纏めた上で、自分自身の教育現場への適応・応用について論じる。（3000語～4000語） 留意点：日本のみならず、世界におけるCLILの実施状況についてWeb上から論文等検索し纏めて頂くことも可能です。</p>
レポート課題2	<p>日本の英語教育におけるCLILの実施状況について発表した論文を1～2編各自が取り上げそれらについて批判的思考力をもって纏め考察する（3000語～4000語） 留意点：CLILの実践例は英語で書かれた論文に限らず日本語で書かれた論文でも良い。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の第1章から第3章
第2回	教材の学修：基本教材1の第4章から第6章
第3回	教材の学修：基本教材1の第7, 第8章及び参考図書
第4回	教材の学修：参考図書
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：基本教材1の第1章から第3章
第10回	教材の学修：基本教材1の第4章から第6章
第11回	教材の学修：基本教材1の第7, 第8章及び参考図書
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の第1章から第3章
第2回	教材の学修：基本教材2の第4章から第6章
第3回	教材の学修：基本教材2の第7章から第8章及び参考図書
第4回	教材の学修：参考図書
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	CLIL関連記事及び論文の検索・検討
第10回	CLIL関連記事及び論文の検索・検討
第11回	CLIL適用例の検討
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	言語教育研究特講	担当者	シマダ メグミ 島田 めぐみ	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	2016年から2018年の間に発行された『日本語教育』に掲載された論文のうち約4割において統計手法が用いられている。自分自身の研究で統計手法を用いなくても、統計手法が用いられた先行研究を理解するために統計手法の知識は重要である。そこで、本科目では、言語教育学における方法論のうち、統計分析を用いた手法を学ぶ。前期は、基本的な統計手法について学び、できるだけ多くの研究例を理解する。後期は、実際のデータを用いて分析を行い、報告文書を書く。そして、最終的に、統計手法を用いた研究をデザインすることを学ぶ。 以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 言語教育学の方法論の基礎となる理論、理念に関わる知識を理解し、応用する力を修得する。 【行動目標(SBOs)】 ・基本的な統計手法について説明することができる。 ・統計手法を用いた研究事例を正しい理解に基づいて説明することができる。 ・データを分析し、結果を正しく解釈し、報告文書を作成することができる。 ・目的に即した統計手法を選択し、その手法を用いた研究をデザインすることができる。		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 (自習) 動画教材を視聴し、教材と関連文献を熟読する。 15時間 (自主研究) 課題に関し、事例研究を実施する。10時間 (レポート作成) レポートを執筆する。10時間 (ディベート) 他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5時間 (ディベート) 他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。 ・manaba folioを通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioを利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 ・図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。		
スケジュール	<前期> ・レポート課題1 締切：6月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日) ・レポート課題2 締切：8月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日) <後期> ・レポート課題1 締切：10月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日) ・レポート課題2 締切：12月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日)		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	受講者に配布する評価ルーブリックに基づく。評価ルーブリックでは、レポートごとに、「考え」「つながり」「応用」の段階を設けている。また、いずれのレポートについても、形式(構成、引用のし方、適切な表現)、論旨の明快さ、課題把握の適切性も評価の観点に加える。 *後期のレポート課題2は最終試験として初稿で評価する。 *その他のレポートは、最終稿にて評価する。	60%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等	40%
履修者への要望	・教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 ・無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。 ・生成AIを利用した場合は、どのように利用したかを、レポート最終行に明記すること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：島田めぐみ・野口裕之 教材名：『日本語教育のための初めての統計分析』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-89476-862-8 1,600円+税
	日本語教育専攻の大学院生を主な対象者として書かれた統計分析の入門書である。日本語教育分野における研究例を取り上げているが、日本語教育分野に限定した内容ではない。数式を使わずに説明しているため、統計初心者にとっても理解しやすい。
参考図書	三浦省五（監修）『英語教師のための教育データ分析入門』（大修館書店） ISBN: 978-4469244939 1,600円+税
履修上のポイント	統計に馴染みのない履修者にとって書籍だけで学ぶのは難しいかもしれない。そのため、基本教材の内容を講義する動画教材数本を提供するので、理解を深めるために視聴することを勧める。動画教材へのアクセス方法は、授業開始後、manaba folioを通して知らせる。最初は難しくても、動画教材、基本教材、関連論文を視聴・読解することで、必ず理解が深まるので、根気よく学んでほしい。また、ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、研究手法に関する理解を深めること。
レポート課題1	相関分析あるいはt検定を用いた論文を1編あるいは2編読み、十分理解した上で要約する。その際、教材で学んだことを関連づけて解説すること。また、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。（3,000字～4,000字） 留意点：要約する論文のURLあるいはPDFファイルも提出すること。
レポート課題2	カイ二乗検定あるいは分散分析を用いた論文を1編あるいは2編読み、十分理解した上で要約する。その際、教材で学んだことを関連づけて解説すること。また、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。（3,000字～4,000字） 留意点：言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文のURLあるいはPDFファイルも提出すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：島田めぐみ・野口裕之 教材名：『統計で転ばぬ先の杖』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-8234-1028-4 1,400円+税
	統計分析の結果を報告する際に犯しやすい誤りを中心に取り上げ、解説されている。グラフや表の作成、統計記号の書き方、各種検定の結果報告の仕方など、統計に関する書籍にはあまり記載されていない内容が含まれる。また、最近報告が求められる効果量についてもわかりやすく解説されている。
参考図書	中野博幸・田中敏『フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析』（技術評論社） ISBN: 978-4-7741-5019-2 1,880円+税
履修上のポイント	無料で提供されている統計ソフトjs-STARを用いて、基本教材1で学んだ統計手法を実際に用いて計算する。さらに、基本教材2の内容を理解し、適切に報告文書を作成する。js-STARの使い方、結果の解釈の仕方について、動画教材を提供するので、必ず視聴してから課題に取り組んでほしい。動画教材へのアクセス方法は、授業開始後、manaba folioを通して知らせる。また、ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、研究手法に関する理解を深めること。
レポート課題1	相関分析、t検定、カイ二乗検定それぞれについて、統計ソフト（js-STAR）で計算し、その報告文書を書く。相関分析、t検定、カイ二乗検定それぞれのデータは与えられたものを用いる。 留意点：計算に用いるデータは、manaba folioを通して配布する。また、文字数の制限は設定しないので、適切な情報量を判断すること。
レポート課題2	自分の興味のあるテーマを設定し、先行研究、研究目的、データ収集の方法、統計分析の方法を含めた実験計画を立てる。（3,000字～4,000字） 留意点：言語教育学あるいは言語学に関するテーマとすること。

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の第1章，第2章
第2回	教材の学修：基本教材1の第3章，第4章
第3回	動画教材の視聴，論文の講読
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1の第5章
第9回	教材の学修：基本教材1の第6章
第10回	動画教材の視聴，論文の講読
第11回	動画教材の視聴，論文の講読
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の第1章～第4章
第2回	教材の学修：基本教材2の第5章～第8章
第3回	動画教材の視聴，論文の講読
第4回	データの計算
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：基本教材2の第9章，第10章
第10回	動画教材の視聴，論文の講読
第11回	実験計画の検討
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	言語学特講	担当者	ホサカ ミチオ 保坂 道雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	-------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座では、英語と日本語の言語事実を比較・対照しながら、両言語の奥に潜む普遍的原理を、生成文法と機能的統語論の理論に基づき、探求するものである。特に、生成文法と機能的統語論が何を指し、現在の言語研究にいかなる貢献をなしてきたかを、日英語の言語データを通じて実証的に検証し、言語研究の奥深さを学んでいただきたい。あわせて、国語である日本語の構造と英語の構造を比較学習することも目指す。また、国語科の学校文法が依拠する各種日本語文法理論を再検討することも目的の1つとする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 言語研究の基本的な方法論を、日本語と英語の言語現象の比較を通して、実践的に学び、修得することを目標とする。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日英語の語法・文法・意味についての基本的知識を修得する。 ・生成文法による文構造の分析方法を修得する。 ・機能的統語論による談話構造の分析方法を修得する。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>まず、第一にテキストを精読し、その内容を十分に吟味し、理解した事柄を、自らの言葉で表現できることが大切である。また、その際、単なる内容のまとめではなく、その理解を深めるために、言語事実をよく観察し、テキスト外の言語事象にも目を配り、理解した内容を応用できる力を身につけてもらいたい。なお、レポート提出期限の1ヶ月前までに必ず初稿を提出すること。</p> <p>また、レポート1本につき準備から完成まで、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学修：15時間 ・レポート執筆：15時間 ・レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15時間 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施する。 ・manaba folioの掲示板機能を利用して、課題図書等に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。 ・図書館を利用して、参考文献を調査し、レポートを作成する。 		
スケジュール	<p>各テキストの内容に従って勉強を進め、レポート課題が済み次第、速やかに提出し、manaba folioを使ったインタラクティブな添削指導を受けることとする。なお、各レポート課題の最終提出前に、2回以上の指導を受ける必要があり、初稿提出は最終稿提出の2ヶ月前を目安とすること。また、レポート最終稿は学事暦で定められた日までに必ず提出すること。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	最終提出レポートの評価	60%
	観察記録	事前提出レポートに関する評価	40%
履修者への要望	<p>できるだけ早めにレポートの草稿を提出できるように心掛けて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：岸本秀樹 教材名：『ベーシック生成文法』（ひつじ書房，2009年）
	ISBN:978-4-89-476426-2 1,600円+税
参考図書	中村捷・金子義明・菊池朗『生成文法の新展開』（研究社，2001年） ISBN:978-4-32-742155-7 3,000円+税 福井直樹『新・自然科学としての言語学－生成文法とは何か』（筑摩書房，2012年） ISBN:978-4480094964 1,404円 中島平三・池内正幸『明日に架ける生成文法』（開拓社，2005年） ISBN:978-4-75-891809-1 3,000円+税 小野尚之他『生成文法の軌跡と展望』（金星堂，2014年） ISBN:978-4-7647-4430-3 2,500円+税 原口庄輔・中村捷・金子義明『<増補版>チョムスキー理論辞典』（研究社，2016年） ISBN:978-4767434797 6,480円
履修上のポイント	前期の目標は，現代言語学の中核理論である生成文法の基本を学び，以下の点を中心に，英語と日本語の統語構造について考察する。 ①文の構造 ②言語獲得 ③Xバー理論 ④意味役割 ⑤主語
レポート課題1	1. 第1章から第6章を読み，言語獲得と普遍文法の関係について，説明しなさい。 2. 第1章から第6章を読み，日英語の違いについて，Xバー理論に基づいて説明しなさい。 留意点：テキストの内容を熟読すること
レポート課題2	1. 第7章を読み，日英語のYES・NO疑問文を派生する方法について，Xバー理論に基づいて説明しなさい。 2. 第8章・第9章を読み，日英語の受動文を派生する方法について，項構造に配慮して説明しなさい。 3. 第12章・第13章を読み，日英語の主語について，項構造に配慮して説明しなさい。 留意点：テキストの内容を熟読すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名：高見健一 教材名：『機能的統語論』（くろしお出版，1997年）
	ISBN:978-4-87-424151-6 2,640円(税込)アマゾンにてオンデマンドで入手可能
参考図書	久野すすむ『談話の文法』（大修館書店，1978年） ISBN:978-4-46-922021-6 2,500円+税 高見健一『機能的構文論による日英語比較』（くろしお出版，1995年） ISBN:978-4-87-424107-3 4,200円+税 高見健一『日英語の機能的構文分析』（鳳書房，2001年） ISBN:978-4-90-030481-9 4,800円+税 中右実ほか『談話と情報構造』（研究社出版，1998年） ISBN:978-4-32-726002-6 2,400円+税 福地肇『談話の構造』（大修館書店，1985年） ISBN:978-4-469-14220-4 2,300円+税 西光義弘『日英語対照による英語学概論（増補版）』（くろしお出版，1999年） ISBN:978-4-87-424169-1 2,500円+税
履修上のポイント	後期の目標は，文の意味や機能に焦点を当てた機能文法の基本を学び，以下の点を中心に，英語と日本語の構文や現象の背後にある適格性について考察する。 ①後置文 ②省略 ③結果構文 ④受身文 ⑤Tough構文 ⑥中間態と可能態 ⑦視点 ⑧再帰代名詞 ⑨数量詞の作用域
レポート課題1	基本教材2（『機能的統語論』）の第1章から第4章まで，各章ごとに内容をまとめ，練習問題を解答すること。 留意点：テキストの内容を熟読すること
レポート課題2	基本教材2（『機能的統語論』）の第5章から第9章まで，各章ごとに内容をまとめ，練習問題を解答すること。 留意点：テキストの内容を熟読すること

基本教材1

第1回	テキスト第1章「ことばに対する考え方」の理解とまとめ
第2回	テキスト第2章「言葉の獲得の不思議」の理解とまとめ
第3回	テキスト第3章「普遍文法って何」の理解とまとめ
第4回	テキスト第4章「ことばの部品」の理解とまとめ
第5回	テキスト第5章「文法の核心」の理解とまとめ
第6回	テキスト第6章「構造の一般化」の理解とまとめ
第7回	レポート課題1の作成と修正（1）
第8回	レポート課題1の作成と修正（2）
第9回	テキスト第7章「文構造を考え直す」の理解とまとめ
第10回	テキスト第8章「意味役割の果たす役割」の理解とまとめ
第11回	テキスト第9章「能動と受動」の理解とまとめ
第12回	テキスト第12章「目的語のような主語」の理解とまとめ
第13回	テキスト第13章「主語の本当の出所」の理解とまとめ
第14回	レポート課題2の作成と修正（1）
第15回	レポート課題2の作成と修正（2）

基本教材2

第1回	テキスト第1章「後置文」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第2回	テキスト第2章「省略」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第3回	テキスト第3章「結果構文」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第4回	テキスト第4章「受身文」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第5回	レポート課題1の作成と修正（1）
第6回	レポート課題1の作成と修正（2）
第7回	レポート課題1の作成と修正（3）
第8回	テキスト第5章「Tough構文」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第9回	テキスト第6章「中間態と可能態」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第10回	テキスト第7章「視点」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第11回	テキスト第8章「再帰代名詞」の理解とまとめ、及び練習問題の解
第12回	テキスト第9章「数量詞の作用域」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第13回	レポート課題2の作成と修正（1）
第14回	レポート課題2の作成と修正（2）
第15回	レポート課題2の作成と修正（3）

科目名	異文化間コミュニケーション論特講	担当者	オガワ ナオト 小川 直人	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	------------------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座の目的は、今日のグローバル社会において日本人にも必要となった異文化間コミュニケーション能力の向上のため、知っておくべき様々な重要な側面について、考察しつつ理解を深めることである。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を習得すると共に、倫理的及び批判的思考能力を始め、問題発見力・問題解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 文化背景の異なる人たちとのコミュニケーションにおいて必要となる、様々な知識を獲得するとともに、応用する力を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 異文化間コミュニケーションの基本的プロセスについて、説明することができる。 - 異文化間コミュニケーションの効果性について、評価することができる。 - 異文化間コミュニケーション能力について説明し、評価することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 (自習) 教材の熟読、OERによる自律的学習：15時間 (自主研究) 参考文献の検索と批判的リーディング：10時間 (レポート作成) レポートの作成：20時間</p> <p>★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> - manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う。 - manaba folioを通じて、教員からインタラクティブな個別指導を受ける。 - 図書館、インターネットで文献資料を検索し、レポートを作成する。 		
スケジュール	<p><前期> レポート課題1 締切： 6月15日（初稿）、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題2 締切： 8月15日（初稿）、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p> <p><後期> レポート課題1 締切： 10月15日（初稿）、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題2 締切： 12月15日（初稿）、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	要約の正確さ、要約の構成、文章表現の妥当性、考察の独創性、引用の適切性、論旨の明確さ、注のつけ方の適切さ	80%
	観察記録	草稿の改善度：草稿への加筆、修正 レポート添削への対応	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要約問題については、課題の章を熟読し、定めた文字数に、バランスよくまとめること。 ・ 考察では、次の2点が重要となる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 要約した章に用いられている専門用語を用いて、考察を展開する。 2) テーマに関する知識と経験を基に考察する。経験が無い場合、経験するとしたらどうするかなど、考察する。 ・ 教科書・推薦書以外の文献からの引用も勧める。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：八代智子・久保田真弓 教材名：『異文化コミュニケーション論： グローバル・マインドとローカル・アフェクト』（松柏社，2014） ISBN：：978-4-7754-0184-2 2,400円＋税
	これまでの異文化間コミュニケーションの研究によって明らかにされた多くの事実について、現実のグローバル社会で生きていく際にどのようにこれらの事実が関わってくるのか、という視点からまとめられている。そのため、知識を実践的に身につけることができる。
参考図書	西田司・小川直人・西田順子『グローバル社会のヒューマンコミュニケーション』（八朔社，2017年） ISBN：978-4-86014-083-0 2,000円＋税
履修上のポイント	教科書の前半部分では、主にコミュニケーションのプロセスと文化との関係について扱われている。普段意識せずに行っているコミュニケーションについての知識を修得し意識化することにより、自身のコミュニケーションを客観的に認識し、さらには管理することができるようになる。そういった観点からレポートを作成し、自身の異文化間コミュニケーション能力の向上へと繋げること。
レポート課題1	要約：教科書の第1章、第3章、第4章の3つの章を読んで、その内容を3,000字程度で要約する。
	考察：これら3つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000字程度で考察する。 留意点：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。
レポート課題2	要約：教科書の第2章、第6章の2つの章を読んで、その内容を3,000字程度で要約する。
	考察：これら2つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000字程度で考察する。 留意点：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：八代智子・久保田真弓 教材名：『異文化コミュニケーション論： グローバル・マインドとローカル・アフェクト』（松柏社，2014） ISBN：：978-4-7754-0184-2 2,400円＋税
	これまでの異文化間コミュニケーションの研究によって明らかにされた多くの事実について、現実のグローバル社会で生きていく際にどのようにこれらの事実が関わってくるのか、という視点からまとめられている。そのため、知識を実践的に身につけることができる。
参考図書	小川直人『多文化共生と異文化コミュニケーション—台湾における東南アジアからの人々との共生』（八朔社，2020年） ISBN：978-4-86014-097-7 2,000円＋税
履修上のポイント	教科書の後半部分では、主に異文化の人たちとの共生で表れる様々なコミュニケーションの現象について扱われている。異文化の人たちとのコミュニケーションで生じ得る現象を理解することにより、彼（女）との実際のコミュニケーションを客観的に認識し、さらには管理することができるようになる。そういった観点からレポートを作成し、自身の異文化間コミュニケーション能力の向上へと繋げること。
レポート課題1	要約：教科書の第5章、第7章の2つの章を読んで、その内容を3,000字程度で要約する。
	考察：これら2つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000字程度で考察する。 留意点：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。
レポート課題2	要約：教科書の第8章、第9章の2つの章を読んで、その内容を3,000字程度で要約する。
	考察：これら2つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000字程度で考察する。 留意点：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の序章と第1章
第2回	教材の学修：基本教材1の第3章と第4章
第3回	参考図書の学修
第4回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第5回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：基本教材1の第2章
第10回	教材の学修：基本教材1の第6章
第11回	図書館での検索資料の学修
第12回	図書館での検索資料の学修
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の第5章
第2回	教材の学修：基本教材2の第7章
第3回	参考図書の学修
第4回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第5回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：基本教材2の第8章
第10回	教材の学修：基本教材2の第9章
第11回	図書館での検索資料の学修
第12回	図書館での検索資料の学修
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	社会言語学特講	担当者	イシベ ナオト 石部 尚登	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	---------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	社会言語学は、実際の社会の中で使用されている言語のあり方を考察の対象とする。言語は単にコミュニケーションのための道具であるだけでなく、様々な問題を引き起こし、問題を持続させ、また問題を解決するものでもある。本講義では、社会言語学の基礎的知識を修得するとともに、言語に関連する様々な現実の問題を知ることで、言語はそれが話される社会と密接に結び付いていることを理解する。常に言語を通して社会を深く理解しようとする社会言語学的な姿勢を身に付けことを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 社会言語学の基礎を修得し、言語の多様性を理解することを通して、豊かで柔軟な言語観を涵養する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 言語と社会、政治、文化の密接な関わり合いを理解できる。 社会の抱える諸問題を言語の観点から考えることができる。 自ら発見した問題に対し、実際に調査を行うことができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 基本教材および参考図書を熟読する。(自習) レポート作成のための文献検索および簡易調査を行う。(自主研究) 担当者との対話、ピア・レスポンスの学修活動を経てレポートを完成させる。(レポート作成・ディベート)</p> <p>レポート課題ひとつにつき、完成までに以下を目安に、最低45時間の学修時間が必要となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本教材および参考図書の学修：10時間 2) レポート作成のための文献調査および簡易調査の実施：10時間 3) レポート執筆：10時間 4) ピア・レスポンス等を通したレポート推敲：10時間 5) 最終稿の完成：5時間 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 manaba folioを利用して、受講者同士の協働学修を行う。 図書館やインターネット等を利用して、資料調査を行い、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期</p> <p>レポート課題1 初稿締切 6月15日／最終稿締切 前期締切日</p> <p>レポート課題2 初稿締切 8月15日／最終稿締切 前期締切日</p> <p>後期</p> <p>レポート課題1 初稿締切 10月15日／最終稿締切 後期締切日</p> <p>レポート課題2 初稿締切 12月15日／最終稿締切 後期締切日</p> <p>各レポートの最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	構想(問題発見、テーマ設定)、形式(構成、引用の仕方、文章表現)、内容(論旨の明快さ、独創性)、課題把握の適切性で、総合的に評価する。 なお、いずれのレポートも、最終稿で評価を行う。	80%
	観察記録	提出期限の順守、ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応、初稿から最終稿への改善の度合い(加筆、修正)で評価する。	20%
履修者への要望	<p>レポートの作成にあたっては、自身の経験を十分に活用するとともに、より多くの関連資料(文献やデータ)を参照する。</p> <p>また、他の受講者のレポートを精読し、適切なコメントを提供することを通じて、課題に対する理解を深め、自身のレポートの完成度の向上をはかる。</p> <p>なお、レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数(参考文献、注を除いたもの)を遵守すること。剽窃や無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：岩田祐子・重光由加・村田泰美 教材名：『改訂版 社会言語学：基本からディスコース分析まで』（ひつじ書房，2022年）ISBN：9784823411434 2,200円＋税</p> <p>社会言語学が扱うミクロなトピックからマクロなトピックまでバランスよく配置され、それぞれに関連する古典的研究から最新の研究が紹介されている入門書である。社会言語学的研究を行うための方法論やアプローチも独立したトピックとして紹介されているという特徴があり、Appendixも充実している。</p>
参考図書	<p>『社会言語学』（「社会言語学」刊行会）ISSN：13464078 『ことばと社会』（「ことばと社会」編集委員会，三元社） 『社会言語科学』（社会言語科学会）ISSN：13443909</p>
履修上のポイント	<p>言語に起因する社会的問題を考えるにあたり，名前の付いたある「ひとつの言語」の存在を前提とするのではなく，社会の中で人々が様々なことばを話しているという事実から考察をはじめめる姿勢を身につけてほしい。多様なことばの中からある「言語」が切りだされ可視化される仕組みに目を向けることは，社会言語学の重要な特徴のひとつです。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1で扱われているトピック（章）から2つを選択し，なぜそれらのトピック（章）を選択したのかの理由を含めて，それぞれ2,000字程度（トピック（章）2つで4,000字程度）で要約する。 留意点：自分自身の経験を取り入れたトピックの選択理由を提示したうえで，要約を行ってください。</p>
レポート課題2	<p>参考図書に挙げた3つの社会言語学の邦文専門雑誌に収められた論文の中から，自らが興味をもったものを1本選択し，その論文のレビューを行う（3,000字）。 『社会言語学』は https://syakaigengo.wixsite.com/home で，『ことばと社会』は http://www.sangensha.co.jp/allbooks/kotoba_tosyakai.htm で，『社会言語科学』は https://www.jass.ne.jp/journal/backnumber/ で，それぞれ既刊号の目次を参照することができる。 留意点：単なる論文の「紹介」に終わらず，批判的な視点からの「レビュー（批評）」を心掛けてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：かどや・ひでのり，ましこ・ひでのり編 教材名：『行動する社会言語学』（三元社，2017年）ISBN：9784883034499 3,000円＋税</p> <p>基本教材1で学修した社会言語学の基礎を前提として，実際に社会におけることばに起因する問題を考える，あるいはその解決を目指して「行動する」ための論考がおさめられている。具体的な問題の再検証や認知を通して新しい言語観を提示するという点で，（古典的）社会言語学批判の書でもある。</p>
参考図書	<p>佐野直子『社会言語学のまなざし』（三元社，2015年）ISBN：9784883033843 1,600円＋税</p>
履修上のポイント	<p>言語の多様性には，複数の言語が共存する言語「外」的な多様性と，方言などの言語「内」的な多様性の二つの側面があることを常に意識して学修を進めることで，そうした言語多様性に起因する問題が実際には身の回りに多く存在していることを能動的に発見して欲しい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材2の1章～11章のなかから自分の研究テーマともっとも関係のある（あるいはもっとも関心をもった）論考をひとつ選択し，各論考の筆者が提示する問題意識をまとめた上で，自分の研究テーマ（関心）に引き付けて論じたレポートを作成する（3,000字程度）。</p> <p>留意点：感覚的，個人的な見解ではなく，関連する複数の論文を参照した上で論理立てて論じ，その時点での結論を提示してください。</p>
レポート課題2	<p>これまでの課題で学修した内容を踏まえて，自身の身の回りの社会言語学の問題を見だし，それについて実際に簡易的な調査を行い，その成果を報告する（5,000～6,000字）。なお，レポート課題の調査地は日本以外の国や地域に設定してもかまわない。 留意点：調査の成否，得られた結果の新規性よりも，問題発見と課題設定を重視して取り組むこと。調査計画や調査方法について不安がある場合は，必ず担当者に相談をおこなった上で調査を実施してください。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の第1章～第6章の精読
第2回	教材の学修：基本教材1の第7章～第12章の精読
第3回	教材の学修：基本教材1の第13章～第18章の精読
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	課題論文の検索
第9回	課題論文の精読
第10回	課題論文の批判的検討
第11回	関連資料（文献，論文）の検索，参照
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の1章～4章の精読
第2回	教材の学修：基本教材2の5章～8章の精読
第3回	教材の学修：基本教材2の9章～11章の精読
第4回	レポート課題1：関連文献の検索，初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：参考図書 of 精読
第9回	教材の学修：参考図書 of 精読
第10回	レポート課題2：レポートの構想
第11回	レポート課題2：簡易調査の計画
第12回	レポート課題2：簡易調査の実施
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	第二言語習得論特講	担当者	タジマ ミチオ 田嶋 倫雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	-----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、第二言語習得論の多岐にわたる理論と研究結果を概観し理解を深め、基本的なデータ収集と調査による研究手順と、履修者各自の研究計画の作成の修得により以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 第二言語習得論の学際的で多様な側面をもつ理論に照らし合わせながら、外国語の習得に関する一般的見解を概観しつつ、学術的データからの証例を検討するため、自立した研究者としての自ら学び考える力を修得する。さらに外国語研究および教育における現状を理解し、説明する力を養う。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 履修者は自ら課題範囲内から研究題材を選択し、文献研究を通して現在の外国語教育の問題点の発見につとめ、論理的思考のもと解決策を記述する。さらに、実施可能な調査・研究の計画書および報告書を試作し説明することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 レポート課題を提出して形式のおよび内容的な指導を受ける。その指導をもとに課題を加筆・修正して再提出をする。学習の振り返りと指導に基づく加筆・修正の繰り返しを通して段階的にレポート課題を仕上げていく。 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>教材の学修： 20時間 レポート執筆：15時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：10時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 履修者同士のmanaba上での議論と課題に対するフィードバックを経て協働力とコミュニケーション能力を磨く。</p>		
スケジュール	<p>前期：レポート課題1の初稿は5月末まで、レポート課題2の初稿は6月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：レポート課題1の初稿は10月末まで、レポート課題2の初稿は11月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>初稿締切の変更を要する場合は、なるべく早めにスケジュール調整の依頼を担当者までメールで通知すること。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートの最終稿の形式（構成、体裁、参考文献など）や内容（論旨、独創性、考察など）を評価する。	60%
	観察記録	manaba上にて適宜実施予定のアンケートやクイズへの参加、レポート課題の提出期限の厳守、レポート添削後の修正について評価する。	40%
履修者への要望	メールやmanabaのマイコースにて随時通知する。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：Patsy M. Lightbown and Nina Spada 教材名：How Languages are Learned. 4th ed. Oxford University Press, (2013) ISBN:978-0-19-454126-8 £37.10</p> <p>第二言語習得論を基礎から学び、自分の興味ある研究分野の方向性を探る上で参考になる入門書といえる。第一言語習得からはじめ、第二言語習得の特徴、理論、調査結果など多くの例が提示されていて、全体を概観でき、意欲的な履修者にも読み応えのある内容である。4th edを使用する。</p>
参考図書	<p>①白井恭弘（著）『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』（岩波書店、2008年） ISBN:978-4-00-431150-8 1,012円</p> <p>②Steven Brown & Jenifer Larson-Hall（著）Second Language Acquisition Myths. University of Michigan Press, (2012) ISBN:978-0-472-03498-7 4,070円</p>
履修上のポイント	<p>基本教材や参考図書を中心に、また掲載されている引用文献なども参考にしながら、焦らずに熟読すること。担当教員と連絡を取り、必要な場合には内容や進度について相談すること。</p>
レポート課題1	<p>教材How Languages are LearnedのChapter 1と2を読み、外国語を教える教師にとって第二言語習得論を知ることの重要性を日本語3,000字程度で述べること。</p> <p>留意点：教材の引用、自分の考察、今後の研究にどう役立てられるかも加えること。</p>
レポート課題2	<p>教材のChapter 3を読み、学習の個人差について興味のある事柄を選択し、また学術雑誌から査読付き研究論文を3本以上（英文の論文1本以上）選び熟読し、その内容を簡潔にまとめること。</p> <p>留意点：先行研究をまとめたもの、自分の考察、今後の研究にどう役立てられるかも含めて3,000字程度で述べること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：教材1と同じ 教材名：教材1と同じ</p> <p>教材1と同じ</p>
参考図書	<p>① セリガー、ハーバート&ショハミ、イラーナ（著）『外国語教育リサーチマニュアル』（大修館書店、2001年）ISBN:978-4-46-924457-1 3,080円</p> <p>② 馬場今日子&新多了（編）『はじめての第二言語習得論講義—英語学習への複眼的アプローチ』（大修館書店、2016年）ISBN:978-4-469-24608-7 2,090円</p>
履修上のポイント	<p>基本教材や参考図書を中心に、また掲載されている引用文献などを参考にしながら、焦らずに熟読すること。担当教員と連絡を取り、必要な場合には内容や進度について相談すること。</p>
レポート課題1	<p>教材How Languages are LearnedのChapter 4と5を読み、第二言語学習を説明する理論と、学習者の学習を観察することについて3,000字程度で述べること。</p> <p>留意点：教材の引用、自分の考察、今後の研究にどう役立てられるかも加えること。</p>
レポート課題2	<p>教材のChapter 6と7を読み、教授法の提案と通説について興味のある事柄を選択し、学術雑誌から査読付き研究論文を3本以上選び（英文の論文1本以上）、その内容を簡潔にまとめること。</p> <p>留意点：研究計画書（想定も可）を含め、学術論文の体裁を意識し3,000字程度で作成すること。</p>

基本教材1

第1回	第二言語・外国語学習の通説と各自の経験との比較
第2回	教材1第1章
第3回	教材1第2章
第4回	第1&2章から課題を一つ選び学术论文の検索とその報告
第5回	レポート課題1初稿の作成
第6回	レポート課題1添削指導による推敲・修正稿の作成
第7回	レポート課題1ピアフィードバックによる完成稿の作成
第8回	教材1第3章
第9回	教材1第3章 オンラインピアディスカッション
第10回	教材1第3章 課題を一つ選び学术论文の検索とその報告
第11回	教材1第3章 課題を一つ選び査読付き学术论文の検索と要約
第12回	教材1第3章 課題を一つ選び査読付き英語学术论文の検索と要約
第13回	レポート課題2初稿の作成
第14回	レポート課題2添削指導による推敲・修正稿の作成
第15回	レポート課題2ピアフィードバックによる完成稿の作成

基本教材2

第1回	教材2第4章
第2回	教材2第5章
第3回	教材2第4&5章から課題を一つ選び学术论文の検索とその報告
第4回	レポート課題1初稿の作成
第5回	レポート課題1添削指導による推敲・修正稿の作成
第6回	レポート課題1ピアフィードバックによる完成稿の作成
第7回	教材2第6章
第8回	教材2第7章
第9回	教材2第6&7章 課題を一つ選び学术论文の検索とその報告
第10回	教材2第6&7章 課題を一つ選び査読付き学术论文の検索と要約
第11回	教材2第6&7章 課題を一つ選び査読付き英語学术论文の検索と要約
第12回	レポート課題2初稿の作成
第13回	レポート課題2添削指導による推敲・修正稿の作成
第14回	レポート課題2ピアフィードバックによる完成稿の作成
第15回	第二言語・外国語学習の通説と各自の経験との比較の再考

科目名	言語教育工学特講	担当者	ホサカ トシコ 保坂 敏子	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>現在、言語教育では、印刷教材だけでなく、デジタル教材やWebコンテンツ、ICT (Information and Communication Technology) の各種技術、AIなど、多種多様な教育メディアが利用されている。また、ICTにより教室を超えた対話や学習者の自律学習が可能になり、対面授業とオンライン授業を組み合わせるブレンデッドラーニングが散見される。コロナ禍では全面オンライン授業も実施された。このような状況を踏まえ、本講義では、言語教育におけるICTのより効果的な教育利用のために、教育工学の一分野であるインストラクショナルデザイン (Instructional Design:ID) を学ぶ。さらに、インタラクティブ・ティーチングに関するオープンエデュケーション教材 (Open Educational Resources: OER) を使ったオンデマンド授業を実体験する。これらの知識の習得と経験を通して、言語教育におけるより効果的なICTの活用能力を身に付ける。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 ICTを利用した言語教育やその研究に必要な専門性 (知識・技能・態度) を修得する</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対面授業とオンライン授業の基盤となる学習理論とIDのモデルを説明できる。 それを基に、言語教育の実践例を分析・評価できる。 OERを使った学習を体験し、自らの学びについて、ならびに、OERを使った学習の利点と問題点について論述できる。 自分の教育現場に配慮して、ICT利用した授業デザインを立案できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材の熟読, OERによる自律的学習: 15時間 (自主研究) 参考文献の検索と熟読: 10時間 (レポート作成) レポートの作成・レポート推敲: 15時間 (ディベート) 掲示板上のディスカッション, ピア・レスポンス (受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い, 推敲する協働活動) 5時間</p> <p>★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換, レポートの推敲のためのピア・レスポンス等) OERを視聴し, レポートを作成する。 図書館, インターネットで自律的に論文を検索し, レポートを作成する。 		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 締切: 6月15日 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切: 8月15日 (初稿) 前期締切日 (最終稿)</p> <p><後期> ・レポート課題1 締切: 10月15日 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切: 12月15日 (初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	論旨明確さ, 独創性, 構成, 文章表現の妥当性, 引用の適切性等 ★前期レポート課題1, 2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常通り行う。	80%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度, レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポートは, 初稿から最終稿にいたるまで, 教師のフィードバックによる書き直し, ピア・レスポンスによる推敲, 最終稿の完成と段階的に進める。 初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ピア・レスポンスは, それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。 レポートでは, 引用のルールや参考文献の明示, 制限文字数 (参考文献, 注を除いたもの) を遵守すること。無断引用等, 研究倫理上の重大な問題があった場合は, 評価の対象外となる。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：鄭仁星・久保田賢一・鈴木克明 教材名：『最適モデルによるインストラクショナル・デザイン—ブレンド型eラーニングの効果的な手法』（東京電機大学出版局，2008年）ISBN-10：4501543906 1,900円+税</p> <p>本書は、インストラクショナル・デザイン（Instructional Design: ID）とは何か、IDにはどのようなモデルがあるか、ブレンド型e-Learningの環境をどう設計するかについて解説している。対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業を設計する際の背景となる学習理論から設計の手順まで学ぶことができる。</p>
参考図書	<p>C. K. ライゲルース, B. J. ビーティ, R. D. マイヤーズ編 鈴木克明監訳 『インストラクショナルデザイン理論とモデル：学習者中心の教育を実現する』（北大路書房，2020）ISBN-10:4762831115 4,500円+税</p>
履修上のポイント	<p>教育工学は、コンピュータやICTなどを使った「テクノロジーによる教育」だと捉えられがちだが、教育過程そのものをテクノロジーとして捉える「テクノロジーとしての教育」を重視する研究する分野である。後者では、ICTを利用する教育を学習環境として授業に効果的に位置付けることが重要だとされる。IDを学び、国語や英語、日本語等の言語の授業における効果的なICTの活用について検討すること。 ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題1	<p>1章～6章や参考図書を読んで、IDの定義と背景となる学習観・学習理論、各種モデルについてまとめたうえで、教材で紹介されているOPTIMALモデルの概要と特徴を解説し、OPTIMALモデルの利点と問題点について論じる。（3,000字～4,000字） 留意点：学習理論によるIDモデルの違い、OPTIMALモデルの特徴を簡潔に解説すること。</p>
レポート課題2	<p>言語教育や異文化間教育分野のICTを利用した実践例（論文・報告書）を検索し、事例を2つ取り上げて、基本教材の7章、8章を参考にOPTIMALモデルを枠組みに分析を行い、その結果について論じる。（3,000字～4,000字） 留意点：マイクロデザインとマイクロデザインに分けて整理すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：栗田佳代子，日本教育研究イノベーションセンター 編著 教材名：『インタラクティブ・ティーチング—アクティブ・ラーニングを促す授業づくり—』（河合出版，2017年）ISBN:978-4-7772-1794-6 2,500円+税 講義動画：https://jrecin.jst.go.jp/html/app/seek/html/yomimono/interactive_teaching1/index.html（JREC-IN 科学技術振興機構）</p> <p>講義動画はJMOOC講座として配信されたもので、現在、OERとしてJREC-INで公開されている。印刷教材は、その講義動画を学ぶための教材である。大学教員準備プログラムから生まれた講座であるが、アクティブ・ラーニングの手法やループリックによる評価など、インタラクティブ・ティーチングの理論や方法論が体系的に学べ、分野を問わず教師の能力開発に役に立つ。</p>
参考図書	<p>山田智久・伊藤秀明 編『オンライン授業を考える—日本語教師のためのICTリテラシー』（くろしお出版，2021年）ISBN-10:4874248799 1,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>8週間のプログラムの学習をそれぞれ自律的に進めて、印刷教材の課題に取り組むこと。OERを使った自律的な学びの実体験に基づき、学んだ内容と学習方法をクリティカルに検討する。参考図書や論文をできるだけ参照して、自分の現場を念頭に置いた授業デザインを考案する。 ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題1	<p>8週間の講義動画の受講に基づき、次の2点について論じる。（3,000字～4,000字） ①受講したOER教材の学習内容の中から、特に重要だと思ったこと ②①の観点からみた、OER教材を使った学習経験の振り返り（利点や注意点など）とその経験の一般化の可能性</p> <p>留意点：①は OER「インターラクティブ・ティーチング」の特定の1章または1項目に焦点を絞って分析的に論じること、②は今回の他のOER教材でも同じことが言えるかを根拠とともに検討すること。</p>
レポート課題2	<p>自分の教育現場を対象に、ICTを利用したインタラクティブな授業なデザインを検討してシラバスを作成し、その特徴や期待される効果について論じる。（3,000字～5,000字） 留意点：目的や目標の記述、評価の方法などシラバスの記述方法は、基本教材2の第5章に則ること。1コマの指導案ではなく、ひとつのコースを計画すること。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の1章～4章
第2回	教材の学修：基本教材1の5章～7章
第3回	教材の学修：基本教材1の8章～10章
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1の7章～8章
第9回	課題論文の検索と分析
第10回	課題論文の検索と分析
第11回	課題論文の検索と分析
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の1章～2章の学修と講義動画の視聴
第2回	教材の学修：基本教材2の3章～4章の学修と講義動画の視聴
第3回	教材の学修：基本教材2の5章～6章の学修と講義動画の視聴
第4回	教材の学修：基本教材2の7章～8章の学修と講義動画の視聴
第5回	教材の学修：基本教材2の9章～10章の学修と講義動画の視聴
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	授業デザインとシラバスの検討
第11回	授業デザインとシラバスの検討
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	言語教育デザイン論特講	担当者	ハギハラ コウジ 萩原 幸司	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	-------------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	言語教育、特に日本語教育の実践に関して、自己の教育理念の検討から、状況に応じた学習目標の確定、授業計画の策定に至るまでの具体的な検討を行う。この講座を通して、以下の能力を身に付けることを目的とする。 1. 課題に対し、論理的、批判的、多角的に思考し、明快且つ具体的に自己の見解を述べる能力 2. これまでの教育実践や学習で得られた知見を活かしつつ、他者との協働を通して新たな知見を得、それらを自己の教育実践に反映させ、独自の授業計画を構想する能力		
到達目標	【一般目標(GIO)】 日本語教育全般及び自己の教育実践を批判的、多角的に捉え直し、そこに新たな知見を採り入れて、自己の新たな教育実践を創り上げていく能力を身に付ける。 【行動目標(SBOs)】 1. 基本教材の内容を正確に読み取り、論理的、批判的、多角的に思考することができる 2. 自己の教育理念に基づき、具体的な授業計画を構想することができる		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 (自習) リポート課題を念頭に置きながら、基本教材を熟読する：10時間 (自主研究) リポート課題に関連する文献や資料に当たり、問題点を整理する：10時間 (リポート作成) リポートの初稿、修正稿、更に最終稿を執筆する：20時間 (対話) manaba folioを利用し、リポートの構成及び内容について、担当教員との対話を通して検討を重ねる：5時間 ★学修時間は課題リポート1本当たりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 1. manaba folioを利用して、アクティブ且つインタラクティブな学習を展開する 2. 図書館やインターネットを活用し、資料の収集やリポート作成等、自主研究を進める		
スケジュール	<前期> リポート課題1：初稿は6月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する リポート課題2：初稿は8月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する <後期> リポート課題1：初稿は10月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する リポート課題2：初稿は12月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する		
成績評価	種別	評価基準	割合
	リポート	1. リポートの構成と内容が課題に対応しているか 2. 論旨が明快で、読み手に分かり易く論じられているか 3. 引用の仕方を含めて、記述が適切であるか	80%
	観察記録	対話への姿勢、リポート添削への対応等	20%
履修者への要望	1. 基本教材を読み進めつつ、参考図書その他、関連する文献や資料等も参照し、論理的、批判的、多角的に思考するように努めてほしい 2. 対話では、思ったことを述べるだけでなく、何故そう考えるのか、改善するためにはどうすれば良いのか等、建設的な議論となるように努めてほしい 3. リポートは、正しい引用の仕方を含め、論文としての体裁を満たしていることが前提である。学会の投稿規定等を参照し、十分に推敲してから提出するようにしてほしい		

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：倉八順子 教材名：『「日本語教師」という仕事 多文化と対話する「ことば」を育む』, 明石書店, 2021 ISBN 978-4-7503-5198-8 2,200円(税込) 長く日本語学校で日本語教育を実践してきた著者が、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に際し、多文化に開かれた日本語教育を省察する。題名の通り、「『日本語教師』という仕事」を正面から問う書であり、日本語教師養成課程に欠落している項目を補うものでも考えられる。
参考図書	館岡洋子(編), 『日本語教師の専門性を考える』, ココ出版, 2021 ISBN 978-4-86676-033-9 2,640円(税込)
履修上のポイント	自己のこれまでの日本語教育実践を根本から振り返りつつ、基本教材1を熟読してほしい。そこに、日本語教師である自己自身が大学院で学び、研究する意義、即ち日本語教育実践を研究として追究する意義が必ず見付かるはずである。
リポート課題1	「1 日本語教師とは何だろう」から「6 日本語を教えるには何が必要だろう？」までを読み、「『日本語教師』という仕事」についての筆者の考えを纏めた上で、それに対する自己の見解を述べる。その際、「7 Good Language Learnerに育てるために」以降を参照しても良い。 留意点：引用と自己の見解を明確に区別し、読み手に分かり易く論じること
リポート課題2	「7 Good Language Learnerに育てるために」以降で論じられている学習観及びそれに基づく授業の実践例の中から、関心を引かれたものを取り上げ、そこでの学習観と実践例の繋がりを纏めた上で、同様な事例を自己が実践する場合にどうするかを論じる。 留意点：取り上げた実践例が、他の実践研究でどのように扱われているかも参照してほしい

基本教材 2	
教材の概要	著者名：深澤のぞみ・本田弘之（編著），飯野令子・笹原幸子・松田真希子（著） 教材名：『日本語を教えるための教授法入門 第2版』，くろしお出版，2025 ISBN 978-4-8011-1002-1 C0081 2,200円（税込） 「日本語教育の方法を学びはじめた人のために」（「はじめに」）書かれた書であり、「日本語教育とは、日本語教師とは何か」（第1章）を考えるとところから出発し、教授法及び教材を知り、授業の実践から評価までを考えていく。新たな実践及び研究の示唆に富むものである。
参考図書	望月雅美『どう教える？日本語教育 「読解・会話・作文・聴解」の授業』，アルク，2021， ISBN 978-4-7574-3929-0 2,530円（税込）
履修上のポイント	自己のこれまでの日本語教育実践を振り返り、理念から計画、実践までの繋がりを意識しつつ基本教材2を熟読してほしい。そこに、それまでの自己には無かった新たな実践及び研究が生まれる契機が必ずあるはずである。
レポート課題1	第1章から第5章までを読み、関心を引かれたキーワードとその関連事項を取り上げて纏め、それに対する自己の見解を述べる。その際、第6章以降を参照しても良い。 留意点：引用と自己の見解を明確に区別し、読み手に分かり易く論じること
レポート課題2	基本教材2で扱われている教授法の中から、関心を引かれたものを取り上げ、それを応用して新たな授業計画を提案する。 留意点：提案する計画は授業の中の一部でも良いので、どのような教育理念或いは理論を基にその学習活動が構想されているかが分かるように示すこと

基本教材1

第1回	教材学修：基本教材1の1、2、3を熟読し、テーマを模索
第2回	教材学修：基本教材1の4、5、6を熟読し、テーマを模索
第3回	教材学修：基本教材1からテーマを見出し、関連する資料、文献を調査
第4回	レポート課題1：テーマを基に集めた題材を検討し、レポートを構想
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材学修：基本教材1の7、8を熟読し、テーマを模索
第9回	教材学修：基本教材1の9、10を熟読し、テーマを模索
第10回	教材学修：基本教材1の11、12を熟読し、テーマを模索
第11回	教材学修：基本教材1からテーマを見出し、関連する資料、文献を調査
第12回	レポート課題2：テーマを基に集めた題材を検討し、レポートを構想
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材学修：基本教材2の第1章、第2章、第3章を熟読し、テーマを模索
第2回	教材学修：基本教材2の第4章、第5章を熟読し、テーマを模索
第3回	教材学修：基本教材2からテーマを見出し、関連する資料、文献を調査
第4回	レポート課題1：テーマを基に集めた題材を検討し、レポートを構想
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材学修：基本教材2の第6章、第7章を熟読し、テーマを模索
第9回	教材学修：基本教材2の第8章、第9章を熟読し、テーマを模索
第10回	教材学修：基本教材2の第10章を熟読し、テーマを模索
第11回	教材学修：基本教材2からテーマを見出し、関連する資料、文献を調査
第12回	レポート課題2：テーマを基に集めた題材を検討し、レポートを構想
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	日本語学特講	担当者	ヨシダ タカシ 吉田 敬	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	--------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	しばしば言語研究では、実際の用例をもとに分析や考察がなされる。この講座では、主に現代日本語の表記を対象としながら、用例に基づいた調査・研究の方法について学んでいく。まず前期は、私たちにとって身近な存在でもある日本語表記について理解を深める。そのうえで後期では、表記的な事象も題材として織り交ぜながら、主に『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)とNINJAL-LWPの基本的な使い方を学習する。これらを通して、用例をもとに論証していく調査・研究の手法を実践的に学ぶ。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 用例調査に基づく言語研究の方法の一端を理解するとともに、レポートに必要な文章表現力も身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代日本語表記の特徴を説明できる。 ・用例に基づいて論証することができる。 ・コーパスを用いた基本的な調査や検証を行うことができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>(自習)教材と関連文献を熟読する。15時間 (自主研究)教材や関連文献を参考にし、レポート課題に必要な調査や分析を行う。15時間 (レポート作成)レポートの作成・推敲、および教員のコメントを踏まえた改稿。15時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づいて自身の学修を振り返る。 ・図書館やインターネットで自律的に文献を収集し、レポートを作成する。 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 1 締切6月15日(初稿)前期締切日(最終稿提出期限:学事暦で定められた日) ・レポート課題 2 締切8月15日(初稿)前期締切日(最終稿提出期限:学事暦で定められた日) <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 1 締切10月15日(初稿)後期締切日(最終稿提出期限:学事暦で定められた日) ・レポート課題 2 締切12月15日(初稿)後期締切日(最終稿提出期限:学事暦で定められた日) 		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	論旨明確さ、獨創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 *いずれのレポートも最終稿で評価する。	80%
	観察記録	レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、推敲を重ねて初稿を仕上げ、教員のフィードバックを経て、最終稿の完成を目指すこと。 ・字数は目安であり(厳守を求めるものではない)、ある程度の幅や柔軟性があると考えて良い。 ・前項の初稿から最終稿完成までの流れを踏まえ、各期の締切日(最終稿提出期限)に間に合うよう、計画的に学修を進めてほしい。 ・無断引用、不適切な引用などがなされた場合は、評価の対象外となることがある。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名:佐竹秀雄・佐竹久仁子 教材名:『日本語を知る・磨く ことばの表記の教科書』(ベレ出版, 2005年) ISBN: 978-4860640859 1,300円+税 amazonペーパーバック版: 2,000円+税 各種電子書籍版: 1,100円+税</p> <p>同書は、日本語の表記についてわかりやすくまとめられたテキストである。日本語表記の現状や、現代の表記体系に至るまでのおおまかな流れに加え、表記に関わる諸問題や運用面まで、多岐にわたる項目を扱っている。</p>
参考図書	<p>沖森卓也・笹原宏之・常盤智子・山本真吾『図解 日本の文字』 (三省堂, 2011年) ISBN: 978-4385364803 2,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>「表記」は日常的に関わる身近なテーマである。それだけに、テキストを読むと同時に内省も活性化すると(テキストを読みながら、それに該当する身近な事例を思い浮かべてみると)、テーマが自分に引き付けられ、理解も深まると思われる。また、必要に応じて、上記の参考図書なども活用してほしい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1を読み、日本語表記の成立と、現代の主な国字政策(「常用漢字表」「送り仮名の付け方」「現代仮名遣い」「外来語の表記」など)についてまとめる。(3000字程度) 留意点:必要に応じて、参考図書も参照してほしい。</p>
レポート課題2	<p>第4章(pp.79-103)を参考に、漢字・ひらがな・カタカナの基本的な機能や用法をまとめたうえで、そうした基本的な機能や用法とは趣の異なる、「表記における表現性」(pp.32-34)が現れた用例を書籍や雑誌、インターネットなどから集め、どのような表現効果が生じているか考察する。(3000字程度) 留意点:必ずしも多数の用例を収集する必要はないが、自らの考察や論証に必要な用例は集めて、論述に際して適宜、それらを提示すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	著者名：李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子 教材名：『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』（くろしお出版，2018年） ISBN：978-4-874247716 2,400円＋税 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）などを用いた検索事例や練習問題が収められており、主要な日本語コーパスの活用方法の基本を包括的、かつ実践的に学ぶことができるテキストである。
参考図書	中俣尚己『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』（ひつじ書房，2021年）ISBN：978-4823410598 1,800円＋税 赤瀬川史朗・パルデン，P.・今井新悟『日本語コーパス活用入門—NINJAL-LWP実践ガイド—』（大修館書店，2016年）ISBN：978-4469222555 2,400円＋税 砂川有里子『日本語コーパスの世界へようこそ—気になる言葉の使い方を調べてみよう！—』（大修館書店，2024年）ISBN：978-4469222838 2,000円＋税
履修上のポイント	後期は、主にBCCWJとNINJAL-LWPの基本的な使い方を学ぶ。BCCWJなどを使うためのアプリケーションの1つに「中納言」があるが、「中納言」の使い方については、参考図書に挙げた『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』に沿って解説した動画（本欄末のURL）が公開されているので、必要に応じて参考にすること。また、テキストにはNINJAL-LWPの基本的な使い方についても述べられているが、より詳しい使い方については、参考図書（『日本語コーパス活用入門—NINJAL-LWP実践ガイド—』）などを適宜参照してほしい。 ※「中納言」の解説動画： https://www.youtube.com/channel/UCk6pcsLUyp0Z9ZEPnVpb7TQ
レポート課題1	基本教材1の第2部・第2章（pp.162-201）では、同訓異字や品詞による書き分けなど、トピック別に様々な表記のゆれが述べられている。それらのなかからどれか1つのトピック、ないしは複数のトピックを選び（あるいは参考にし）、「中納言」のBCCWJを使って表記のゆれや書き分けについて考察する。（3000字程度） ※複数のトピックで書く場合でも、ある程度、包括的な考察を加えること。 留意点：レポートの内容は、基本教材1（第2部・第2章）から選んだ（あるいは参考にした）トピックの記述に対して、BCCWJによってデータの裏づけを加えて論じるものでも、反証するものでも構わない。あるいは、任意のトピックをテーマに据えて、表記の書き分け等について独自に考察するものでも良い（参考までに一例を挙げると、異字同訓や表外漢字に関することをテーマにした場合であれば、任意のことばの表記傾向（たとえば、「寂しい」や「淋しい」の違いなど）を調べて、どのように書き分けられているか考察するレポートなどが考えられる）。
レポート課題2	基本教材2の「13.6 練習問題」（p.231）の(1)に取り組んで、考察したことをレポートとしてまとめる。（3000字程度） 留意点：「13.6 練習問題」の(1)は、NINJAL-LWPを使って、「大きい」「強い」「深い」とそれぞれ共起する名詞を調べ、これらの形容詞の使い分けについて考察する課題である。基本的に考察はコーパスによる調査結果を踏まえて行うものとするが、必要に応じてそれらの形容詞についての辞書の記述なども交えながら多角的に論述することは何ら差し支えない。また、使用するコーパスツールはNLBでもNLTでも構わない。

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の第1部・第1～2章
第2回	教材の学修：基本教材1の第1部・第3～4章
第3回	教材の学修：基本教材1の第1部・第5～7章
第4回	参考書や図書館を用いた学修
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1の第2部・第1章
第9回	教材の学修：基本教材1の第2部・第2章
第10回	教材の学修：基本教材1の第3部・第1章
第11回	教材の学修：基本教材1の第3部・第2章
第12回	参考書や図書館を用いた学修
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の第1～3章
第2回	教材の学修：基本教材2の第4～6章
第3回	教材の学修：基本教材2の第7～9章
第4回	参考書や図書館を用いた学修
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材2の第10章～第11章
第9回	教材の学修：基本教材2の第12章～第13章
第10回	教材の学修：基本教材2の第14章～第15章
第11回	参考書や図書館を用いた学修
第12回	参考書や図書館を用いた学修
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	日本語教育方法論特講	担当者	シマダ メグミ 島田 めぐみ	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	------------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	日本語教育を考える際、教育の場（日本国内、国外）、機関（初等教育、中等教育、高等教育）は多種多様であり、対象者も年少者、学生、ビジネス関係者、日本の生活者など多様化している。本講義では、日本語教育の状況、言語学、異文化コミュニケーション、指導法、評価法、教授法、社会、歴史、教材などの観点から多角的に日本語教育を概観し、個々の環境に適した方法を考察する。以上の目的を達成することにより、世界の日本語教育を適切に考察する能力、日本語教育に関する問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 日本語教育について広く理解し、個々の教育現場に適した日本語教育の方法を多角的に考察する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や社会環境と日本語教育を関連づけることができる。 ・国内外の日本語教育の多様性を説明することができる。 ・各種言語評価の理論を理解した上で、適切に活用することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>(自習)教材と関連文献を熟読する。15時間 (自主研究)課題に関し、事例研究を実施する。10時間 (レポート作成)レポートを執筆する。10時間 (ディベート)他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5時間 (ディベート)他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5時間</p> <p>★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。 ・manaba folioを通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioを利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 ・図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1 締切：6月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） ・レポート課題2 締切：8月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1 締切：10月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） ・レポート課題2 締切：12月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） 		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	受講者に配布する評価ルーブリックに基づく。評価ルーブリックでは、レポートごとに、「考え」「つながり」「応用」の段階を設けている。また、いずれのレポートについても、形式（構成、引用のし方、適切な表現）、論旨の明快さ、課題把握の適切性も評価の観点に加える。 *後期のレポート課題2は最終試験として初稿で評価する。 *その他のレポートは、最終稿にて評価する。	60%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等	40%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 ・無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。 ・生成AIを利用した場合は、どのように利用したかを、レポート最終行に必ず明記すること。 ・各レポート提出時に、レポート執筆チェックリストをあわせて提出すること。チェックリストは、学期開始後、manaba folio上に掲載する。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：遠藤織枝 教材名：『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』（三修社，2020） ISBN: 978-4-384-05973-1 2,400円+税 Kindle版：2,090円（税込）</p> <p>日本語教育の状況、歴史、言語政策、第二言語習得、教授内容、評価、社会、カリキュラムなどの観点から多角的に日本語教育を概観している本である。世界各地の日本語教育現場のレポートも掲載されており、日本語教育の多様性が理解できる。Kindle版は、下記URLから購入できる。 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059731/</p>
参考図書	<p>国際交流基金『海外の日本語教育の現状 2024年度日本語教育機関調査』Web版 ＊2026年3月末までに公開される予定。</p>
履修上のポイント	<p>基本教材1は日本語教育の基礎的内容なので、いずれの章も十分理解してほしい。特に、歴史や社会情勢との関係を理解し、日本語教育のあり方を考えること。また、それらを理解した上で、地域・対象者を具体的に想定し、コースデザインを検討すること。 ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、日本語教育に関する理解を深めること。</p>
レポート課題1	<p>第1章、第2章、第3章を読み、歴史や社会情勢がどのように日本語教育に影響を及ぼしていたかを考察し、さらにこれからの日本語教育のあり方を論じる。（4,000字～5,000字） 留意点：歴史的事実と日本語教育の関係を把握して、現在における学習者のニーズの変化を理解して、考察すること。教材であっても、引用する場合は、必ず出典を記載すること。「引用」か「自己の考察」かが明確にわかるように記述すること。</p>
レポート課題2	<p>第2章、第3章、第7章から第10章を中心に読んだ上で、地域・対象者を1つ設定して、どのような日本語教育を実践するか、コースデザインを検討する。国際交流基金の海外の日本語教育の現状2024年度調査の結果をニーズ把握の参考にする。地域は国内外を問わない。（3,000字～4,000字） 留意点：シラバス（学習項目一覧）、教材、具体的な活動（1例）、評価の方法を含める。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：文化庁文化審議会国語分科会 教材名：日本語教育の参照枠 報告 https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf</p> <p>2021年に公開された「日本語教育の参照枠」は、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) を参考に策定された、学習、教授、評価に関わる包括的な参照枠である。日本語能力の評価については、特に章を設け、評価に関する考え方、各種評価の説明、参照枠との対応づけなどが取り上げられている。 基本教材1でもある『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』の8章「評価」では評価・テストについての基本的な理論と各種評価が取り上げられているため、参照すること。</p>
参考図書	<p>Council of Europe. (2020). Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment - Companion Volume. https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4 日本語訳は下記URLからダウンロードできる。 https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/unt/ger.html</p>
履修上のポイント	<p>CEFRは、「Learning, teaching, assessment」とあるように、評価の枠組みでもあり、「日本語教育の参照枠」もそれに倣っている。多様な学習者の能力評価は重要であり、様々な評価の方法があること、評価の理念を学んでほしい。その上で、多様な評価・テストの実践例を自主研究、ピア・レスポンスを通して、理解を深めること。</p>
レポート課題1	<p>基本教材2「日本語教育の参照枠」で取り上げられている各種評価（pp.78-89）を理解し、これら評価に関する論文1編あるいは2編の内容を要約をした上で、その評価に関し自分の意見を論じる。基本教材1（第8章）も参考にすること。（3,000字～4,000字） 留意点：要約は、論文を十分理解し、「自分の言葉」で書くこと。また、基本教材で学んだ内容と論文の内容を関連づけること。</p>
レポート課題2	<p>基本教材2と基本教材1（第8章）を試験（テスト）について理解し、試験（テスト）に関する論文1編あるいは2編の要約をした上で、その試験（テスト）に関し自分の意見を論じる。（3,000字～4,000字） 留意点：要約は、論文を十分理解し、「自分の言葉」で書くこと。また、基本教材で学んだ内容と論文の内容を関連づけること。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材2「日本語教育の参照枠」のⅠ
第2回	教材の学修：基本教材2「日本語教育の参照枠」のⅡ
第3回	教材の学修：基本教材2「日本語教育の参照枠」のⅢ
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1の第4章～第6章
第9回	教材の学修：基本教材1の第7章～第8章
第10回	教材の学修：基本教材1の第9章～第10章
第11回	コースデザインの検討
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2「日本語教育の参照枠」のⅠ
第2回	教材の学修：基本教材2「日本語教育の参照枠」のⅡ
第3回	教材の学修：基本教材2「日本語教育の参照枠」のⅢ
第4回	関係論文の講読
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題2：最終稿の作成
第9回	教材の学修：基本教材2「日本語教育の参照枠」の参考資料
第10回	教材の学修：基本教材2『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』の第8章
第11回	関係論文の講読
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	日本語教育研究法特講	担当者	ノダ ヒサシ 野田 尚史	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	------------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>日本語教育ではさまざまな教科書・教材が使われているが、一般的には新しいものほど学習者のコミュニケーション能力を高めるための工夫が行われていると言える。しかし、日本語教科書・教材で扱われている内容は、学習者にとって必要なものになっていない部分が多に残っている。</p> <p>本講座では、従来の日本語教科書・教材を批判的に検討し、今後どのような部分をどう改善していけばよいかを検討できるようにする。その際、日本語学習者がどのように日本語を使ったり解釈したりしているかという実態を踏まえらるるようにする。</p> <p>こうした能力の修得（一般目標(GIO)）により、論理的・批判的思考能力を中心に、問題発見・解決能力、挑戦力、コミュニケーション能力、自己分析能力を身につけることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 日本語教育の従来の方法を理解した上で、今後それをどう改善していけばよいかを検討し、提案する能力を獲得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の日本語教科書・教材がどのように作られているのかを説明することができる。 ・従来の日本語教科書・教材の問題点を見つけ、説明することができる。 ・日本語学習者の日本語の使用や解釈の実態を分析することができる。 ・日本語教科書・教材をどう改善していけばよいかを検討し、提案することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 (自習)教材と関連文献を熟読する。 (自主研究)教材と関連文献を参考に、それに関連する具体例を自主的に集めたり考えたりする。また、日本語教科書・教材の分析や学習者コーパスを使った学習者の日本語の分析を自主的に行う。 (レポート作成)自主研究の結果をもとに、レポートを作成する。</p> <p>学修時間は、レポート1課題につき、準備から完成までに次の時間を目安に最低45時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学修：15時間 ・事例の分析とレポートの執筆：20時間 ・レポートの初稿の推敲と最終稿の完成（教員の添削指導への対応を含む）：10時間 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・図書館やインターネットを活用して、資料を収集する。 ・日本語教科書・教材の分析や、学習者コーパスを使った学習者の日本語の分析を行い、レポートを作成する。 		
スケジュール	<p><前期> レポート課題1 初稿締切：6月末 最終稿締切：学事暦で定められた日 レポート課題2 初稿締切：8月末 最終稿締切：学事暦で定められた日</p> <p><後期> レポート課題1 初稿締切：10月末 最終稿締切：学事暦で定められた日 レポート課題2 初稿締切：12月末 最終稿締切：学事暦で定められた日</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、論旨の明確さ、独創性、具体性、引用を含む文章表現の妥当性で評価する。 ・レポートは、それぞれの最終稿で評価する。 	80%
	観察記録	レポート添削への対応、初稿から最終稿への改善度など	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、初稿から最終稿に至るまで、教師のフィードバックによる書き直し、自身による推敲、最終稿の完成へと、段階的に進める。 ・レポートでは、引用の方法や参考文献の明示などのルールを遵守すること。無断引用など、研究倫理上の問題があった場合は不正行為と見なされ、失格となる。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：野田尚史(編) 教材名：『コミュニケーションのための日本語教育文法』（くろしお出版，2005） ISBN：978-4-87424-334-3 2,400円＋税</p> <p>本書は、日本語を母語としない人々に対する日本語教育の土台になっている「日本語教育文法」をコミュニケーションに役立つものにする提案を行っているものである。従来の日本語教科書・教材を批判的に検討し、具体的な問題点を指摘し、今後の進むべき方向を示している。</p>
参考図書	<p>新屋映子・姫野伴子・守屋三千代『日本語教科書の落とし穴』（アルク，1999） ISBN：978-4-75740-156-3 1,900円＋税 森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』（ひつじ書房，2011） ISBN：978-4-89476-569-6 3,400円＋税 山内博之『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』（ひつじ書房，2009） ISBN：978-4-89476-388-3 2,200円＋税 野田尚史(編)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』（くろしお出版，2012） ISBN：978-4-87424-555-2 2,400円＋税</p>
履修上のポイント	<p>さまざまな日本語教科書・教材があるが、特に初級教科書・教材での文法事項の扱いほどの教科書・教材でも大きな違いはない。しかし、それでよいと考えないで、実際に学習者に役に立つかどうかという観点から批判的に検討してほしい。また、最近の中級・上級の教科書・教材にはこれまでなかったような新しいタイプのものがある。そのような教科書・教材のよい点にも目を向けてほしい。</p>
レポート課題1	<p>教材の中で自分の関心がある論文を選び、その内容に関連する具体例を挙げながら、発展的に論じる。（3000字程度以上，上限はなし） 留意点：具体例は日本語教科書・教材に載っているものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。</p>
レポート課題2	<p>特定の日本語教科書・教材を分析し、「文法事項の提出順序」「扱われているが不必要と考えられる文法事項」「扱われていないが必要だと考えられる文法事項」「文法事項の説明や練習問題の問題点」などの中から、自分の関心がある問題を具体例を挙げながら論じる。（3000字程度以上，上限はなし） 留意点：具体例は日本語教科書・教材に載っているものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：野田尚史・迫田久美子(編) 教材名：『学習者コーパスと日本語教育研究』（くろしお出版，2019） ISBN：978-4-87424-800-3 2,700円＋税</p> <p>本書は、日本語学習者の言語データを集めたコーパスをどのように拡充させていけばよいか、また、すでにできているコーパスをどのように活用して日本語教育研究を行えばよいかを論じているものである。</p>
参考図書	<p>迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬(編)『日本語学習者コーパスI-JAS入門—研究・教育にどう使うか—』（くろしお出版，2020） ISBN：978-4-87424-825-6 2,700円＋税 金澤裕之(編)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』（ひつじ書房，2014） ISBN：978-4-89476-698-3 6,500円＋税 森篤嗣(編)『コーパスで学ぶ日本語学—日本語教育への応用—』（朝倉書店，2018） ISBN：978-4-254-51655-5 2,400円＋税 野田尚史(編)『日本語学習者の読解過程』（ココ出版，2020） ISBN：978-4-86676-021-6 3,600円＋税</p>
履修上のポイント	<p>日本語のコーパスにはさまざまなものがあるが、特に日本語学習者の日本語を集めた学習者コーパスを使って、日本語学習者の実態を観察し、分析してほしい。どのような日本語教育を行うのがよいかを考えるためには、学習者の実態を知ることが重要だからである。</p>
レポート課題1	<p>教材の中で自分の関心がある論文を選び、その内容に関連する具体例を挙げながら、発展的に論じる。（3000字程度以上，上限はなし） 留意点：具体例は、コーパスで見つけたものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。</p>
レポート課題2	<p>教材の各論文を参考にしながら、自分の関心がある事項（たとえば、学習者の「ほうがいい」の使い方、学習者の読解における辞書使用など）について学習者コーパスを検索したり観察したりした上で、その事項について具体例を挙げながら論じる。（3000字程度以上，上限はなし） 留意点：具体例は、コーパスで見つけたものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の冒頭論文「コミュニケーションのための日本語教育文法的设计図」
第2回	教材の学修：基本教材1の「第1部」の4論文
第3回	教材の学修：基本教材1の「第2部」の5論文
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：修正稿に対する推敲
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	日本語教科書・教材の分析：文法事項の提出順序の検討
第9回	日本語教科書・教材の分析：扱われているが不必要と考えられる文法事項の検討
第10回	日本語教科書・教材の分析：扱われていないが必要だと考えられる文法事項の検討
第11回	日本語教科書・教材の分析：文法事項の説明や練習問題の検討
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：修正稿に対する推敲
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の「第1部」と「第2部」の5論文
第2回	教材の学修：基本教材2の「第3部」と「第4部」の4論文
第3回	複数の学習者コーパスの試用
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：修正稿に対する推敲
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	学習者コーパスの分析：分析するコーパスの決定とそのコーパスの特徴・使い方の把握
第9回	学習者コーパスの分析：分析事項の決定とコーパスでの検索・観察
第10回	学習者コーパスの分析：検索・観察結果の検討
第11回	学習者コーパスの分析：分析結果のまとめ
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：修正稿に対する推敲
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	英語学特講	担当者	カワシマ マサシ 川嶋 正士	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	-------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	大学院におけるトレーニングでは、文献を熟読し、先行研究や隣接した研究に照らし合わせて新たな知見を見出し、体系化することが重要な事柄の一つです。英語学は、言語理論的な研究から、英語教育における実践的な研究まで幅広く行われています。本講座では、英文法の専門書を共通の基底として、英語学の統語論を、経験科学の範疇において、様々な側面から考察することを目的としています。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 英語学の方法論を、英語の言語事実の研究を通じ、実践的に学習することを目標とする。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語の語法・意味について基本的知識を修得する。 文を単位とした統語的分析方法を修得する。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 教材と関連文献の学修 (15時間) レポート課題初稿作成 (15時間) レポート課題最終稿の完成 (15時間) 指導教員の添削や討論を含む *学修時間はレポート課題1件あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio を通じて、レポート課題提出の討論などの協働学習を行う。 manaba folio を通じて教員とインタラクティブな学習を行う。 manaba folioの観察記録に基づき自身の学修を振り返る。 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 1 締切 6 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日) レポート課題 2 締切 8 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日) <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 1 締切 11 月 15 日 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日) レポート課題 2 締切 12 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日) 		
成績評価	種 別	評価基準	割合
	レポート	形式 (構成, スタイルの一貫性, 引用の仕方, 表現の簡素さと適切さ), 内容 (論旨展開と結論の提示の明快さ, 先行研究の参照度と独創性, 課題把握の適切性) *後期のレポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 *その他のレポートは, 最終稿で評価する。	80%
	観察記録	討論への貢献, 指導教員の添削への対応など。	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員のコメントや討論のフィードバックを反映しレポートを完成させてください。 先行研究や引用と新規な知見は明確に区別してください。 書式は, APAもしくはMLAの最新のマニュアルに準じてください。 受講生間で積極的に情報交換や議論を行ってください。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名 : Rodney Huddleston, Geoffrey K. Pullum and Brett Reynolds 教材名 : A Student's Introduction to English Grammar, Second Edition, Cambridge Press, 2022. 2022年刊行の第2版です。お間違えの無いように。</p> <p>現代の国際的基準となる英文法書。Huddleston and Pullum による 大著 The Cambridge Grammar of the English Language のアウトラインを記したもので、規範英文法が非文法的であると忌避した項目を経験的な記述文法の視点から洗いなおす。 用いられる文法用語などは、これまでの教育英文法を逸脱していないので日本で英語学を学ぶ人にも親和性がある。日本で刊行される英文法書と比較対照することで、英語学や英語教育に関して様々な知見が得られる。</p>
参考図書	<p>Randolf Quark et al. 著 A Comprehensive Grammar of The English Language Pierson (Paperback)</p>
履修上のポイント	<p>教材の第1～2章は、文分析の根本に関することなどで、熟読の上十分理解してください。</p>
レポート課題1	<p>第1章を要約したうえで、章末の Excercies の中からいずれか1つについて考察してください。専門の言語学的知見は必要ありません。受験などでこれまで読んできた文法書の関連事項を参照したりしながら考察してください。 留意点：和文は4,000～5,000字でまとめてください。英文は1000～1500語でまとめてください。英文で提出する場合は、大学レベル以上の教育を受けた母語話者のチェックを受けること。</p>
レポート課題2	<p>第2章を要約したうえで、章末の Excercies の中からいずれか1つについて考察してください。専門の言語学的知見は必要ありません。受験などでこれまで読んできた文法書の関連事項を参照したりしながら考察してください。 留意点：和文は4,000～5,000字でまとめてください。英文は1000～1500語でまとめてください。英文で提出する場合は、大学レベル以上の教育を受けた母語話者のチェックを受けること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名 : Rodney Huddleston, Geoffrey K. Pullum and Brett Reynolds 教材名 : A Student's Introduction to English Grammar, Second Edition, Cambridge Press, 2022. 2022年刊行の第2版です。お間違えの無いように。</p> <p>現代の国際的基準となる英文法書。Huddleston and Pullum による 大著 The Cambridge Grammar of the English Language のアウトラインを記したもので、規範英文法が非文法的であると忌避した項目を経験的な記述文法の視点から洗いなおす。 用いられる文法用語などは、これまでの教育英文法を逸脱していないので日本で英語学を学ぶ人にも親和性がある。日本で刊行される英文法書と比較対照することで、英語学や英語教育に関して様々な知見が得られる。</p>
参考図書	<p>Randolf Quark et al. 著 A Comprehensive Grammar of The English Language Pierson (Paperback)</p>
履修上のポイント	<p>教材の第4, 8章は、述部構造の根本と拡張機能に関することなので、熟読の上十分理解してください。</p>
レポート課題1	<p>第4章を要約したうえで、章末の Excercies の中からいずれか1つについて考察してください。専門の言語学的知見は必要ありません。受験などでこれまで読んできた文法書の関連事項を参照したりしながら考察してください。 留意点：和文は4,000～5,000字でまとめてください。英文は1000～1500語でまとめてください。英文で提出する場合は、大学レベル以上の教育を受けた母語話者のチェックを受けること。</p>
レポート課題2	<p>第8章を要約したうえで、章末の Excercies の中からいずれか1つについて考察してください。専門の言語学的知見は必要ありません。受験などでこれまで読んできた文法書の関連事項を参照したりしながら考察してください。 留意点：和文は4,000～5,000字でまとめてください。英文は1000～1500語でまとめてください。英文で提出する場合は、大学レベル以上の教育を受けた母語話者のチェックを受けること。</p>

基本教材1

第1回	教材の第1章を読み、英語学研究における文法を概観する
第2回	教材の第1章を読み、記述と規範の学術体系と英文法における運用について考える
第3回	教材の第1章を読み、文構造について考える
第4回	教材の第1章の要約とExercisesのうち考察すべき課題を検討し、レポート課題1の下書きをする
第5回	レポート課題1の初稿を執筆する
第6回	レポート課題1の初稿を推敲し、提出する
第7回	教材の第2章を読み、2.1-2.8について考える
第8回	教材の第2章を読み、2.9-2.16について考える
第9回	レポート課題1の添削指導をもとに最終稿を作成する
第10回	教材の第2章を振り返り、レポート2の構想を練る
第11回	教材の第2章の要約とExercisesのうち考察すべき課題を検討し、レポート課題2の下書きをする
第12回	レポート課題2の初稿を執筆する
第13回	レポート課題2の初稿を推敲し、提出する
第14回	第1章から第2章でレポート課題1と2について参照した個所を振り返る
第15回	レポート課題2の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する

基本教材2

第1回	教材の第4章（4.1-4.3）を読み、主語と目的語について考える
第2回	教材の第4章（4.4）を読み、補語について考える
第3回	教材の第4章（4.5）を読み、補文化について考える
第4回	教材の第4章の要約とExercisesのうち考察すべき課題を検討し、レポート課題2の下書きをする
第5回	レポート課題1の初稿を執筆する
第6回	レポート課題1の初稿を推敲し、提出する
第7回	教材の第8章（8.1-8.8）を読み、付加詞の様々な機能について考える
第8回	教材の第8章（8.9-8.11）を読み、付加詞が動詞以外を修飾する事例などについて考える
第9回	レポート課題1の添削指導をもとに最終稿を作成する
第10回	教材の第8章を振り返り、レポート2の構想を練る
第11回	教材の8章の要約とExercisesのうち考察すべき課題を検討し、レポート課題2の下書きをする
第12回	レポート課題2の初稿を執筆する
第13回	レポート課題2の初稿を推敲し、提出する
第14回	第4章と第8章でレポート課題1と2について参照した個所を振り返る
第15回	レポート課題2の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する

科目名	英語教育方法論特講	担当者	ロックリー・トーマス	開講期	通年	単位数	4	分野名	文化情報
-----	-----------	-----	------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	内容言語統合型学習 (Content and Language Integrated Learning (CLIL)) は、第二言語の語彙力とコミュニケーション能力を養うことができるようになることを目的とする。この学習方法は、世界中のより多くの国で取り入れられてきています。CLILの特徴は、時事問題や異文化理解についてのトピックに触れ、共同学習を通し、言語知識・スキルを高めるだけでなく、様々な思考力を育成できることである。このコースで受講者は、CLILの理論について学び、実際の学習環境において自身で授業計画を作成し、振り返られるようになる。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 CLILの理論と学習環境での実際の実践について学習する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) CLILの基盤となる概念枠組みを説明できる。 2) CLILがどのように受講者の学習状況で使用されるか、または使用される可能性があるかを説明できる。 3) CLILの概念的枠組みを使用して、受講者はCLILの実践例が書かれている論文を読み調べ、2つ (あるいは3つ) の事例を要約し、CLILとしての妥当性などを講評する。そして自身の教育環境や状況に対応するCLILレッスンを計画し、計画についてレポートを執筆する。 4) CLILの理論と実践について学んだことを振り返る。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 (自習) 教材の熟読, さらに, オープンエデュケーション教材 (Open Educational Resources: OER) (例 academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal等) による自律的学習 (自主研究) 参考文献の検索と熟読 (レポート作成) レポートの作成・教員によるコメントにレポート推敲</p> <p>レポート課題1つにつき, 完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 1) 教材の学修: 20時間 2) レポート執筆: 10時間 3) レポート推敲と最終の完成 (教員の添削指導): 15時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioのコレクションを利用して, インタラクティブな個別指導を受ける。 ・図書館, インターネットですべての論文を検索して, レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 締切: 6月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切: 8月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿) <後期> ・レポート課題1 締切: 10月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切: 12月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種 別	評 価 基 準	割 合
	レポート	レポート 論旨明確さ, 独創性, 構成, 文章表現の妥当性, 引用の適切性等 ★前期レポート課題1, 2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。	80%
	観察記録	観察記録 レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1) 積極的な態度でCLILにアプローチすること。 2) 批判的な態度で実践的な計画を考える。全てが完璧であることを期待しないようにしましょう。 3) レポートは担当教員のフィードバックによる書き直しを繰り返しながら (特に英文の場合) 最終稿が締め切りに間に合う様、計画的に進めること。締め切りに変更が必要な場合は担当教員まで連絡する。 4) 日本の教育現場で英語を教える受講者は、英文でレポートの作成を行うこと (不可の場合は日本語でも可。) !重要! 後期に使用する教材は早めに購入すること。購入が難しい場合は担当教員にメールで相談すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：Do Coyle, Philip Hood, David Marsh 教材名：CLIL - Content and Language Integrated Learning (Cambridge University Press, 2010) 約4400円（税込み）</p> <p>この本はCLILに関する包括的な概要を提供しています。この理論をまとめ、実際の実践について説明しています。</p>
参考図書	<p>1) CLIL 新しい発想の授業 — 理科や歴史を外国語で教える！？—。笹島 茂 他 (三修社、2011年) 2750円 (税込み) 2) OER (例academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal等)</p>
履修上のポイント	CLILの概念的枠組みは、柔軟な方法で言語指導と学習改善を提供している。受講者は常に、CLILについて学んだことを自身の環境や状況に関連付けるように心がけること。
レポート課題1	<p>基本教材1 Chapter 1 ~ Chapter 4を読んで、CLILの概念的枠組みについて解説する (英語1500-2000 words、日本語3,000字~4,000字)。</p> <p>留意点：参考図書とOERで探した文献も参考に、CLILの授業法を考える。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1 Chapter 5 ~ Chapter 8を読んで、CLILが学習環境でどのように使用されるか、または使用される可能性があるかを説明する。 (英語1500-2000 words、日本語3,000字~4,000字)。</p> <p>留意点：参考図書とOERで探した文献も参考に、CLILの授業法を考える。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：和泉 伸一 教材名：CLIL(内容言語統合型学習)：上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第3巻 授業と教材。(ぎょうせい、2016年) 1760円 (税込み)</p> <p>この本には、順序関係なく使用できる幅広いCLILアクティビティが含まれている。付属のCD-ROMには、印刷可能なCLILアクティビティが入っている。受講者は、自分のCLILレッスンを計画するのに役立つアイデアと活動を活用することができる。</p>
参考図書	<p>1) CLIL Activities with CD-ROM: A Resource for Subject and Language Teachers. Liz Dale and Rosie Tanner(Cambridge University Press)約4400円(税込み) 2) Understanding Language Classroom Contexts - The Starting Point for Change. Martin Wedell and Angi Malderez (Bloomsbury, 2013) 約3800円(税込み) 3) OER (例academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal等)</p>
履修上のポイント	参考図書や論文をできるだけ参照して、自分の現場を念頭に置いた授業計画を考案する。
レポート課題1	<p>基本教材 Part 1 ~ Part 3.6を読んで、学習したCLILの概念的枠組みを使用して、環境や状況に合わせてCLIL授業計画作成する、およびCLILの実践例を批判的に分析する。 (英語1500-2000 words、日本語3,000字~4,000字)。</p> <p>留意点：参考図書とOERで探した文献も参考に、CLILの実践を考える</p>
レポート課題2	<p>参考図書3「OERから調べた2つの論文」を読んで、CLILの理論と計画を作成して学んだことを振り返る。 (英語1500-2000 words、日本語3,000字~4,000字)。</p> <p>留意点：OERで探した文献も参考に、CLILの実践法を考える</p>

基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1 Chapter 1
第2回	教材の学修：基本教材1 Chapter 2
第3回	教材の学修：基本教材1 Chapter 3
第4回	教材の学修：基本教材1 Chapter 4
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1 Chapter 5
第9回	教材の学修：基本教材1 Chapter 6
第10回	教材の学修：基本教材1 Chapter 7
第11回	教材の学修：基本教材1 Chapter 8
第12回	OERによる研究論文の検索と分析（例adamemia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等）
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の第1章と第2章の学修
第2回	教材の学修：基本教材2の第3章と第4章の学修
第3回	教材の学修：基本教材2の第5章と参考図書1の中から自分の環境に合わせて自由に選んでください
第4回	教材の学修：基本教材参考図書1の中から自分の環境に合わせて自由に選んでください。
第5回	OERによる研究論文の検索と分析（例adamemia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等）
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	CLILの実践例を論文で調べて、1つの事例を要約し、CLILとしての妥当性などを講評する。
第10回	CLILの実践例を論文で調べて、1つの事例を要約し、CLILとしての妥当性などを講評する。
第11回	授業計画
第12回	授業計画
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	共通
-----	--------	-----	----------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的かつ論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ・データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。</p> <p>・データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。</p> <p>・データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。</p> <p>・収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。 1つのレポート課題の完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <p>・基本教材および参考文献の読み込み：20時間 ・レポート課題の執筆：10時間 ・Manaba-Folioへのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q & A」を公開する。また、レポート課題2では分析すべきデータをアップロードする。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。</p>		
スケジュール	<p>前期： 基本教材1のレポート課題1：6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材1のレポート課題2：8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期： 基本教材2のレポート課題1：11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2027年1月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材2のレポート課題2：12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2027年1月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>・最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は（原則的に）0点となります。</p> <p>・レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたレポートは評価の対象としません）。教材の引き写しは評価の対象外とします。</p>	79%
	観察記録	<p>・最終提出までにManaba-Folio上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。</p> <p>・草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。</p>	21%
履修者への要望	<p>・レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。</p> <p>・要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：鈴木淳子 教材名：教材1：『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税 教材2：『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p> <p>教材1は，主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 教材2は，研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p>
参考図書	<p>・大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税 ・高橋尚也他（編著）『心理調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで』（サイエンス社，2023年） ISBN 978-4-7819-1568-5 2,350円+税 ・三浦麻子（監修），米山直樹・佐藤 寛（編著）『なるほど！ 心理学面接法』（北大路書房，2018年） ISBN:978-4-7628-3051-3 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>レポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」，「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所」は，教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし，「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所」は，教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にする。</p>
レポート課題1	<p>以下に示す項目について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所</p> <p>留意点：各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。</p>
レポート課題2	<p>以下の2項目のうち，一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，実際に質問紙（アンケート）を作成する。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。</p> <p>留意点：教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては，調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：南風原朝和 教材名：『心理統計学の基礎 統合的理解のために』（有斐閣アルマ，2002年） ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p> <p>この教材は，統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>・村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年） ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税 ・松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年） ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税 ・繁榎算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q & Aで知る統計データ解析 Dos and DON'Ts』（サイエンス社，2008年） ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<p>・データ解析用ソフト（Excelアドインソフト）は教務課より無料提供されるが，もし受講者所有のPCがMackintoshの場合はインストールに不具合が生じることがある。その際には，担当講師（田中）まで相談すること。 ・（基本教材2に関しては）高等学校の数学Bを履修した程度の知識があることが望ましい。</p>
レポート課題1	<p>以下に示す用語について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性</p> <p>留意点：各用語あたり800字以内を目安に，3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし，その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
レポート課題2	<p>与えられたデータをもとに，統計解析ソフト（BellCurve Excel統計，(株)社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い，その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布，代表値，散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。</p> <p>留意点：分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（Manaba-Folio）にアップロードされる。PC統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし，掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。</p>

基本教材1

第1回	質問紙調査法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か、質問紙法の基礎（教材1；1章，2章）
第2回	質問紙法の調査プロセス，データ収集の技法（教材1；3章，4章）
第3回	サンプリングの技法，調査実施に向けての準備（教材1；5章，6章）
第4回	倫理的ガイドライン，質問紙デザインの基礎，質問紙の構成と体裁（教材1；7章，8章，9章）
第5回	質問の種類と順序，質問作成，ワーディング（教材1；10章，11章，12章）
第6回	選択回答法，自由回答法，予備調査（教材1；13章，14章，15章）
第7回	レポート課題1：①，②の草稿作成
第8回	調査的面接法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材2；第1章）
第9回	調査的面接法の分類，データ収集法の組み合わせ（教材2；第2章，第3章）
第10回	調査的面接法のデザイン（教材2；第4章）
第11回	調査的面接法のガイドライン（教材2；第5章）
第12回	レポート課題1：③，④の草稿を作成 ①②とともに提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第13回	レポート課題1の最終レポート作成
第14回	レポート課題2の草稿を提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

基本教材2

第1回	心理学研究における統計の役割について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第1章）
第2回	分布の記述的指標（第2章）
第3回	相関係数の理解と回帰係数（第3章），確率モデルと標本分布（第4章）
第4回	統計的推定・検定（第5章），平均値差と連関についての統計的推定（第6章）
第5回	線形モデルの基礎（第7章），偏相関と重回帰分析（第8章）
第6回	実験デザインと分散分析法（第9章）
第7回	因子分析法（第10章）
第8回	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第9回	レポート課題1の最終レポート作成
第10回	実習課題(1)：サンプルデータを確認し，Excelと統計解析ソフトの操作に慣れる。
第11回	実習課題(2)：①サンプルデータの全変数について度数分布，代表値，散布度を示す。 ②任意に2つの変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。
第12回	実習課題(3)：③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する。
第13回	実習課題(4)：④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。
第14回	レポート課題2の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

科目名	統計基礎 I	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	開講期	通年	単位数	2	分野名	共通
-----	--------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>最近の統計ソフトは大変に使い勝手が良く、統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、形の上では統計の計算結果を得られるが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見される。</p> <p>本科目では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、できるだけ数式を介さず、統計の基本概念を理解する。また、表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の基本的な考え方を理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれるものであり、比較的身近な数学であることを理解する。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ① 本科目では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指す。 ② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解する。 ③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得も目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書を熟読する。【SBO①】 【30時間/1冊】 ② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&③】 【45時間/レポート1件】</p> <p>※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に活用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</p>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているのので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。 ② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り1~2ヶ月前にはレポート初稿を1本は必ず提出をしていること】 ③ レポートの提出期限：最終稿は学事暦で定められた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種 別	評 価 基 準	割 合
	レポート	「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。	70%
	観察記録	「分散」や「検定、分散分析」についての疑問や質問が解決できたか。 「検定、分散分析」について、議論することができるか。	30%
履修者への要望	<p>数学、特に統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。指定教材をしっかり読むこと。また、実際にExcelを操作して分析までたどり着くには、継続的・反復的に学修する必要がある。本科目で学ぶ項目は基本的なことが主であり、数学や統計処理が得意な人は受講しても意味はないので注意すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1) 向後千春, 富永敦子 (2) 涌井貞美 教材名：(1) 『First Book 統計学がわかる』(技術評論社, 2007年), ISBN:978-4-7741-3190-0 1,680円+税</p> <p>または (2) 『意味がわかる統計解析』(ベレ出版, 2013年) ISBN:978-4-86064-345-4 2,000円+税</p> <p>(1)は、数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明し、初心者でも気軽に読めて統計を学習できる教科書。あるハンバーガーショップで起こる様々な疑問や問題を、統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく。基本統計量、区間推定、検定など統計データ分析の基本を理解できる。統計が苦手と思っている人には最適な教科書である。 (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で統計解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。</p> <p>菅民郎, 『Excelで学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016対応版』(オーム社, 2020年) ISBN:978-4-274-22641-0 2,800円+税 (やや辞書的な扱い) 小島寛之, 『完全独習 統計学入門』(ダイヤモンド社, 2006年), ISBN:978-4-478-82009-4 1,800円+税 (教科書同様の入門書だが, Excelとの対応が乏しい)</p>
履修上のポイント	<p>本科目は、とにかく数学が苦手な、統計学が苦手な人のための科目である。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け、表計算ソフトを使うことで数式による説明を介さずに、統計データ処理を学ぶ。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (https://www.stat.go.jp/data/) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題1	<p>(1) t検定とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、t検定の前提条件や、何を計算する必要があるかなど、人に説明することを意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを1件用意してt検定を行い、その結果を考察せよ。</p> <p>留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>
レポート課題2	<p>(1) 分散分析とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、分散分析の前提条件や、何を計算する必要があるかなど、人に説明することを意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを1組用意して分散分析を行い、その結果を考察せよ。</p> <p>留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>

基本教材1

第1回	統計と確率の関係について理解する。特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解する。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンのExcelで「データ分析」が使えるようにするための設定手順を確認する。
第2回	平均と分散、特に分散についての重要性について学ぶ。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第3回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する。
第4回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができる。この信頼区間の考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第5回	有意差検定の考え方の基本を学ぶ。第4回内容の「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え、「帰無仮説」や「対立仮説」についても理解する。
第6回	カイ2乗の考え方を学ぶ。また、有意差検定の最も基本になる考えについて、カイ2乗検定を使った具体的な計算方法について理解する。
第7回	カイ2乗検定の実際の計算を学ぶ。特に、実際のデータを使って、カイ2乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第8回	有意差検定で、最も利用されている「t検定(対応なし)」の考え方を学ぶ。特に、正規分布とt分布、その信頼区間について理解する。
第9回	実際のデータを使った「t検定(対応なし)」の計算方法について学ぶ。計算の手順と、Excelにおける「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も学ぶ。また、「t検定(対応なし)」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第10回	実際のデータを使った「t検定(対応あり)」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第9回内容の「t検定(対応なし)」との違いについても理解する。 →【レポート1への取り組み(目安)】
第11回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「t検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特にF分布とF値の考えを理解することを目的とする。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第12回	実際のデータを使った「分散分析(1要因)」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第13回	「分散分析(2要因)」について「分散分析(1要因)」との違いについて理解する。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第14回	実際のデータを使った「分散分析(2要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。 →【レポート2への取り組み(目安)】
第15回	半年間の学修内容について、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	開講期	通年	単位数	2	分野名	共通
-----	-------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトも自由に利用できるようになり、その結果、今までは難しかった多変量解析などが簡単に利用できるようになった。しかし、統計処理が簡単に利用できる一方、その基本にある数理的背景を理解しないままデータ処理を行っているケースが多く見られるようになってきた。</p> <p>本科目では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解する。また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを旨とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>本科目では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学ぶ。特に、「相関」、「(重)回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の修得を目指す。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」だが、その理論的背景を理解することを目指す。</p> <p>② 多変量解析が単純な数学的仮定(線形関係)の上になり立っていることを理解する。</p> <p>③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小2乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを理解する。その上で、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が理解できることを目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30時間/1冊】</p> <p>② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&③】【45時間/レポート1件】</p> <p>※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。 		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際でのレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り1~2ヶ月前にはレポート初稿を1本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事暦で定められていた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。	70%
	観察記録	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。	30%
履修者への要望	<p>統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。ただし、数学が特に苦手な人は、「統計基礎Ⅰ」の後に受講することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1) 向後千春, 富永敦子 (2) 石井俊全 教材名：(1) 『FirstBook「統計学がわかる」一回帰分析・因子分析編一』(技術評論社, 2009年) ISBN:978-4-7741-3707-0 1,680円+税</p> <p>または (2) 『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版, 2014年), ISBN:978-4-86064-398-0 1,900円+税</p> <p>理数系以外の学生で統計を知っている人でも、「回帰分析」や「因子分析」など、データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くない。 (1)は、極力数式を使わず、データの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組みを解説している。アイスクリームショップを舞台に登場人物のアルバイトと一緒に悩みながら、気温とアイスクリームの売り上げの関係など、あなたの研究・調査に応用できるような話題を取り上げる。比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解できるようになる。 (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で多変量解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。 上田太郎, 小林真紀, 瀧上美喜, 『Excelで学ぶ回帰分析入門』(オーム社, 2004年) ISBN:978-4-274-06556-9 2,800円+税(回帰分析・多変量解析におけるExcelの操作説明が豊富)</p>
履修上のポイント	<p>本科目では、多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とする。ここでは数式による説明をできるだけ避け、表計算ソフトExcelを使って、直接データを統計処理する。数学が苦手な人でも「相関」や「(重)回帰分析」, 「因子分析」の基本的な仕組みを理解することを目標としている。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (https://www.stat.go.jp/data/) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題1	<p>(1) 「相関」と「回帰分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながら、人に説明することを意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「相関」と「回帰分析」を計算し、それぞれの結果を考察せよ。 留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>
レポート課題2	<p>(1) 「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながら、人に説明することを意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「因子分析」を計算し、その結果を考察せよ。なお、PC環境により因子分析の計算が困難な場合は、「重回帰分析」を行い、その結果を考察せよ。 留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>

基本教材1

第1回	本科目で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本科目で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第2回	教科書の例題を参考に、データの構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間の関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第3回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第4回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎Iで学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第5回	「回帰分析」の考え方を学ぶ。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第6回	実際のデータを使った「単回帰分析」について具体的な計算方法を理解する。また、単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。 →【レポート1への取り組み(目安)】
第7回	「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第8回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは1ステップずつの計算方法を説明し、エクセルの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第9回	多変量解析における「相関行列」について理解する①。第3回の「相関」との関係を理解する。
第10回	多変量解析における「相関行列」について理解する②。「相関行列」の利用方法を理解する。
第11回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し、主成分分析では何が分るのかを理解する。
第12回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、主成分分析の計算方法を理解する。
第13回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第14回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。 →【レポート2への取り組み(目安)】
第15回	半年間の学修内容について多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	行動経済学特講	担当者	ヨネダ ヒロヤス 米田 紘康	開講期	通年	単位数	4	分野名	共通
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	2002年にダニエル・カーネマンとバーノン・スミスがノーベル経済学賞を受賞したことを契機に、行動経済学と実験経済学が注目された。その後、2013年にロバート・シラー（行動ファイナンス）、2017年にリチャード・セイラー（実践的な行動経済学：ナッジ）の受賞が続いたことで、一般社会や教育機関に知られることとなった。本科目では、行動経済学の理論と実践例を理解し、自身が応用できる能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 現代社会の種々の活動には、プレイヤーとして人間が関わる。地球環境から個人消費まで与える影響は、大きい。この科目では、経済活動に焦点を当てて、人間行動の理解ができることを目指す。それらに加えて、現実社会の問題を解消できる提案力を身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材から情報を正しく理解することができる（知識） ・教材から情報を正しく表現することができる（技能） ・得た知識を用いて、応用することができる（問題解決） 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本教材・副教材を学修する（自習、SB01, 2）【20時間/レポート1本】 2. レポートの初稿を作成する（自習・レポート作成、SB01, 2）【10時間/レポート1本】 3. 教員との複数回による添削を通じて、最終的にレポートを完成させる（自主研究・レポート作成・ディスカッション、SB01, 2）【15時間/レポート1本】 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio の掲示板機能やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書にかかれていない疑問などは、その他書籍やインターネットなどを積極的に活用し各自解決することを希望する。ただし、それでも解決できない場合は、担当教員に質問すること。 		
スケジュール	<p>(前期)</p> <p>基本教材1のレポート課題1： 6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>基本教材1のレポート課題2： 8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>(後期)</p> <p>基本教材2のレポート課題1： 11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>基本教材2のレポート課題2： 12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1. 設問内容に明確に答えているか 2. 適切な日本語で書かれているか	70%
	観察記録	1. 提出期限が厳守されているか 2. 担当教員との対応	30%
履修者への要望	<p>レポートの書き方について不安がある人は、一般的な書籍また大学図書館などを通じて準備をしてください。 なお、以下のURLを参考にしても構いません。</p> <p>https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofWriting.pdf</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：黒川 博文（著） 教材名：分析者のための行動経済学入門 プロスペクト理論からナッジまで、人間行動を深く網羅的に解明する（ソシム、2024、税込2750円） 人間行動をより深く理解することで得られる知見を、データ分析に活かすことを目的とした書籍である。特に後半部分では、標準的な経済学と行動経済学の違いについて、説明されている。
参考図書	相良奈美香（著）、「行動経済学が最強の学問である」、SBクリエイティブ（税込1870円） 筒井 義郎、佐々木 俊一郎、山根承子、グレッグ・マルデワ（著）、「行動経済学入門」、東洋経済新報社（税込2640円）
履修上のポイント	従前の経済学とどのような点が異なるのかについて、注目して理解を深めてほしい。
レポート課題1	第1章から第3章までについて、各章を1000字程度で要約した上で、第4章の期待値理論→期待効用理論→プロスペクト理論の流れを説明すること。 留意点：箇条書きは極力使用しないこと。理論が変化しているということは、従前の理論に何らかの問題点があり、新理論がそれを解消したことを示している。それらの変遷をしっかり押さえること。
レポート課題2	第5章から第7章について、各章を1000字程度で要約した上で、第8章以降のナッジを含む行動経済学の実践の可能性と課題点を述べなさい。 留意点：4章から7章までは、人間行動を説明する理論を述べている。それらを踏まえたうえで、実践の可能性や問題点に触れると良いだろう。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：リチャード・セイラー（著）、キャス・サンスティーン（著）、遠藤 真美（翻訳） 教材名：NUDGE 実践 行動経済学 完全版（日経BP、2022、税込2530円） ノーベル経済学賞を受賞したリチャード・セイラーが、ナッジの必要性とその実例についてまとめている。古典的な事例から最新の事例までが取り上げられている。
参考図書	ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか？ 文庫（上）、税込1210円 ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか？ 文庫（下）、税込1210円
履修上のポイント	レポート1で理解した理論がどのように現実世界で実践できるのか、その目の付け所と効果に注目してほしい。
レポート課題1	第1章から第8章までの実例を踏まえたうえで、あなたが新たに応用例を提示しなさい。当然、すでに実践されているものは認められません。 以下の点には、触れること。 ・現在どのような問題があるのか ・それをどのようなナッジで解消するのか ・そのナッジは、第1章から第8章あるは行動経済学のどのような理論と関連するのか 留意点：実践例が非常に多く取り上げられているので、自身の関心あるいは現実世界の喫緊の課題に絞り込むと良い。
レポート課題2	第9章から第14章までの実例を踏まえたうえで、あなたが新たに応用例を提示しなさい。当然、すでに実践されているものは認められません。 以下の点には、触れること。 ・現在どのような問題があるのか ・それをどのようなナッジで解消するのか ・そのナッジは、第9章から第14章あるは行動経済学のどのような理論と関連するのか 留意点：実践例が非常に多く取り上げられているので、自身の関心あるいは現実世界の喫緊の課題に絞り込むと良い。

基本教材1

第1回	基礎知識：人間行動を読み解く行動経済学
第2回	分析方法：因果分析1
第3回	分析方法：因果分析2
第4回	分析方法：経済モデル1
第5回	分析方法：経済モデル2
第6回	考え方：不確実性下の意思決定1
第7回	考え方：不確実性下の意思決定2
第8回	考え方：時間を通じた意思決定分析1
第9回	考え方：時間を通じた意思決定分析2
第10回	考え方：他社を考慮した分析1
第11回	考え方：他社を考慮した分析2
第12回	考え方：体系的に誤る意思決定1
第13回	考え方：体系的に誤る意思決定2
第14回	実践：ナッジ1
第15回	実践：ナッジ2

基本教材2

第1回	バイアスと誤謬
第2回	ナッジの役割
第3回	社会規範、同調
第4回	ナッジのタイミング
第5回	選択アーキテクチャー
第6回	誘惑
第7回	優れた情報開示
第8回	スラッジ：ナッジの悪用
第9回	老後資金を貯める方法
第10回	ナッジの持続効果
第11回	ローンの借り方
第12回	保険の考え方
第13回	デフォルト効果
第14回	ナッジの活用
第15回	ナッジの課題

特別研究の研究領域

中国雲南省や四川省のさまざまな民族を中心として東アジアと東南アジア大陸部のフィールドから、文化、社会、歴史の研究について対応したいと思います。歴史学、文化人類学、考古学などの学問分野からのアプローチの方法を指導します。研究課題は複眼的な視点による学際的研究や地域研究を進めるものでも構いません。

特別研究の指導及び研究上のポイント

自ら関心のある研究課題を設定し、その課題に一つの解答が出るように指導を進めます。各研究分野の基礎的な思考を学び、広い視点で研究課題を分析考察できるようにします。先行研究の把握、資料収集の方法を経て課題の分析考察を進めます。修士論文作成については理論上の問題がないよう丁寧な指導を心掛けます。

特別研究の進め方

院生自ら研究課題を設定し、研究計画を立てます。研究アプローチの分野の方法論を把握しつつ、先行研究の整理を進めます。調査や資料収集の方法を検討し、データの蓄積を進めます。分析考察を進めつつ論文の構成を考えて、作成を進めます。課題設定から執筆までその都度、Eメール、サイバーゼミ、面接授業、面接により、論文の指導を進めます。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

主に、日本の古代文学・古代文化に関する研究領域を対象とする。それを、日本国内における問題として捉えることもあるが、東アジアからの影響を視野に入れながら考察することもある。また享受に関する研究、つまり平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代などの後世の人々が捉えた古代文学・古代文化を研究対象にすることも重要な研究だと考えている。一方で、高等学校の国語科教科書も研究対象にしている。教材化された各時代の文学作品に対して、専門的な立場からその適否を評価し、今後のあるべき方向を提言する、もしくはどのような事情で教材となったのか、その歴史的な経緯や意義などを明らかにすることも必要だと考えている。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生にとっての修士論文は、それを書いた時の生き様を映すものだと考えている。従って、院生が現在興味を持っていることを研究テーマとして優先したい。しかし、限られた時間の中で成果を出さなければならないので、場合によってはテーマを限定するよう求めることがある。また、学外で行われている研究の現場を、自分の目で確かめることによって研究意欲が高まることがあるので、国内外で行われている学会発表、シンポジウム、講演会などへの出席も促す。院生自身が学会での研究発表を希望する場合は、その指導も行う。加えて、現地調査を奨励する。

特別研究の進め方

まずは研究テーマに関連する資料収集と資料整理、その内容に対する問題提起を繰り返してもらおう。こうした基本的・実践的な作業を通して論文構成を検討し、さらに考証を積み重ねた上で、最終的にはオリジナルな論証結果もしくは問題提起を明示してもらおう。指導方法は、定期的な e-mail による指導が中心になるが、日時場所を調整して直接指導も数回は行いたい。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

歴史学、特に日本近世史（16世紀末～19世紀半）に関するテーマを対象としている。主たる研究領域は、幕藩関係（幕府政策・対大名政策）・対外関係史（イギリス・中国）を中心としているが、歴史学の範囲であれば対応できる範囲で対応する。

特別研究の指導及び研究上のポイント

歴史学研究においてテーマを設定する時の基本は、先行研究の成果と課題を整理し、その上で関心のある分野や部門を検討することにある。さらに設定した課題を実証するための素材（歴史資料）の探索と資料操作となります。テーマ設定に際して、学術的意義を見出せるか否か、限られた時間のなかで一定の解答を導き出せるか否かを検討していきます。論文作成には一定のルールがあります。そのルールなどについても適宜助言していきます。

大学院生はテーマを与えられるのではなく、自ら設定しなければなりません。その研究課題の適正を判断し、研究計画を立案するのも自身の課題です。テーマ設定に必要な先行研究の収集と整理・課題の抽出を繰り返します。自身のテーマに関する先行研究（学説史）のみならず、関連分野の研究動向（研究史）を併せて理解することで、研究の深みが増します。整理し抽出した課題のなかから課題解決までの実現可能性を検討し、解決の方法や道筋を考えながら、章立てを含めた全体構成をつくります。

特別研究の進め方

通信制であることからメールでの指導が中心となりますが、月に2回程度のオンライン型の指導を進めます。長期休暇（夏期・冬期・春期）には、対面での指導（個別・集団）を実施して、研究進捗状況を報告・確認し、年間1時間（以上）の対面による研究指導と特別研究指導を実施します。

2年計画のうち、1年次前半はテーマ（仮）の設定と先行研究の収集と整理、基本的な歴史資料の所在確認、分野研究の動向を確認しながら、自身のテーマの位置付けを検討します。研究計画を立て、必要な歴史資料の収集と精読に入ります。歴史資料の収集と精読には、くずし字資料など特定のスキルを要するものがありますが、自身の研究に必要であれば早めに基礎をマスターしておかねばなりません。1年次終了までには、全体骨子・アウトラインの完成をめざします。2年次からはアウトラインに沿ってデータ分析をおこない、実証作業と論文の下書作成となります。中間発表を経て、論文完成となります。

また夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施します。

特別研究の研究領域

欧米・日本の（近現代）文学、翻訳研究、出版文化であればできるかぎり対応したい。

以下に講師の具体的研究例をあげる。

- 1) 世界文学の正典（権威とされている作品群）：日本や欧米の世界文学の正典がどう移り変わってきたかを、世界文学全集などを分析することで検討する。つまり世界の文芸翻訳文化のトレンドを調べるというようなものである。
 - 2) 国語教科書と外国文学：日本の国語教科書に掲載された外国文学教材の変遷を調べて、その背景を分析する。必要であれば、英語や道徳の教科書（副読本）などとの関連も調査する。
 - 3) 自己翻訳：ウラジーミル・ナボコフをはじめ、サミュエル・ベケット、ミラン・クンデラ、西脇順三郎などに見られる self-translationの方法とその可能性を作品の分析や翻訳理論の適用によって検討する。
 - 4) ナボコフとアメリカの出版文化：『ロリータ』を出版したことで知られるナボコフと、出版社の関係およびその受容を主に渡米後に編集者とのあいだにかわした書簡や出版資料から分析する。
- ※もちろんこれらは研究の例なので、過去の修士生の研究例（パンフレットに記載）なども見て参考にしてほしい。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生一人一人が関心ある研究課題にとりくみ、修士論文を完成できるよう指導する。研究課題の選定、資料収集、論旨の確定、議論展開、論文執筆と段階的に指導を行う。それぞれの関心にもとづき、国内外の関連学会・国際会議やシンポジウムなどに参加するよう求める。

特別研究の進め方

1年次は、各自研究課題についての情報・文献を収集し、問題意識を精緻な、学術研究として通用するものにしてほしい。

前期：文献の検索方法について知る。詳細な研究計画を立てる。各自で関心のある学会・研究会に参加。

後期：先行研究を渉猟し、レビューを行えるようになる。口頭発表に慣れる。

2年次以降では、修士論文の作成を行う。

前期：修士論文の題目の作成、作成計画の立案。執筆。

後期：序論、本論、結論を含む第1稿提出。研究（中間）発表会（10月）。改訂、推敲、編集作業。第2稿提出。修士論文提出（12月）。

オンライン・ゼミ、LMS、e-mailを活用して指導を行うほか、要望や必要に応じて個別指導を行う。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

担当者は、20世紀英語文学、特にジェイムズ・ジョイスの作品研究を中心としたアイルランド文学を専門としている。19世紀、20世紀英語文学でかつ小説であれば、通信教育部での長年の経験を踏まえて可能な限り対応する。

特別研究の指導及び研究上のポイント

英文学研究の要は、原書と英語で書かれた論文がきちんと読めることである。英文の精読なくして、英文学研究は成立しない。研究テーマの絞り方、研究対象の作品の精読、重要な先行研究の選択と精読、とにかく英文精読にフォーカスする。

特別研究の進め方

修士論文提出から逆算して研究計画を立てていきます。研究テーマの決定、研究テーマに関連した先行研究(英語論文が中心)の収集と精読、研究対象作品の精読をしてもらいます。同時に、先行研究の成果を踏まえ、修士論文の構成、章立てとその内容を塾考してもらいます。定期的にオンラインや対面で指導していきます。

「英語圏文化特講」ではZOOMを使用して、自主読書会(英語音読なしの英文和訳)を毎週開催しているのでなるべく参加してほしいです。日時は学生と相談して決めます。夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、研究室において面接指導やゼミナールを実施して、対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施します。

特別研究の研究領域

日本語教育全般に関わるテーマを対象とする。具体的には、教育現場における教授や評価の方法の検討、教材分析、言語テストに関する理論や実践研究、日本語と他言語との対照研究、習得研究などが考えられる。

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究には、適切な研究テーマを設定すること、研究を遂行するための方法に関する知識を備えていること、実際に行動する能力を持っていること、この3点が重要である。そのため、テーマの設定の仕方や研究・分析方法などについて学ぶ場を提供する。そして、それぞれ関心のあるテーマにおいて、これらのことを実践し、修士論文を執筆できるよう指導する。

特別研究の進め方

一年次は、まず、それぞれ関心のあるテーマについて先行研究をまとめ、自分の研究の位置付けを明確にすることから始める。また、同時に、研究方法（質的研究、量的研究、データ収集方法、データ分析方法など）について学び、適切な研究方法を選定し、研究計画を立てる。一年次後半には、データ収集をスタートさせる。二年次前半は、データ分析を行い、中間発表（10月中旬）を経て、論文を執筆する。月に2回のオンラインあるいはハイブリッド形式のゼミナールを実施し、研究の進め方を学ぶとともに、研究の進捗状況を報告してもらう。

特別研究の研究領域

第二言語習得または英語教授法の研究である限り、可能な範囲で広範に対応する。大卒の研究テーマ例として、外国語習得の学習者観察と分析、学習者の情意面からみる外国語学習、効果的な学習方略を念頭においた外国語教授法、グローバル化を考慮した産官学連携外国語教育、国際英語としての英語教育など、英語教授法に係る範囲で課題を設定し、実際にデータ収集し精査・分析をする。

また、英語を公用語とする国の移民政策の一部としての最新の英語教育事情や教育文化学的な研究も幅広く扱う。

特別研究の指導及び研究上のポイント

各自が研究テーマを設定し、先行研究および資料を包括的に読解、データ収集、分析、論文執筆に取り組んでもらいたい。できるだけ多く調査・検討し、総合的・分析的・探索的・演繹的研究において自分の立ち位置を明確にし、必要に応じて統計手法を用いて分析し、論文にまとめていくように実施すること。

また、関連する学会会議への出席や口頭研究発表を促すので、積極的に参加し、多くの学者・研究者の研究発表にも触れていくこと。

特別研究の進め方

第1年次は研究テーマの絞り込み、先行研究収集と精読、研究計画を作成する。5月末までに興味のある事柄の概要を決定、6月末に主要な先行研究のリスト、8月末に文献調査結果の概観をすること。10月下旬には研究テーマを仮決定し、11月下旬に試行研究調査計画書の提出、2月中旬にその結果を提出すること。

第2年次には、論文の概要決定、データ収集と分析、論文の完成へと進めていく。4月初頭に論文概要を提出し、5月初旬に研究動機・文献研究・研究方法・結果（予想）から成る簡易草稿を提出する。6月下旬までにデータ収集を完了し、分析の後7月中旬に図表提出をすること。8月末を第1回草稿提出の締め切りとし、9月下旬から10月にかけて前期課程研究（中間）発表会を行う。10月末を第2回草稿提出締め切りとし、12月中旬～下旬には修士論文提出とする。

尚、教員や他の院生からのフィードバックを参考に加筆・修正を繰り返し実施し、修士論文を完成させ提出すること。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします

特別研究の研究領域

マクロな社会言語学を対象とします。具体的には、言語政策、言語法、多言語国家、地域語／方言復興運動、言語戦争、言語境界線、言語調査、言語権、言語帝国主義、言語差別、言語の権力、フランス語圏（フランコフォニー）、言語内変種、言語的中心と周縁、多（複）言語主義、移民統合政策と言語要件、外交言語などをキーワードとする研究が考えられますが、実際の社会における「ことばの在り方」や「ことばを用いた活動」を考察する研究であれば幅広く対応したいと思います。また、アプローチとして批判的談話分析を取り入れる研究にも可能な限り対応します。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の興味や関心がなによりも大事だと考えるため、まずは修士論文で取り組みたい研究テーマを自身で設定してもらいます。そのうえで、修士論文としてまとめることができるように、相談してテーマの絞り込みをおこない決定します。続いて、先行研究の整理をおこないますが、ここではできる限り包括的、網羅的に文献にあたるよう心がけます。各自のオリジナルな研究に着手するために、前段階としてのこれらの作業を確実に、かつ丁寧におこないます。

特別研究の進め方

相談の下で策定する研究計画とスケジュールに従い、段階的に研究を進めていきます。研究テーマの設定と先行研究のまとめを終えた後は、手法の決定、資料収集と分析／現地調査、考察、論文執筆とその都度必要となる助言をおこないます。また、定期的に面談の場を設けるようにして進捗状況を確認します。修士論文の完成に至るまで最大限の支援をしますが、研究には主体的、自律的に取り組んでください。なお、自身の研究の推進とともに、研究テーマに関連する学会や研究会には積極的に参加するようにし、可能な限り発表の機会を作るよう努めてください。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

英語教授法・第二言語習得理論に関係する分野である限り対応する。研究テーマの例としては具体的にはCERR、Can-Do、Learning Strategies、Vygotsky' Sociocultural Theory、Extensive Reading、CALL、異文化コミュニケーション、動機付け等が考えられる。英語教授法・第二言語習得理論に関する研究を遂行するため、研究テーマに基づく調査研究、精緻な研究計画立案及び調査研究から得られたデータや分析結果を通じた研究指導を行う。

特別研究の指導及び研究上のポイント

適切な研究テーマの中から文献研究、研究方法（質的研究・量的研究等）、データ収集及び分析・考察に取り組むこと。定期的に関に学ぶ機会を持つことを心がけている。短期目標・中期目標を明確にし、修士論文を執筆及び完成出来る様に指導する。

特別研究の進め方

1年次は、それぞれが関心のあるテーマについて先行文献に広くあたり、徐々に興味のある分野を絞り先行研究を纏め、各自の修士論文という最終地点に向かって着実に研究計画に沿って進めることを目指す。2年次にかけてデータ収集・分析を実施し中間発表（10月）を経て12月中旬から下旬にかけて修士論文提出を目標とする。尚、教員や他の大学院生からのピアフィードバックを参考にして加筆・修正を経て修士論文を完成し提出すること。夏期・冬期・春期休暇等の期間を活用して各研究室において面接指導やゼミナールを実施して年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施する予定である。